

第二條 大藏大臣ハ前條第一項ノ借入金ニ代ヘ當該會計年度内ニ限り國庫餘裕金ヲ繰替使用スルコトヲ得
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五類 國債ニ關スル會計法規

● 國債整理基金特別會計法

明治三十九年三月二日
法律第六號

改正 (一) 大正四年六月二十一日
法律第十四號

(二) 大正八年三月二十五日
法律第十四號

(三) 大正九年八月五日
法律第三十八號

(四) 大正十三年七月二十二日
法律第八號

(五) 昭和二年三月二十九日
法律第四號

(六) 昭和十二年三月三十日
法律第十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國債整理基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國債整理基金特別會計法

第一條 國債整理基金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス
國債整理基金ハ國債ノ償還發行ニ關スル費途ニ使用スルモノトス

第二條 國債整理基金ニ充ツヘキ資金ハ毎年度一般會計又ハ特別會計ヨリ之ヲ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ(二)
前項繰入額ノ中國債ノ元金償還ニ充ツヘキ金額ハ前年度首ニ於ケル國債總額ノ萬分ノ百十六以上トシ三千萬圓ヲ下ルコト
ヲ得サルモノトス(一、二)

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ大藏省證券、借入金、臨時國庫證券、米穀證券及蠶絲證券ハ之ヲ國債ト看做サス(一、二、四、六)
(參照) 震災手形善後處理法第八條、兌換銀行券整理法第四條及臨時軍事費特別會計法第三條

第二條ノ二 國債ノ元金償還ニ充ツル爲前條ノ繰入額ノ外毎年度其ノ前前年度ニ於テ一般會計ノ歲計上新ニ生シタル剩餘金
ノ四分ノ一ヲ下ラサル金額ヲ一般會計ヨリ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ(五追加)
前項ノ剩餘金ノ計算ニ付テハ之ヲ生シタル年度ヨリ翌年度ニ繰越シタル歲出豫算ノ財源ニ充ツヘキ額ヲ算入セサルモノト
ス(五追加)

第三條 國債借換ニ依ル募集基金ノ他ノ收入金ハ直接ニ之ヲ國債整理基金特別會計ニ編入スヘシ

第五類 國債ニ關スル會計法規 國債整理基金特別會計法

第四條 國債整理基金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得(五)

前項ノ運用ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第五條 政府ハ國債ノ整理又ハ償還ノ爲必要ナル額ヲ限度トシ起債スルコトヲ得(三)

第六條 政府ハ計算上利益アリト認ムルトキハ額面以上ニテモ買入銷却ヲ爲スコトヲ得

第七條 國債整理基金ノ運用ヨリ生スル損益ハ本特別會計ノ所屬トシテ整理スルモノトス

第八條 國債整理基金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ翌年度ヘ繰越スヘシ

國債整理基金特別會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次繰越使用スルコトヲ得

第九條 政府ハ毎年國債整理基金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

附則

第十條 本法ハ明治三十九年度ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 本法施行前一般會計ニ收入シタル借換國債ノ募集金ニシテ本法施行ノ日ニ於ケル現在額ハ之ヲ本特別會計ニ繰入ルヘシ

明治三十八年度一般會計ニ於テ前項借換國債ノ募集金ヲ以テスル國債償還ノ歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ本特別會計ニ繰越スヘシ

第十二條 償金特別會計法ハ明治三十八年度限り之ヲ廢止ス

償金特別會計ニ屬スル現金、有價證券及他ノ會計トノ計算ハ國債整理基金特別會計ニ歸屬スルモノトス

○大正四年法律第十四號附則

本法ハ大正四年度ヨリ之ヲ施行ス

○大正八年法律第十四號附則

本法ハ大正八年度ヨリ之ヲ施行ス

○大正九年法律第三十八號附則

大正五年法律第三十四號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前國債整理基金特別會計法ニ依リ發行シタル國債ノ元金消滅時効ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○大正十三年法律第八號附則

本法ハ大正十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

○昭和二年法律第四號附則

本法ハ昭和二年度ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十二年法律第十七號附則

本法ハ昭和十二年度ヨリ之ヲ施行ス

●兌換銀行券整理法

昭和二年四月一日
法律第四十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル兌換銀行券整理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

兌換銀行券整理法

第一條 日本銀行ガ發行シタル左記種類ノ兌換銀行券ハ昭和十四年三月三十一日限り強制通用ノ效力ヲ失フモノトス但シ政府又ハ日本銀行ニ於テ受入ルル場合ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第一 五圓券

- 一 明治十八年十二月大藏省告示第百六十六號ノ分
- 二 明治二十一年十一月大藏省告示第百四十號ノ分

第五類 國債ニ關スル會計法規 兌換銀行券整理法

- 三 明治三十二年三月大藏省告示第十號ノ分
 - 四 明治四十三年八月大藏省告示第七號ノ分
 - 五 大正五年十二月大藏省告示第六十三號ノ分
- 第二 拾圓券

- 一 明治十八年一月大藏省告示第十二號ノ分
- 二 明治二十三年七月大藏省告示第三十三號ノ分
- 三 明治三十二年九月大藏省告示第五十一號ノ分
- 四 大正四年四月大藏省告示第四十四號ノ分

第三 貳拾圓券

- 一 大正六年十一月大藏省告示第七十六號ノ分

第四 百圓券

- 一 明治十八年八月大藏省告示第十九號ノ分
- 二 明治二十四年十一月大藏省告示第三十六號ノ分
- 三 明治三十三年十二月大藏省告示第五十五號ノ分
- 四 大正六年八月大藏省告示第三十六號ノ分

第二條 日本銀行ハ昭和十四年三月三十一日ニ於ケル前條ノ兌換銀行券ノ發行高ヲ同年四月一日ニ於ケル兌換銀行券發行高ヨリ除去シ且其ノ除去シタル發行高ニ相當スル金額ヲ即日國庫ニ納付スベシ

第三條 第一條ノ期限經過後政府ハ同條ノ兌換銀行券ノ引換義務ヲ承繼ス

前項ノ承繼後ニ於ケル引換ハ日本銀行本支店ニ於テ之ヲ取扱フ

第四條 第二條ノ規定ニ依リ日本銀行ノ納付スル金額中減失ノ爲前條ノ引換ノ請求ナシト認ムル兌換銀行券ノ額ニ相當スル金額ハ國債整理基金特別會計法第二條ノ規定ニ依ル繰入ノ外之ヲ國債償還ニ充ツル爲漸次一般會計ヨリ國債整理基金特別會計ニ繰入レ其ノ殘餘ニ相當スル金額ハ前條ノ規定ニ依ル引換ノ準備金トシテ日本銀行ヲシテ之ヲ保管セシムベシ

● 昭和七年度以降國債償還資金ノ繰入一部停止ニ

關スル件

昭和七年六月十八日
法律第八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル昭和七年度以降國債償還資金ノ繰入一部停止ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
昭和七年度以降當分ノ內國債整理基金特別會計法第二條ノ規定ニ依リ繰入ルベキ元金償還資金ハ前年度首ニ於ケル國債總額ノ萬分ノ百十六ニ相當スル金額ノ三分ノ一以上トシ同法第二條ノ二ノ規定ニ依ル元金償還資金ノ繰入ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ國債償還資金ノ繰入一部停止ヲ爲シタル年度ニ於テハ震災手形善後處理法第八條但書ノ規定ニ依リ繰入ヲ要セザル金額ハ同法ニ依リ發行シタル公債ノ前年度首ニ於ケル未償還額ノ萬分ノ百十六ニ相當スル金額ノ三分ノ一トス

附則

本法ハ昭和七年度ヨリ之ヲ施行ス

● 公債金特別會計法

大正八年三月二十五日
法律第十五號

改正 (一) 大正九年七月二十九日
法律第九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル公債金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第五類 國債ニ關スル會計法規

昭和七年度以降國債償還資金ノ繰入一部停止ニ關スル件
公債金特別會計法

公債金特別會計法

第一條 各種ノ經費ノ支辨ニ充ツヘキ公債金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ(一)

第二條 公債金ヲ使用セムトスルトキハ之ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ屬スル會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ(一)

第三條 公債金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第四條 本會計ハ公債ノ發行ニ依ル收入金、運用利殖金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ第二條及第六條ノ規定ニ依ル繰入金ヲ以テ其ノ歳出トス

第五條 公債金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ

本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第六條 公債金ハ之ヲ以テ支辨スヘキ經費毎ニ區分整理シ其ノ經費ヲ要セサルニ至リタル後剩餘アルトキハ之ヲ其ノ經費ノ屬シタル會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ(一)

第七條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條 本法ハ大正五年法律第四號ニ依リ發行スル公債ノ收入金ニ關シテハ之ヲ適用セス(一)

附則

本法ハ大正八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

事業公債及鐵道公債特別會計法、朝鮮事業公債金特別會計法ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際前項ノ各特別會計ニ屬スル公債金ハ之ヲ本會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

○大正九年法律第九號附則

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六類 國債ニ對スル課稅法規

● 所得税法(抜抄)

大正九年七月三十一日
法律第十一號

改正(二) 大正十二年三月二十七日
法律第八號

(三) 大正十二年三月二十九日
法律第二十九號

(五) 大正十五年三月二十七日
法律第八號

(七) 昭和十三年三月三十一日
法律第四十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル所得税法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得税法

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ所得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 第一條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得税ヲ納ムル義務アルモノトス
(一、三、五)

一 (略)

二 本法施行地ニ於テ公債、社債又ハ銀行預金ノ利子若ハ貸付信託ノ利益ノ支拂ヲ受クルトキ
(略)

第三條 所得税ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス(一、三、五)

第一種 (略)

第二種

甲 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

(略)

第十三條 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル(略)(七)

第六類 國債ニ對スル課税法規 所得税法

第十七條 北海道府縣市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得税ヲ課セス(五)

第二十二條 第二種ノ所得ニ對スル所得税ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

- 甲 公債ノ利子 百分ノ四
- 其ノ他 百分ノ五

(略)

第六十七條 (第一項略)

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得税ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

(略)

附則

第七十八條 本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

○大正十二年法律第八號附則

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

○大正十二年法律第二十九號附則

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

○大正十五年法律第八號附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
(略)
○昭和十三年法律第四十三號附則
本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
(略)

●資本利子稅法(抜抄)

大正十五年三月二十七日
法律第十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル資本利子稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

資本利子稅法

第二條 資本利子稅ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付之ヲ賦課ス

甲種 公債、社債、産業債券若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

乙種 (略)

第三條 甲種ノ資本利子ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第五條 甲種ノ資本利子ニシテ左ニ掲クルモノニハ資本利子稅ヲ課セス

- 一 所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレサル者ノ支拂ヲ受クル利子
- 二 (略)

第六條 資本利子稅ノ稅率ハ資本利子金額百分ノ二トス

(略)

第六類 國債ニ對スル課稅法規 資本利子稅法

第十五條 甲種ノ資本利子ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ資本利子税ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

(略)

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

●臨時租税増徴法(抜抄)

昭和十二年三月三十日
法律第三號

改正(一) 昭和十三年三月三十一日
法律第四十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臨時租税増徴法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時租税増徴法

第三條 所得税法第四條ノ規定ニ依リ法人ノ普通所得ヲ計算スル場合ニ於テハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間ノ利子額百分ノ七十二ニ相當スル金額ヲ申請ニ依リ其ノ普通所得ヨリ控除ス

(略)

第五條 所得税中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得税ニ付テハ所得税法第二十二條第一項ノ規定ニ拘ラズ左ノ税率ニ依リ之

ヲ賦課ス(一)

- 甲 國債ノ利子 百分ノ二
- 國債以外ノ公債ノ利子 百分ノ六
- 其ノ他 百分ノ七・五

(略)

第九條 資本利子税ニ付テハ資本利子税法第六條ニ規定スル税率百分ノ二ヲ百分ノ四トシタル場合ノ差増額ニ相當スル税額ヲ増徴ス但シ貯蓄銀行ノ所有スル國債ノ利子ニ對スル資本利子税ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

第二十一條 本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 左ノ法律ハ之ヲ廢止ス

一 明治四十二年法律第七號

(略)

○昭和十三年法律第四十二號附則

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

(參照)

明治四十二年三月二十日法律第七號ハ國債ノ利子所得税免除ニ關スル条件ナリ

●外貨債特別税法(抜抄)

昭和十二年三月三十日
法律第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外貨債特別税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外貨債特別税法

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ニシテ外貨債ヲ所有スル者ニハ本法ニ依リ外貨債特別税ヲ課ス

第六類 國債ニ對スル課税法規

臨時租税増徴法 外貨債特別税法

本法ニ於テ外貨債ト稱スルハ外國通貨ヲ以テ表示スル國債及地方債並ニ日本法人ノ發行シタル社債ヲ謂フ

第二條 外貨債特別税ハ外貨債利子ニ付之ヲ賦課ス

(略)

第三條 外貨債利子ハ一月一日ヨリ六月三十日迄及七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ各期間中ニ於テ收入シタル外貨債ノ利子金額ニ依ル(略)

第四條 左ニ掲グル利子ニハ外貨債特別税ヲ課セズ

- 一 所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得税ヲ課セラレザル者ノ所有ニ屬スル外貨債ノ利子
- 二 證券ガ本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム)内ニ在ラザル外貨債ノ利子
- 三 利率年五分以下ノ外貨國債ノ利子

(略)

第五條 外貨債特別税ハ外貨債利子金額中外貨國債ニ在リテハ利率年五分、外貨國債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年五分五厘ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ニ十分ノ七ヲ乘ジタル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第六條 外貨債特別税ニ付納税義務アル者ハ外貨債利子金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十八條 外貨債特別税ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得税(第一種所得税ヲ除ク)又ハ資本利子税ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ外貨債特別税相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子金額ト看做ス

附則

本法ハ支拂期ガ昭和十二年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

●有價證券移轉税法(抜抄)

昭和十二年三月三十日
法律第七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル有價證券移轉税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

有價證券移轉税法

第一條

有價證券ノ賣買、交換、贈與、遺贈其ノ他ノ原因ニ因ル移轉アリタルトキハ本法ニ依リ有價證券移轉税ヲ課ス

第二條

本法ニ於テ有價證券トハ國債證券、地方債證券、社債券、産業債券、商工債券及株券並ニ外國又ハ外國法人ノ發行スル此等ノ性質ヲ有スル證券ヲ謂フ

第三條

甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テノ名義變更及會社ノ社員ノ持分ノ移轉ハ之ヲ有價證券ノ移轉ト看做ス

第四條

有價證券移轉税ハ有價證券ノ取得者之ヲ納ムベシ

第五條

有價證券移轉税ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納ムベシ

第一種

有價證券仲買人ヲ買受人トスル賣買取引ニ因ル移轉

國債證券

取得價額 萬分ノ一

其ノ他ノ有價證券

取得價額 萬分ノ二

第二種

第一種以外ノ移轉

甲

取引所ノ實物市場ニ於ケル賣買取引ニ因ル移轉

國債證券

取得價額 萬分ノ二

其ノ他ノ有價證券

取得價額 萬分ノ四

乙

其ノ他

國債證券

取得價額 萬分ノ四

其ノ他ノ有價證券

取得價額 萬分ノ八

第六條

前條ノ取得價額ハ賣買ニ因ル移轉ニ付テハ賣買價額ニ依リ其ノ他ノ原因ニ因ルモノニ付テハ移轉ノ時ノ價格ニ依ル

第六類 國債ニ對スル課税法規

有價證券移轉税法

第七條 有價證券移轉税ハ總テ一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス
第八條 營利ヲ目的トセザル法人ニシテ所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ所得税ヲ課セラレザル者ハ有價證券移轉税ヲ納ムルコトヲ要セズ

第九條 左ニ掲グル有價證券ニ付テハ有價證券移轉税ヲ納ムルコトヲ要セズ
一 一年内ノ期限ヲ以テ發行スル國債證券

二 (略)

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル有價證券ノ移轉ニ付テハ有價證券移轉税ヲ納ムルコトヲ要セズ

一 相續、法人ノ合併又ハ保險業法第十三條ノ五ノ規定ニ依ル保險契約ノ全部ノ移轉ニ因ル有價證券ノ移轉

二 日本銀行ヲ賣買ノ當事者トスル國債證券ノ移轉

三 信託ノ場合ニ於ケル委託者ヨリ受託者ヘノ有價證券ノ移轉

四 信託終了ノ場合ニ於ケル受託者ヨリ委託者又ハ其ノ相續人ヘノ有價證券ノ移轉

五 消費貸借及其ノ終了ノ場合ニ於ケル無記名有價證券ノ移轉

六 短期清算取引ニ於ケル受渡調節ノ爲ノ賣買取引ヲ業トスル會員又ハ取引員ノ代引ニ因ル有價證券ノ移轉

七 (略)

八 賣出ノ方法ニ依リ發行スル場合ノ有價證券ノ移轉

第十一條 國債、地方債又ハ社債ノ總額ヲ契約ニ依リ引受ケタル者又ハ募集ノ委託ヲ受ケ自ラ其ノ一部ヲ引受ケタル者ヨリノ引受ケタル有價證券ノ移轉ニ付テハ發行ノ日ヨリ一年内ニ限り有價證券移轉税ヲ納ムルコトヲ要セズ下引受ヲ爲シタル者ヨリノ下引受ヲ爲シタル有價證券ノ移轉ニ付亦同ジ

第十二條 有價證券移轉税ハ有價證券ノ移轉毎ニ移轉當事者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ作成スル有價證券移轉書ニ印紙ヲ貼用

シテ之ヲ納ムベシ

有價證券仲買人ノ取扱ニ依ル有價證券ノ移轉ニ付テハ前項ノ規定ニ依ラズ移轉ノ際有價證券仲買人其ノ税金ヲ徴收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ有價證券仲買人ヲ移轉當事者トスル有價證券ノ移轉ニ付亦同ジ

第十四條 本法ニ於テ有價證券仲買人トハ有價證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ
附則

本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●支那事變特別税法(抜抄)

昭和十三年三月三十一日
法律第五十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル支那事變特別税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
支那事變特別税法

第一條 當分ノ内本法ニ依リ所得税、法人資本税、砂糖消費税及取引所税ヲ増徴シ利益配當税、公債及社債利子税、通行税、入場税、特別入場税及物品税ヲ課ス

第四條 所得税中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得税ニ付テハ所得税法第二十二條第一項及臨時租税増徴法第五條ノ規定ニ拘ラス左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲

國債ノ利子

利率年四分以下ノモノ

百分ノ二

利率年四分ヲ超ユルモノ

百分ノ二・五

第六類 國債ニ對スル課税法規

支那事變特別税法

國債以外ノ公債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ

百分ノ六・五

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ

百分ノ七・五

社債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ

百分ノ八

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ

百分ノ九・五

其ノ他

百分ノ八

(略)

第十五條 公債及社債利子税ハ本法施行地ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得税ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子税ヲ課セズ

第十六條 公債及社債利子税ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債(外貨債特別税法第一條第二項ニ規定スル外貨

債ヲ除ク)ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五

厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第十七條 公債及社債利子税ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十八條 利益配當税ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子税ヲ課セラルル公債又ハ社債ノ利子ニ付所得税(第一種

所得税ヲ除ク)又ハ資本利子税ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配當税又ハ公債及社債利子

税相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

附則

第六十四條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十五條 北支事件特別税法ハ之ヲ廢止ス

(略)其ノ他昭和十三年三月三十一日以前ニ於テ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ北支事件特別税ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

前項ノ規定ニ依ル北支事件特別税ノ收入ハ之ヲ臨時軍事費特別會計ノ歲入トス

第七十二條 明治四十年法律第二十一號第一條第一項ニ左ノ六號ヲ加フ

(略)

十三 公債及社債利子税

(略)

第七十六條 本法ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

●朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル件(抜抄)

明治四十四年三月二十五日
法律第三十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 朝鮮ニ於テハ法律ヲ要スル事項ハ朝鮮總督ノ命令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得

第二條 前條ノ命令ハ內閣總理大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ

附則

第六條 第一條ノ命令ハ制令ト稱ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

第六類 國債ニ對スル課税法規

朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル件

●朝鮮所得稅令(抜抄)

昭和九年四月三十日
制令第六號

改正(三)昭和十二年三月三十一日 (五)昭和十三年三月三十一日
制令第二號 制令第九號

朝鮮所得稅令改正ノ件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス
朝鮮所得稅令左ノ通改正ス

朝鮮所得稅令

第一條 朝鮮ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セザル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

(五)

一 (略)

二 朝鮮ニ於テ公債、社債、朝鮮金融債券若ハ銀行預金(東洋拓殖株式會社ノ預金ヲ含ム)ノ利子又ハ貸付信託ノ利益ノ支拂ヲ受クルトキ

(略)

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス但シ貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子ニハ之ヲ課セズ(三、五)

第一種 (略)

第二種

甲 朝鮮ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、朝鮮金融債券若ハ銀行預金(東洋拓殖株式會社ノ預金ヲ含ム)ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

(略)

第十四條 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル(略)(五)

第二十條 左ニ掲グルモノニハ所得稅ヲ課セズ

一 朝鮮總督ノ指定スル公共團體

二 朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人其ノ他之ニ類スルモノニシテ朝鮮總督ノ指定スルモノ

第三十五條 第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス(五)

甲 公債ノ利子

百分ノ二

其ノ他

百分ノ三

(略)

第五十七條 (第一項略)

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

(略)

附則

第七十一條 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム(昭和九年朝鮮總督府令第四十二號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行)

第九條 本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十二年制令第二號附則

○昭和十三年制令第九號附則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

第六類 國債ニ對スル課稅法規

朝鮮所得稅令

●朝鮮資本利子税令(抜抄)

昭和十二年三月三十一日
制令第五號

朝鮮資本利子税令改正ノ件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス
朝鮮資本利子税令左ノ通改正ス

朝鮮資本利子税令

第二條 資本利子税ハ朝鮮ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付之ヲ賦課ス

甲種 公債、社債、朝鮮金融債券若ハ銀行預金(東洋拓殖株式會社ノ預金ヲ含ム)ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

乙種 (略)

第三條 甲種ノ資本利子ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル

第五條 甲種ノ資本利子ニシテ左ニ掲グルモノニハ資本利子税ヲ課セズ

一 朝鮮所得税令第二十條ノ規定ニ依リ所得税ヲ課セラレザル者ノ支拂ヲ受クル利子

二 (略)

第六條 資本利子税ノ税率ハ資本利子金額百分ノ二トス

(略)

第十三條 甲種ノ資本利子ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ資本利子税ヲ徴收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

(略)

附則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮臨時租税増徴令(抜抄)

昭和十二年三月三十一日
制令第二號

朝鮮臨時租税増徴令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス
朝鮮臨時租税増徴令

第三條 朝鮮所得税令第六條ノ規定ニ依リ法人ノ普通所得ヲ計算スル場合ニ於テハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間ノ利子額百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ申請ニ依リ其ノ普通所得ヨリ控除ス

(略)

第四條 第二種ノ所得中國債ノ利子ニ對スル所得税ニ付テハ朝鮮所得税令第三十五條第一項ノ規定ニ拘ラズ百分ノ一ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

第六條 資本利子税ニ付テハ朝鮮資本利子税令第六條ニ規定スル税率百分ノ二ヲ百分ノ三トシタル場合ノ差増額ニ相當スル税額ヲ増徴ス但シ貯蓄銀行ノ所有スル國債ノ利子ニ對スル資本利子税ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

第九條 本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 朝鮮所得税令第三條中「國債又ハ」ヲ削ル

●朝鮮外貨債特別税令(抜抄)

昭和十二年三月三十一日
制令第四號

朝鮮外貨債特別税令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス
朝鮮外貨債特別税令

朝鮮外貨債特別税令

第一條 朝鮮ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ニシテ外貨債ヲ所有スル者ニハ本令ニ依リ外貨債特別税ヲ課ス

第六類 國債ニ對スル課税法規

朝鮮資本利子税令

朝鮮臨時租税増徴令

朝鮮外貨債特別税令

五五三

本令ニ於テ外貨債ト稱スルハ外國通貨ヲ以テ表示スル國債及地方債並ニ日本法人ノ發行シタル社債ヲ謂フ

第二條 外貨債特別税ハ外貨債利子ニ付之ヲ賦課ス

(略)

第三條 外貨債利子ハ一月一日ヨリ六月三十日迄及七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ各期間中ニ於テ收入シタル外貨債ノ利子金額ニ依ル

(略)

第四條 左ニ掲グル利子ニハ外貨債特別税ヲ課セズ

- 一 朝鮮所得税令第二十條ノ規定ニ依リ所得税ヲ課セラレザル者ノ所有ニ屬スル外貨債ノ利子
- 二 證券ガ本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム)内ニ在ラザル外貨債ノ利子
- 三 利率年五分以下ノ外貨國債ノ利子

(略)

第五條 外貨債特別税ハ外貨債利子金額中外貨國債ニ在リテハ利率年五分、外貨國債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年五分五厘ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ニ十分ノ七ヲ乗ジタル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第六條 外貨債特別税ニ付納義務アル者ハ外貨債利子金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十七條 外貨債特別税ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得税(第一種所得税ヲ除ク)又ハ資本利子税ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ外貨債特別税相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子金額ト看做ス

附則

本令ハ支拂期ガ昭和十二年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

●朝鮮支那事變特別税令(抜抄)

昭和十三年三月三十一日
制令第十二號

朝鮮支那事變特別税令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮支那事變特別税令

第一條 當分ノ内本令ニ依リ所得税、法人資本税、砂糖消費税及取引所税ヲ増徴シ利益配當税、公債及社債利子税、通行税、入場税、特別入場税及物品税ヲ課ス

第四條 所得税中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得税ニ付テハ朝鮮所得税令第三十五條第一項及朝鮮臨時租税増徴令第四條ノ規定ニ拘ラズ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲

國債ノ利子

利率年四分以下ノモノ

百分ノ一

利率年四分ヲ超ユルモノ

百分ノ一・三

國債以外ノ公債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ

百分ノ二・二

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ

百分ノ二・六

社債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ

百分ノ三・三

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ

百分ノ三・九

其ノ他

百分ノ三・三

第六類 國債ニ對スル課税法規

朝鮮支那事變特別税令

(略)

第十四條 公債及社債利子税ハ朝鮮ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

朝鮮所得稅令第二十條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子税ヲ課セズ

第十五條 公債及社債利子税ハ朝鮮ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債(朝鮮外貨債特別稅令第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク)ノ利子ニ付テハ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘

ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十二ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十六條 公債及社債利子税ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十七條 利益配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子税ヲ課セラルル公債又ハ社債ノ利子ニ付所得稅(第一種所得稅ヲ除ク)又ハ資本利子税ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配當稅又ハ公債及社債利子

稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

附則

第六十條 本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十六條 昭和十三年八月十一日以前ニ受クル利益ノ配當及支拂期ガ昭和十三年八月十一日以前ニ在ル公債又ハ社債ノ利

子ニ對シテハ利益配當稅又ハ公債及社債利子税ニ關スル規定ヲ適用セズ

第七十三條 本令ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

●臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル件(抜抄)

大正十年三月十五日 法律第三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法律ノ全部又ハ一部ヲ臺灣ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ官廳又ハ公署ノ職權、法律上ノ期間其ノ他ノ事項ニ關シ臺灣特殊ノ事情ニ因リ特例ヲ設クル必要アルモノニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二條 臺灣ニ於テ法律ヲ要スル事項ニシテ施行スヘキ法律ナキモノ又ハ前條ノ規定ニ依リ難キモノニ關シテハ臺灣特殊ノ事情ニ因リ必要アル場合ニ限り臺灣總督ノ命令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得

附則

本法ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十九年法律第六十三號又ハ明治三十九年法律第三十一號ニ依リ臺灣總督ノ發シタル命令ニシテ本法施行ノ際現ニ效力ヲ有スルモノニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

●臺灣所得稅令(抜抄)

大正十年四月十四日 律令第四號

改正(七) 昭和十二年三月三十一日 (八) 昭和十三年三月三十一日 律令第一號 律令第三號

臺灣所得稅令改正ノ件明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

臺灣所得稅令

第一條 臺灣ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

(八)

一 (略)

第六類 國債ニ對スル課稅法規 臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル件 臺灣所得稅令

二 臺灣ニ於テ公債、社債又ハ銀行預金(臺灣拓殖株式會社ノ預金ヲ含ム)ノ利子支拂ヲ受クルトキ
(略)

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス但シ貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子ニハ之ヲ課セス(七、八)

第一種 (略)

第二種

甲 臺灣ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ銀行預金(臺灣拓殖株式會社ノ預金ヲ含ム)ノ利子

(略)

第四條 (第一項略)

法人カ國債ヲ所有スル場合ニ於テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間ノ利子額百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ普通所得ヨリ控除ス(七追加)

第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人ノ普通所得ハ臺灣ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前二項ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス(七)

(略)

第十四條 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル(略)(八)

第十八條 左ニ掲クルモノニハ所得稅ヲ課セス

一 臺灣總督ノ指定スル公共團體

二 民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人其ノ他之ニ類スルモノニシテ臺灣總督ノ指定スルモノ

第二十六條 第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス(七、八)

甲 國債ノ利子 百分ノ二

國債以外ノ公債ノ利子 百分ノ六

其ノ他

百分ノ七・五

(略)

第四十五條 (第一項略)

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ
(略)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(略)

○昭和十二年律令第一號附則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

○昭和十三年律令第三號附則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

●臺灣資本利子稅令(拔抄)

昭和十二年三月三十一日
律令第五號

臺灣資本利子稅令大正十年法律第三號ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

臺灣資本利子稅令

第二條 資本利子稅ハ臺灣ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付之ヲ賦課ス

甲種 公債、社債又ハ銀行預金(臺灣拓殖株式會社ノ預金ヲ含ム)ノ利子

第六類 國債ニ對スル課稅法規 臺灣資本利子稅令

乙種 (略)

第三條 甲種ノ資本利子ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル

(略)

第五條 甲種ノ資本利子ニシテ左ニ掲グルモノニハ資本利子税ヲ課セズ

一 臺灣所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ノ支拂ヲ受クル利子

二 (略)

第六條 資本利子税ノ稅率ハ資本利子金額百分ノ二トス但シ貯蓄銀行ノ所有スル國債ノ利子ニ對スル資本利子税ノ稅率ハ資本利子金額百分ノ一トス

本利子金額百分ノ一トス

第十一條 甲種ノ資本利子ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ資本利子税ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

(略)

附則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

●臺灣外貨債特別稅令(拔抄)

昭和十二年三月三十一日 律令第三號

臺灣外貨債特別稅令大正十年法律第三號ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

臺灣外貨債特別稅令

第一條 臺灣ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ニシテ外貨債ヲ所有スル者ニハ本令ニ依リ外貨債特別稅ヲ課ス

本令ニ於テ外貨債ト稱スルハ外國通貨ヲ以テ表示スル國債及地方債並ニ日本法人ノ發行シタル社債ヲ謂フ

第二條 外貨債特別稅ハ外貨債利子ニ付之ヲ賦課ス

第三條 外貨債利子ハ一月一日ヨリ六月三十日迄及七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ各期間中ニ於テ收入シタル外貨債ノ利子金額ニ依ル(略)

第四條 左ニ掲グル利子ニハ外貨債特別稅ヲ課セズ

一 臺灣所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ノ所有ニ屬スル外貨債ノ利子

二 證券ガ本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム)内ニ在ラザル外貨債ノ利子

三 利率年五分以下ノ外貨國債ノ利子

(略)

第五條 外貨債特別稅ハ外貨債利子金額中外貨國債ニ在リテハ利率年五分、外貨國債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年五分五厘ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ニ十分ノ七ヲ乘ジタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第六條 外貨債特別稅ニ付納稅義務アル者ハ外貨債利子金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十八條 外貨債特別稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得稅(第一種所得稅ヲ除ク)又ハ資本利子税ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ外貨債特別稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子金額ト看做ス

附則

本令ハ支拂期ガ昭和十二年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

●臺灣支那事變特別稅令(拔抄)

昭和十三年三月三十一日 律令第一號

●臺灣支那事變特別稅令(拔抄)

昭和十三年三月三十一日 律令第一號

臺灣支那事變特別稅令大正十年法律第三號ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

臺灣支那事變特別稅令

第一條 當分ノ内本令ニ依リ所得稅、法人資本稅及出港稅ヲ增徴シ利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別

第六類 國債ニ對スル課稅法規 臺灣外貨債特別稅令 臺灣支那事變特別稅令

入場税及物品税ヲ課ス

第四條 所得税中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得税ニ付テハ臺灣所得税令第二十六條ノ規定ニ拘ラズ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲

國債ノ利子

利率年四分以下ノモノ

百分ノ二

利率年四分ヲ超ユルモノ

百分ノ二・五

國債以外ノ公債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ

百分ノ六・五

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ

百分ノ七・五

社債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ

百分ノ八

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ

百分ノ九・五

其ノ他

百分ノ八

(略)

第十二條 公債及社債利子税ハ臺灣ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

臺灣所得税令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得税ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子税ヲ課セズ

第十三條 公債及社債利子税ハ臺灣ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債(臺灣外貨債特別税令第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク)ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘

ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第十四條 公債及社債利子税ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徴收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十五條 利益配當税ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子税ヲ課セラルル公債又ハ社債ノ利子ニ付所得税(第一種

所得税ヲ除ク)又ハ資本利子税ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配當税又ハ公債及社債利子税相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

附則

第五十九條 本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ利益配當税及公債及社債利子税ニ關スル規定ハ昭和十三年八月十二日ヨリ之ヲ施行ス

第六十五條 本令ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

●關東州所得税令(抜抄)

昭和十二年六月二十六日
勅令第二百八十九號

改正(二)昭和十三年四月一日
勅令第二百十號

朕關東州所得税令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關東州所得税令

第一條 關東州ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ所得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セザル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得税ヲ納ムル義務アルモノトス(二)

一(略)

第六類 國債ニ對スル課税法規 關東州所得税令

二 關東州ニ於テ公債、社債又ハ銀行預金(東洋拓殖株式會社ノ預金ヲ含ム)ノ利子支拂ヲ受クルトキ
(略)

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス但シ貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子ニハ之ヲ課セズ(二)

第一種 (略)

第二種

甲 關東州ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ銀行預金(東洋拓殖株式會社ノ預金ヲ含ム)ノ利子

(略)

第四條 (第一項略)

前項ノ規定ニ依リ法人ノ普通所得ヲ計算スル場合ニ於テハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間ノ利子額百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ申請ニ依リ其ノ普通所得ヨリ控除ス

第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人ノ普通所得ハ關東州ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前二項ノ規定ニ準ジ之ヲ計算ス

(略)

第十二條 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル(略)(二)

第十七條 左ニ掲グル者ニハ所得稅ヲ課セズ

一 大使ノ指定スル公共團體

二 關東州裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人其ノ他之ニ類スルモノ

ニシテ大使ノ指定スルモノ

第二十七條 第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 國債ノ利子

其ノ他

百分ノ一・五

(略)

百分ノ三

第五十條 (第一項略)

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ
(略)

附則

第六十條 本令ハ昭和十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

○昭和十三年勅令第二百十號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

●關東州外貨債特別稅令(抜抄)

昭和十二年十二月八日
勅令第七百十號

朕關東州外貨債特別稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關東州外貨債特別稅令

第一條 關東州ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ニシテ外貨債ヲ所有スル者ニハ本令ニ依リ外貨債特別稅ヲ課ス

本令ニ於テ外貨債ト稱スルハ外國通貨ヲ以テ表示スル國債及地方債並ニ日本法人ノ發行シタル社債ヲ謂フ

第二條 外貨債特別稅ハ外貨債利子ニ付之ヲ賦課ス

第六類 國債ニ對スル課稅法規

關東州外貨債特別稅令

第三條 外貨債利子ハ一月一日ヨリ六月三十日迄及七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ各期間中ニ於テ收入シタル外貨債ノ利子金額ニ依ル(略)

第四條 左ニ掲グル利子ニハ外貨債特別税ヲ課セズ

- 一 關東州所得税令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得税ヲ課セラレザル者ノ所有ニ屬スル外貨債ノ利子
- 二 證券ガ本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム)内ニ在ラザル外貨債ノ利子
- 三 利率年五分以下ノ外貨國債ノ利子

(略)

第五條 外貨債特別税ハ外貨債利子金額中外貨國債ニ在リテハ利率年五分、外貨國債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年五分五厘ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ニ十分ノ七ヲ乗ジタル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第六條 外貨債特別税ニ付納税義務アル者ハ外貨債利子金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十四條 外貨債特別税ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得税(第一種所得税ヲ除ク)ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ外貨債特別税相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子金額ト看做ス

附則

本令ハ支拂期ガ昭和十二年七月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

●關東州支那事變特別税令(抜抄)

昭和十三年四月一日
勅令第二百十三號

朕關東州支那事變特別税令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關東州支那事變特別税令

第一條 當分ノ内本令ニ依リ所得税ヲ増徴シ利益配當税、公債及社債利子税、通行税、入場税、特別入場税及物品税ヲ課ス

第四條 所得税中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得税ニ付テハ關東州所得税令第二十七條ノ規定ニ拘ラズ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲

國債ノ利子

利率年四分以下ノモノ

百分ノ一・五

利率年四分ヲ超ユルモノ

百分ノ一・八七

國債以外ノ公債及社債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ

百分ノ三・二

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ

百分ノ三・七五

其ノ他

百分ノ三・二

(略)

第十二條 公債及社債利子税ハ關東州ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

關東州所得税令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得税ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子税ヲ課セズ

第十三條 公債及社債利子税ハ關東州ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債(關東州外貨債特別税令第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク)ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十二ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第十四條 公債及社債利子税ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十五條 利益配當税ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子税ヲ課セラルル公債若ハ社債ノ利子ニ付所得税(第一種所得税ヲ除ク)ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配當税又ハ公債及社債利子税相當額ヲ控除

第六類 國債ニ對スル課税法規

關東州支那事變特別税令

シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

附則

第五十四條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十七條 昭和十三年八月二十六日以前ニ受クル利益ノ配當及支拂期ノ昭和十三年八月二十六日以前ニ在ル公債又ハ社債ノ利子ニ對シテハ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ニ關スル規定ヲ適用セズ

第六十一條 本令ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

●樺太ニ於ケル租稅ニ關スル件(抜抄)

明治四十年三月二十七日
法律第二十一號

改正(一) 大正九年七月三十一日
法律第十三號

(七) 昭和十二年三月三十一日
法律第三十一號

(九) 昭和十三年三月三十一日
法律第五十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太ニ於ケル租稅ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 樺太ニ於テハ左ニ掲クル租稅ヲ賦課徵收ス

一 (略)

二 所得稅(一追加)

(略)

八 資本利子稅(七追加)

九 外貨債特別稅(七追加)

(略)

十三 公債及社債利子稅(九追加)

(略)

前項租稅ノ種類及課率ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 本法ニ規定スルモノノ外租稅ノ賦課徵收其ノ他必要ナル事項ニ關スル規程ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大正九年法律第十三號附則

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

○昭和十二年法律第三十一號附則

本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十三年法律第五十一號附則

第六十四條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

●樺太所得稅令(抜抄)

大正十一年四月十五日
勅令第二百二號

改正(五) 昭和十二年三月三十一日
勅令第七十一號

(六) 昭和十三年四月一日
勅令第二百十六號

朕樺太所得稅令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

樺太所得稅令左ノ通改正ス

第六類 國債ニ對スル課稅法規

樺太ニ於ケル租稅ニ關スル件 樺太所得稅令

樺太所得稅令

第一條 樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス
第二條 前條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

(六)

一 (略)

二 樺太ニ於テ公債、社債又ハ銀行預金ノ利子支拂ヲ受クルトキ

(略)

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス但シ貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子ニハ之ヲ課セス(五、六)

第一種 (略)

第二種

甲 樺太ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ銀行預金ノ利子

(略)

第十四條 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル(略)(六)

第十八條 左ニ掲クルモノニハ所得稅ヲ課セス

一 樺太廳長官ノ指定スル公共團體

二 民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人其ノ他之ニ類スルモノニシテ樺太廳長官ノ指定スルモノ

第二十六條 第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 公債ノ利子 百分ノ四

其ノ他 百分ノ五

(略)

第四十五條 (第一項略)

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ
(略)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(略)

○昭和十二年勅令第七十一號附則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十三年勅令第二百十六號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

●樺太資本利子稅令(抜抄)

昭和十二年三月三十一日
勅令第七十四號

朕樺太資本利子稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

樺太資本利子稅令

第二條 資本利子稅ハ樺太ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付之ヲ賦課ス

甲種 公債、社債又ハ銀行預金ノ利子

乙種 (略)

第三條 甲種ノ資本利子ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル

第六類 國債ニ對スル課稅法規 樺太資本利子稅令

(略)

第五條 甲種ノ資本利子ニシテ左ニ掲グルモノニハ資本利子税ヲ課セズ

一 樺太所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ノ支拂ヲ受クル利子

二 (略)

第六條 資本利子税ノ稅率ハ資本利子金額百分ノ二トス但シ貯蓄銀行ノ所有スル國債ノ利子ニ對スル資本利子税ノ稅率ハ資本利子金額百分ノ一トス

第十三條 甲種ノ資本利子ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ資本利子税ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

(略)

附則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

●樺太臨時租稅增徵令(抜抄)

昭和十二年三月三十一日 勅令第七十一號

改正 (三) 昭和十三年三月三十一日 勅令第二百十五號

朕樺太臨時租稅增徵令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

樺太臨時租稅增徵令

第三條 樺太所得稅令第四條ノ規定ニ依リ法人ノ普通所得ヲ計算スル場合ニ於テハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間ノ利子額百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ申請ニ依リ其ノ普通所得ヨリ控除ス

(略)

第五條 所得稅中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ樺太所得稅令第二十六條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス(二)

甲 國債ノ利子 百分ノ二

國債以外ノ公債ノ利子 百分ノ六

其ノ他 百分ノ七・五

(略)

附則

第十條 本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 樺太所得稅令第三條中「國債又ハ」ヲ削ル

○昭和十三年勅令第二百十五號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

●樺太外貨債特別稅令(抜抄)

昭和十二年三月三十一日 勅令第七十五號

朕樺太外貨債特別稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

樺太外貨債特別稅令

第一條 樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ニシテ外貨債ヲ所有スル者ニハ本令ニ依リ外貨債特別稅ヲ課ス

本令ニ於テ外貨債ト稱スルハ外國通貨ヲ以テ表示スル國債及地方債並ニ日本法人ノ發行シタル社債ヲ謂フ

第二條 外貨債特別稅ハ外貨債利子ニ付之ヲ賦課ス

第六類 國債ニ對スル課稅法規

樺太臨時租稅增徵令 樺太外貨債特別稅令

第三條 外貨債利子ハ一月一日ヨリ六月三十日迄及七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ各期間中ニ於テ收入シタル外貨債ノ利子金額ニ依ル(略)

第四條 左ニ掲グル利子ニハ外貨債特別税ヲ課セズ

- 一 樺太所得税令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得税ヲ課セラレザル者ノ所有ニ屬スル外貨債ノ利子
- 二 證券ガ本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム)内ニ在ラザル外貨債ノ利子
- 三 利率年五分以下ノ外貨國債ノ利子

(略)

第五條 外貨債特別税ハ外貨債利子金額中外貨國債ニ在リテハ利率年五分、外貨國債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年五分五厘ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ニ十分ノ七ヲ乘ジタル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第六條 外貨債特別税ニ付納税義務アル者ハ外貨債利子金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十四條 外貨債特別税ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得税(第一種所得税ヲ除ク)又ハ資本利子税ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ外貨債特別税相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子金額ト看做ス

附則

本令ハ支拂期ガ昭和十二年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

●樺太支那事變特別税令(抜抄)

昭和十三年四月一日
勅令第二百二十號

朕樺太支那事變特別税令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

樺太支那事變特別税令

第一條 當分ノ内本令ニ依リ所得税及法人資本税ヲ増徴シ利益配當税、公債及社債利子税、通行税、入場税、特別入場税及

物品税ヲ課ス

第四條 所得税中第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得税ニ付テハ樺太所得税令第二十六條及樺太臨時租税増徴令第五條ノ規定ニ拘ラス左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲

國債ノ利子

利率年四分以下ノモノ

百分ノ二

利率年四分ヲ超ユルモノ

百分ノ二・五

國債以外ノ公債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ

百分ノ六・五

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ

百分ノ七・五

社債ノ利子

利率年四分五厘以下ノモノ

百分ノ八

利率年四分五厘ヲ超ユルモノ

百分ノ九・五

其ノ他

百分ノ八

(略)

第十二條 公債及社債利子税ハ樺太ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

樺太所得税令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得税ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子税ヲ課セズ

第十三條 公債及社債利子税ハ樺太ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債(樺太外貨債特別税令第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク)ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘

第六類 國債ニ對スル課税法規

樺太支那事變特別税令

ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第十四條 公債及社債利子税ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徴收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十五條 利益配當税ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子税ヲ課セラルル公債又ハ社債ノ利子ニ付所得税(第一種

所得税ヲ除ク)又ハ資本利子税ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配當税又ハ公債及社債利子
税相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

附則

第五十六條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ利益配當税並ニ公債及社債利子税ニ關スル規定ハ昭和十三年八月十二日ヨ
リ之ヲ施行ス

第六十二條 本令ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

●南洋群島所得稅令(抜抄)

昭和十三年四月一日
勅令第二百二十一號

朕南洋群島所得稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

南洋群島所得稅令

第一條 南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セザル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

一 (略)

二 南洋群島ニ於テ公債、社債又ハ南洋拓殖株式會社預金ノ利子ノ支拂ヲ受クルトキ

(略)

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス但シ貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子ニハ之ヲ課セズ

第一種 (略)

第二種

甲 南洋群島ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ南洋拓殖株式會社預金ノ利子
(略)

第四條 (第一項略)

法人ガ國債ヲ所有スル場合ニ於テハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間ノ利子額百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ申請
ニ依リ其ノ普通所得ヨリ控除ス

第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人ノ普通所得ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前二項ノ規定ニ準ジ之ヲ計算ス
(略)

第十二條 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル(略)

第十七條 左ニ掲グル者ニハ所得稅ヲ課セズ

一 南洋廳長官ノ指定スル公共團體
二 南洋群島裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人其ノ他之ニ類スルモ
ノニシテ南洋廳長官ノ指定スルモノ

第二十七條 第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 國債ノ利子

百分ノ一

國債以外ノ公債ノ利子

百分ノ二

其ノ他

百分ノ三

(略)

第四十九條 (第一項略)

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得税ヲ徴收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ
(略)

第五十八條 本令ハ島民ニハ之ヲ適用セズ

附則

第六十條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(第二項略)

第二種甲ノ所得ニシテ支拂期ノ本令施行前ニ屬スルモノ(略)ニ付テハ本令ヲ適用セズ

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

●教育改善及農村振興基金特別會計法(抜抄)

大正十四年三月三十日
法律第十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル教育改善及農村振興基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教育改善及農村振興基金特別會計法

第五條

本基金ハ國債ヲ以テ之ヲ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ其ノ利殖金ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

附則

本法ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス

●金資金特別會計法(抜抄)

昭和十二年八月十一日
法律第六十一號

改正(一) 昭和十三年三月二十九日
法律第三十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル金資金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

金資金特別會計法

第四條

本資金ハ本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要ナル金額ヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ金、國債、産金、振興債券又ハ總額二千五百萬圓ヲ限リ日本産金振興株式會社株式ニ運用スルコトヲ得(一)

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十二年勅令第四百五十六號ヲ以テ同年八月二十五日ヨリ施行)
兌換銀行券條例第二條第五項ノ借入金及日本銀行金買入法第四條ノ債務ハ本會計ノ負擔トス

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

教育改善及農村振興基金特別會計法 金資金特別會計法

○昭和十三年法律第三十六號附則

第三十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十三年勅令第四百十八號ヲ以テ同年六月十八日ヨリ施行)

●學校及圖書館特別會計規則(拔抄)

明治四十年三月二十七日
勅令第六十號

朕學校及圖書館特別會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

學校及圖書館特別會計規則

第四條 資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産、公債證書其ノ他ノ證券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル不動産、公債證書其ノ他ノ證券ヲ離權シ又ハ他ノ不動産、公債證書其ノ他ノ證券ニ換ヘムトスルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ但シ寄附ニ係ル不動産ハ寄附者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ離權スルコトヲ得ス

附則

本令ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

●大學特別會計規則(拔抄)

大正十年四月十二日
勅令第八十一號

朕大學特別會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大學特別會計規則

第四條 資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産、公債證書其ノ他ノ證券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル不動産、公債證書其ノ他ノ證券ヲ離權シ若ハ他ノ不動産、公債證書其ノ他ノ證券ニ換ヘムトスルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ但シ寄附ニ係ル不動産ハ寄附者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ離權スルコトヲ得ス

附則

本令ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス
(略)

●簡易生命保險特別會計法(拔抄)

大正五年七月十日
法律第四十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル簡易生命保險特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

簡易生命保險特別會計法

第五條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正五年勅令第二百五號ヲ以テ同年八月二十日ヨリ施行)

●簡易生命保險積立金運用規則(拔抄)

大正六年七月十七日
勅令第六十八號

朕簡易生命保險積立金運用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

簡易生命保險積立金運用規則

第四條 積立金ニシテ放資ニ至ラサルモノハ一時之ヲ大藏省預金部又ハ銀行ニ預入シ其ノ他有利且確實ナル有價證券ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得

●對支文化事業特別會計法(拔抄)

大正十二年三月三十一日
法律第三十六號

改正(一)大正十五年三月二十九日
法律第二十九號

(三)昭和十二年三月三十一日
法律第十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル對支文化事業特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

學校及圖書館特別會計規則 大學特別會計規則 簡易生命保險特別會計法 同積立金運用規則 對支文化事業特別會計法

對支文化事業特別會計法

第九條 本會計ノ資金ハ國債ヲ以テ保有シ、大藏省預金部ニ預入レ又ハ對支文化事業調査會ニ諮問シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ他ノ有利且確實ナル方法ヲ以テ之ヲ運用スルコトヲ得(一、三)

附則

本法ハ大正十二年度ヨリ之ヲ施行ス

○大正十五年法律第二十九號附則

本法ハ大正十五年度ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十二年法律第十二號附則

本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●健康保險特別會計法(抜抄)

大正十五年三月二十九日
法律第二十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル健康保險特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

健康保險特別會計法

第九條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●健康保險積立金運用規則(抜抄)

昭和五年二月二十七日
勅令第三十四號

朕健康保險積立金運用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

健康保險積立金運用規則

第二條 積立金ハ國債ヲ以テ之ヲ保有シ又ハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便年金特別會計法(抜抄)

大正十五年三月三十日
法律第四十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郵便年金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便年金特別會計法

第四條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入シ又ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公債ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年勅令第二百八十號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

●郵便年金積立金運用規則(抜抄)

昭和三年八月三十一日
勅令第二百十八號

朕郵便年金積立金運用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便年金積立金運用規則

第二條 積立金ハ郵便年金法第十五條ノ規定ニ依リ年金契約者又ハ年金受取人ニ貸付ヲ爲ス場合ヲ除クノ外簡易生命保險積立金運用委員會ニ諮問シ公債ヲ購入シ其ノ他有利且確實ナル方法ヲ以テ公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用スベシ

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

健康保險特別會計法
郵便年金特別會計法
健康保險積立金運用規則
郵便年金積立金運用規則

第四條 積立金ニシテ放資ニ至ラザルモノハ一時之ヲ大藏省預金部ニ預入シ其ノ他有利且確實ナル有價證券ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得

●朝鮮簡易生命保險特別會計法(抜抄) 昭和四年五月四日 法律第六十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル朝鮮簡易生命保險特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朝鮮簡易生命保險特別會計法

第六條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第二百十四號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

●朝鮮簡易生命保險積立金運用規則(抜抄) 昭和七年二月十七日 勅令第十五號

朕朝鮮簡易生命保險積立金運用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朝鮮簡易生命保險積立金運用規則

第二條 積立金ハ朝鮮簡易生命保險令ニ於テ依ルコトヲ定メタル簡易生命保險法第二十六條ノ規定ニ依リ保險契約者ニ貸付ヲ爲ス場合ヲ除クノ外國債ヲ以テ之ヲ保有シ又ハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●日本銀行條例(抜抄) 明治十五年六月二十七日 太政官布告第三十二號

日本銀行條例左ノ通制定ス

日本銀行條例

第十六條 日本銀行ハ公債證書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘキモノトス

●橫濱正金銀行條例(抜抄) 明治二十年七月七日 勅令第二十九號

朕橫濱正金銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

橫濱正金銀行條例

第八條 橫濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入又ハ賣拂フコトヲ得

●日本勸業銀行法(抜抄) 明治二十九年四月二十日 法律第八十二號

改正(八) 明治四十三年四月四日 (十三) 大正六年七月二十一日 (十六) 大正十年四月二十二日
(十八) 大正十二年三月十九日 (十九) 大正十五年三月二十五日 (二十) 昭和六年三月三十日
(二十二) 昭和八年三月二十九日 (二十三) 昭和十一年五月二十六日

日本勸業銀行法

第三十二條 日本勸業銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外前條ノ預り金又ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス(八)
一 預り金四分ノ一以上ハ國債證券若ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ヲ買入レ又ハ大藏省預金部若ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ニ預入ルコト(八)

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

朝鮮簡易生命保險特別會計法 同積立金運用規則
日本銀行條例 橫濱正金銀行條例 日本勸業銀行法

- 二 前號ノ證券又ハ農産物、水産物、工業製造品ヲ擔保トスル手形ノ割引又ハ短期貸付ヲ爲スコト(八)
 - 三 産業組合、蠶絲共同施設組合、工業組合、漁業組合又ハ其ノ聯合會ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト(十 三追加、十九、二十三、二十四)
 - 四 農工銀行ノ存在セサル府縣内ニ於テ十人以上ノ農業者、工業者又ハ漁業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限り無擔保ニテ短期貸付ヲ爲スコト(十八)
 - 五 公共團體ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト(十六追加、十八)
- 定期預リ金ハ前項ノ外第十四條第二項及第三十一條ノ二ノ定期償還貸付ニ之ヲ使用スルコトヲ得(十六追加、二十)
- 明治四十三年法律第三十五號附則
- 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十三年勅令第二百三十二號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行)
- 昭和八年法律第三十一號附則
- 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年勅令第九十四號ヲ以テ同年七月二十日ヨリ施行)
- 昭和十一年法律第十一號附則
- 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年勅令第二百九十二號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)

●農工銀行法(抜抄)

明治二十九年四月二十日 法律第八十三號

- 改正(九) 明治四十三年四月四日 (十四) 大正六年七月二十一日 (十八) 大正十二年三月十九日
- 法律第三十六號 法律第十八號 法律第三號
- (十九) 大正十五年三月二十五日 (二十一) 昭和六年三月三十日 (二十三) 昭和八年三月二十九日
- 法律第二號 法律第二十二號 法律第三十一號
- (二十四) 昭和十一年五月二十六日 法律第十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農工銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農工銀行法

第二十三條

農工銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外前條ノ預リ金又ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス(九)

- 一 預リ金四分ノ一以上ハ國債證券若ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ヲ買入レ又ハ大藏省預金部若ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ニ預入ルルコト(九)
- 二 前號ノ證券又ハ農産物、水産物、工業製造品ヲ擔保トスル手形ノ割引又ハ短期貸付ヲ爲スコト但シ定期預リ金ハ第六條及第七條ノ三ノ貸付ニ使用スルコトヲ得(九、二十一)
- 三 産業組合、蠶絲共同施設組合、工業組合、漁業組合又ハ其ノ聯合會ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト(十四 追加、十九、二十三、二十四)
- 四 十人以上ノ農業者、工業者又ハ漁業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限り無擔保ニテ短期貸付ヲ爲スコト(十八追加)
- 五 公共團體ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト(十八追加)

○明治四十三年法律第三十六號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十三年勅令第二百三十二號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行)

○昭和八年法律第三十一號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年勅令第九十四號ヲ以テ同年七月二十日ヨリ施行)

●臺灣銀行法(抜抄)

明治三十年四月一日 法律第三十八號

- 改正(二) 明治三十二年三月二日 (三) 明治三十九年二月十九日 (四) 明治四十三年四月六日
- 法律第三十四號 法律第三號 法律第四十六號

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

農工銀行法 臺灣銀行法

- (五) 大正三年三月十四日 法律第七號
- (六) 大正七年四月一日 法律第二十七號
- (七) 大正十一年四月二十一日 法律第六十八號
- (八) 昭和十年三月二十三日 法律第二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣銀行法

- 第五條 臺灣銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス
 - 第一 爲替手形其ノ他商業手形ノ割引
 - 第二 爲替及荷爲替
 - 第三 平常取引スル諸會社又ハ商人ノ爲手形金ノ取立
 - 第四 確實ナル擔保アル貸付(三)
 - 第五 諸預リ金及當座貸越勘定
 - 第六 金銀貨、貴金屬及諸證券ノ保護預リ
 - 第七 地金銀ノ賣買及貨幣ノ交換(七)
 - 第八 擔保附社債ニ關スル信託事業(五追加、七)
 - 第九 他銀行ノ業務代理
 - 第十 國債證券地方債證券社債券若ハ株券ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱(七追加)
- 右ノ外營業ノ都合ニ由リ國債證券、地方債券、勸業債券、農工債券、興業債券其ノ他主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ應募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得(三、七)
- 第九條 臺灣銀行ハ銀行券發行高ニ對シ同額ノ金貨、地金銀及兌換銀行券ヲ置キ其ノ仕拂準備ニ充ツヘシ(二)

前項準備ニ依レル外銀行券ヲ發行セムトスルトキハ五千萬圓ヲ限度トシ政府發行ノ證券又ハ其ノ他確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得(二、三、四、六)

市場ノ狀況ニ由リ前二項ノ外更ニ銀行券ノ發行ヲ必要トスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政府發行ノ證券又ハ確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ノ定ムル所ニ依リ一箇年百分ノ三ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ(二、八)

○大正十一年法律第六十八號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第五百十二號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行)

○昭和十年法律第二號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十年勅令第三十三號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行)

北海道拓殖銀行法(抜抄)

- 改正(六) 明治四十四年三月二十四日 法律第二十九號
- (九) 大正五年三月十一日 法律第二十四號
- (十一) 大正九年八月二日 法律第二十號
- (十二) 大正十一年四月二十一日 法律第六十九號
- (十六) 昭和六年三月三十日 法律第二十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道拓殖銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道拓殖銀行法

- 第八條ノ二 北海道拓殖銀行ハ前四條ニ依ルノ外預リ金ヲ以テ國債證券又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ヲ擔保トスル短期貸付ヲ爲スコトヲ得(六追加、九、十六)
- 第九條 北海道拓殖銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ國債證券地方債證券社債券又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ應募ノ保有乃至利用施設

第七類 國債ノ保有乃至利用施設 北海道拓殖銀行法

募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得(十一、十二)

○大正十一年法律第六十九號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第五百十二號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行)

○昭和六年法律第二十三號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和六年勅令第八十七號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

●日本興業銀行法(抜抄)

明治三十三年三月二十三日
法律第七十號

改正(一) 明治三十八年三月十日
法律第四十九號

(三) 明治四十四年三月二十四日
法律第二十八號

(四) 大正三年三月二十三日
法律第八號

(五) 大正七年四月一日
法律第二十六號

(七) 大正十一年四月二十一日
法律第六十七號

(十) 昭和八年三月十五日
法律第八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル日本興業銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本興業銀行法

第九條 日本興業銀行ハ左ノ事務ヲ營ムモノトス

第一 國債證券、地方債證券、社債券及株券ヲ質トスル貸付

第二 國債證券、地方債證券、社債券ノ應募又ハ引受

第三 預リ金及保護預リ

第四 擔保附社債ニ關スル信託事業(一、七)

第五 手形ノ割引(一)

第六 爲替及荷爲替(四追加)

第七 法律ノ規定ニ依リ設定シタル財團ヲ抵當トスル貸付(一、四)

第八 工場ニ屬スル敷地又ハ建物ヲ抵當トスル貸付(十追加)

第九 十五年以内ニ於ケル年賦償還又ハ五年以内ニ於ケル定期償還ノ方法ニ依リ船舶又ハ製造中ノ船舶ヲ抵當トスル貸付(五追加、十)

第十 造船材料又ハ船舶屬具ヲ擔保トスル貸付(五追加、十)

第十一 國債證券地方債證券社債券若ハ株券ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱(七追加、十)

前項ノ外主務大臣ノ認可ヲ受ケ株式ノ應募又ハ引受ヲ爲スコトヲ得(五追加)

第十條 日本興業銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ國債證券、地方債證券、社債券、株券及地金銀ノ買入ヲ爲スコトヲ得(三)

○大正十一年法律第六十七號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第五百十二號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行)

●東洋拓殖株式會社法(抜抄)

明治四十一年八月二十七日
法律第六十三號

改正(一) 明治四十三年四月七日
法律第四十九號

(二) 大正六年七月二十一日
法律第二十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル東洋拓殖株式會社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東洋拓殖株式會社法

第二十一條 營業上ノ餘裕金ハ一時國債證券若ハ政府ノ認可ヲ受ケタル有價證券ヲ買入レ又ハ政府若ハ政府ノ指定シタル銀行ニ預ケ金ヲ爲スノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス(一、二)

○大正六年法律第二十三號附則

本法ハ大正六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

日本興業銀行法 東洋拓殖株式會社法

●朝鮮銀行法(抜抄)

明治四十四年三月二十九日
法律第四十八號

改正(一)大正七年四月一日
法律第二十八號

(二)大正十三年七月十八日
法律第二十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル朝鮮銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朝鮮銀行法

第十七條 朝鮮銀行ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス

- 一 爲替手形其ノ他商業手形ノ割引
- 二 平常取引スル諸會社銀行又ハ商人ノ爲手形金ノ取立
- 三 爲替及荷爲替
- 四 確實ナル擔保アル貸付
- 五 諸預リ金及當座貸越勘定
- 六 金銀貨、貴金屬及諸證券ノ保護預リ
- 七 地金銀ノ賣買及貨幣ノ交換
- 八 信託ノ業務(一追加)

前項ノ外營業ノ都合ニ依リ國債證券、地方債證券其ノ他大藏大臣ノ指定スル確實ナル有價證券ノ買入ヲ爲スコトヲ得

(二)

附則

第四十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十四年勅令第二百三號ヲ以テ同年八月十五日ヨリ施行)

○大正十三年法律第二十一號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十三年勅令第二百一號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)

●朝鮮殖産銀行令(抜抄)

大正七年六月七日
制令第七號

改正(一)大正十三年三月十九日
制令第一號

朝鮮殖産銀行令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮殖産銀行令

第二十六條 朝鮮殖産銀行ハ國債證券、地方債證券若ハ朝鮮總督ノ認可シタル有價證券ノ應募、引受若ハ買入ヲ爲シ又ハ朝鮮總督ノ指定シタル銀行ニ預入ヲ爲ス場合ヲ除クノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス(一)

附則

第五十條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十三年制令第一號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●無盡業法(抜抄)

昭和六年四月一日
法律第四十二號

改正(一)昭和十三年三月二十六日
法律第二十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル無盡業法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

無盡業法

第十條 無盡會社ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ズ

- 一 國債、地方債其ノ他特別ノ法令ニ依リ設立シタル法人ノ債券又ハ株式ノ買入

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

朝鮮銀行法 朝鮮殖産銀行令 無盡業法

- 二 前號ノ有價證券又ハ不動産ヲ擔保トスル貸付
- 三 掛金者ニ對シ既ニ拂込ミタル金額ヲ限度トスル貸付
- 四 掛金者ニ對シ既ニ拂込ミタル金額ヲ超過シ契約給付金額ヲ限度トスル貸付
- 五 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金

前項第四號ノ規定ニ依ル貸付金額中既ニ拂込ミタル金額ヲ超過スル額ニ付テハ確實ナル擔保又ハ保證アルコトヲ要ス
(一)

附則

第四十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和六年勅令第五百十八號ヲ以テ同年七月一ヨリ施行)

○昭和十三年法律第二十七號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十三年勅令第七十三號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行)
(略)

●産業組合中央金庫法(抜抄)

大正十二年四月六日
法律第四十二號

改正(二) 昭和七年九月七日
法律第三十一號 (三) 昭和十三年三月十八日
法律第十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル産業組合中央金庫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

産業組合中央金庫法

第十五條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ(二)

- 一 國債證券、地方債證券又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ買入、應募又ハ引受ヲ爲スコト(三)
- 二 大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金ト爲スコト

- 三 産業組合聯合會、産業組合、漁業組合聯合會又ハ漁業組合ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト(三)
- 四 産業組合聯合會、産業組合、漁業組合聯合會又ハ漁業組合ノ發達ヲ圖ル爲必要ナル施設ヲ行フ法人ニ對シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ短期貸付ヲ爲スコト(三追加)

前項ノ餘裕金運用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(二)

○昭和七年法律第三十一號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和七年勅令第二百七十七號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)(略)

○昭和十三年法律第十四號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(略)(昭和十三年勅令第七十四號ヲ以テ第十五條第一項第一號ノ改正規定ヲ同年四月一日ヨリ施行)

●商工組合中央金庫法(抜抄)

昭和十一年五月二十七日
法律第十四號

改正(一) 昭和十二年八月十四日
法律第七十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商工組合中央金庫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商工組合中央金庫法

- 第二十九條 商工組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ
- 一 國債證券、地方債證券又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ買入ヲ爲スコト
 - 二 大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金ト爲スコト
 - 三 商業組合、商業組合聯合會、工業組合、工業組合聯合會、貿易組合又ハ貿易組合聯合會ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト
- 前項ノ餘裕金運用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

産業組合中央金庫法 商工組合中央金庫法

附則

第五十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年勅令第百十三號ヲ以テ同年六月二十日ヨリ施行)

○昭和十二年法律第七十四號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十二年勅令第四百七十七號ヲ以テ同年九月十日ヨリ施行)

●恩給金庫法(抜抄)

昭和十三年四月一日
法律第五十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル恩給金庫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

恩給金庫法

第二十二條 恩給金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一 國債、地方債又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ取得ヲ爲スコト

二 大藏省預金部若ハ銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金ト爲スコト

附則

第五十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十三年勅令第三百五號ヲ以テ同年五月二日ヨリ施行)

●貯蓄銀行法(抜抄)

大正十年四月十四日
法律第七十四號

改正(一)昭和二年三月三十日
法律第二十四號

(二)昭和六年四月一日
法律第四十一號

(三)昭和十一年六月六日
法律第四十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル貯蓄銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貯蓄銀行法

第一條 左ニ掲クル業務ヲ營ム者ハ之ヲ貯蓄銀行トス

- 一 複利ノ方法ニ依リ預金ヲ受入ルルコト
 - 二 一回十圓未満ノ金額ヲ預金トシテ受入ルルコト
 - 三 豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ルルコト
 - 四 期限ヲ定メテ一定金額ノ給付ヲ爲スコトヲ約シ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ金錢ヲ受入ルルコト
- 貯蓄銀行ニ非サルモノハ前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ貯蓄銀行ニ非サル銀行カ預金取引ヲ有スル者ヨリ其ノ者トノ取引ノ結果生シタル十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入レ又ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲スヘキ預金取引ヲ有スル者ヨリ十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入ルル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 貯蓄銀行ハ第一條第一項ノ業務ノ外左ニ掲クル業務ヲ併セ營ムコトヲ得
- 一 定期預リ金
 - 二 保護預リ
 - 三 債權ノ取立
 - 四 公共團體又ハ産業組合ノ金錢出納事務ノ取扱
 - 五 公共團體又ハ産業組合ヨリノ要求拂預リ金
 - 六 國債、地方債又ハ特別ノ法令ニ依リ設立シタル法人ノ債權ノ割賦販賣(ニ追加)
 - 七 國債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ノ募集又ハ其ノ元利金支拂ノ取扱(ニ追加)

第九條 貯蓄銀行ハ第一條第一項及第五條第一號第五號第六號ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相當ス

ル國債ヲ供託スヘシ但シ供託金額中受入金額ノ五分ノ一ヲ超ユル額ニ付テハ第十一條第一項第一號ノ有價證券ヲ以テ國債ニ代フルコトヲ得

貯蓄銀行ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ大藏省預金部ヘノ預ケ金ヲ以テ前項ノ供託ニ代フルコトヲ得(二)

第七類 國債ノ保有乃至利用施設 恩給金庫法 貯蓄銀行法

第一項ノ受入金額ハ每半年末日現在ニ依リ之ヲ定ム

第十條 預金者、第一條第一項第四號ノ規定ニ依ル給付金ノ債權者及第五條第六號ノ規定ニ依ル有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權者ハ其ノ預金、給付金及有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權ニ關シテハ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債及有價證券並ニ供託ニ代ヘタル大藏省預金部ヘノ預ケ金ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

前項ノ規定ニ依リ優先辨濟ヲ受クル範圍ハ預金額、給付金額又ハ給付ヲ受クヘキ有價證券ノ時價ヲ限度トス但シ給付金又ハ有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權ニシテ給付金又ハ有價證券ノ給付時期到來セサルモノニ付テハ既ニ拂込ミタル金額ヲ限度トス(二)

第十一條 貯蓄銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

- 一 國債、地方債、社債、株式又ハ滿洲國有價證券ノ應募、引受又ハ買入(三)
- 二 國債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ヲ質トスル貸付(三)
- 三 不動産ヲ抵當トスル貸付
- 四 預金者ニ對シ其ノ預金額ヲ限度トスル貸付
- 五 第一條第一項第四號ノ規定ニ依ル給付金ノ債權者ニ對シ其ノ給付金額ヲ限度トスル貸付
- 六 第五條第六號ノ規定ニ依ル有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權者ニ對シ既ニ拂込ミタル賦拂金ヲ限度トスル貸付(二)
- 七 道府縣市町村ニ對スル一年內ノ貸付(二)
- 八 割賦償還ノ方法ニ依ル二年內ノ貸付(二)
- 九 銀行若ハ大藏省預金部ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金(二)
- 十 主務大臣ノ定ムル所ニ依リ信託會社ヘ爲ス金錢又ハ有價證券ノ信託
- 十一 銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形ノ買入

前項ニ規定スル社債、株式及滿洲國有價證券ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行ノ取締役、監査役又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス(二)

- 一 第六條、第八條、第九條、第十一條乃至第十四條及第十六條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

(略)

附則
第二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年勅令第二百八十四號ヲ以テ同年一月一日ヨリ施行)

○昭和六年法律第四十一號附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十一年法律第四十四號附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●貯蓄銀行法施行細則(抜抄)

大正十年八月五日
大藏省令第二十九號

改正(三) 昭和六年六月二十日
大藏省令第二十號

貯蓄銀行法施行細則左ノ通定ム

貯蓄銀行法施行細則

第五條 貯蓄銀行法第九條第一項ノ規定ニ依ル供託ハ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ(三)

第六條 貯蓄銀行法第九條第一項ノ規定ニ依リ供託スル國債及有價證券ノ供託價格ハ每半年末日ノ時價ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行ハ貯蓄銀行法第九條第一項ノ規定ニ依リ新ニ供託ヲ爲シタルトキハ供託受領證ノ寫及供託價格ヲ記載シタル書面ヲ添附シ每半年末日ヨリ一月內ニ之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

貯蓄銀行法施行細則

臨時ニ供託ヲ爲シタルトキハ其ノ都度遲滞ナク前項ニ準シ届出ツヘシ

第八條 貯蓄銀行ハ貯蓄銀行法第九條第一項ノ規定ニ依リテ供託シタル國債又ハ有價證券ノ下戻ヲ受ケムトスルトキハ大正十一年司法省令第二號供託物取扱規則又ハ大正十一年司法省令第四號ノ手續ニ依ルノ外地方長官カ其ノ下戻ヲ承認シタルコトヲ證スルニ足ル書面ヲ供託局、供託局出張所又ハ供託事務ヲ取扱フ銀行ニ提出スヘシ

貯蓄銀行ハ前項ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由竝國債又ハ有價證券ノ種類、記號、番號、枚數、券面額及供託價額ヲ記載シタル申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

附則

第十九條 本令ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和六年大藏省令第二十號附則

本令ハ昭和六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●商品券取締法

昭和七年九月七日
法律第二十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商品券取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商品券取締法

第一條 商品券ヲ發行スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年二回ノ一定日現在ニ於ケル商品券發行額ノ二分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スベシ但シ商品券發行額ガ命令ノ定ムル額ヲ超エザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ商品券發行額ハ商品券ノ引換未済ノ金額ニ依ル

第二條 商品券ノ所有者ハ商品券ノ引換未済ノ金額ヲ限度トシテ前條ノ供託物ニ付他ノ債權者ニ先チ辨済ヲ受クルノ權利ヲ

有ス

前項ノ權利ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 前二條ノ商品券ハ券面ニ金額ヲ表示シタルモノニ限ル

第四條 主務大臣ハ商品券ノ發行ニ關シ取締上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第五條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ商品券ノ發行者ニ對シ報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ帳簿其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條 商品券ノ發行者第一條ノ規定ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 正當ノ理由ナクシテ第五條ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ同條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第八條 商品券ノ發行者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ營業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第九條 本法ニ依リ商品券ノ發行者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和七年勅令第二百七十四號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

本法施行ノ際現ニ商品券ヲ發行スル者ハ本法施行ノ日現在ニ於ケル商品券發行額ニ依リ第一條ノ供託ヲ爲スベシ此ノ場合ニ

第七類 國債ノ保有乃至利用施設 商品券取締法

於ケル供託ハ命令ノ定ムル所ニ依リ分割シテ之ヲ爲スコトヲ得

●商品券取締法施行規則

昭和七年九月三十日
商工省令第七號

改正(一) 昭和十一年四月十五日
商工省令第二號

商品券取締法施行規則左ノ通定ム

商品券取締法施行規則

第一條 商品券取締法第一條ノ規定ニ依ル供託ハ毎年三月三十一日及九月三十日現在ニ於ケル商品券發行額ニ依リ翌月末日迄ニ之ヲ爲スベシ

第二條 商品券取締法第一條但書ノ商品券發行額ハ三千圓トス

第三條 商品券取締法ニ依ル供託ハ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スベシ

第四條 商品券取締法第一條ノ規定ニ依リ供託スル國債ノ供託價格ハ毎年三月三十一日又ハ九月三十日ノ時價ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五條 商品券ノ發行者商品券取締法ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ供託物受入ノ記載アル供託書ノ寫及供託價格ヲ記載シタル書面ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

商工大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ供託ヲ爲シタル商品券ノ發行者ニ對シ供託物受入ノ記載アル供託書ノ提出ヲ命ズルコトヲ得(一追加)

第六條 商品券ノ發行者商品券取締法ニ依リ供託シタル國債ノ下戻ヲ受ケントスルトキハ大正十一年司法省令第二號供託物取扱規則又ハ大正十一年司法省令第四號ノ手續ニ依ルノ外商工大臣ガ其ノ下戻ヲ承認シタルコトヲ證スルニ足ル書面ヲ供

託局、供託局出張所又ハ供託事務ヲ取扱フ銀行ニ提出スベシ

商品券ノ發行者前項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由竝ニ國債ノ種類、記號、番號、枚數、券面額及供託價格ヲ記載シタル申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第七條 券面ニ金額ヲ表示シタル商品券ニハ發行者ノ氏名名稱又ハ商號、引換ヲ爲スベキ營業所、發行年月日及發行番號ヲ記載スベシ

第八條 百貨店ハ券面金額五圓未滿ノ商品券ヲ發行スルコトヲ得ズ

前項ノ百貨店ハ商工大臣之ヲ指定ス

第九條 券面ニ金額ヲ表示シタル商品券ノ發行者ハ商品券發行ニ關スル帳簿ヲ營業所別ニ調製シ之ヲ本店ニ備付ケ商品券ノ發行年月日、發行番號、券面金額及引換年月日ヲ之ニ記載スベシ

商工大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ帳簿ノ提出ヲ命ズルコトヲ得(一追加)

第十條 券面ニ金額ヲ表示シタル商品券ノ發行者ハ其ノ毎月發行シタル枚數及金額、引換ヘタル枚數及金額竝ニ毎月末現在ニ於ケル發行額ヲ券面金額別ニ記載シタル報告書ヲ翌月二十日迄ニ商工大臣ニ提出スベシ但シ月末現在ニ於ケル發行額ガ千圓ヲ超エザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本則ハ商品券取締法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和八年十月一日ヨリ施行)

但シ第七條乃至第九條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ一月間之ヲ適用セズ本則施行ノ際現ニ券面ニ金額ヲ表示シタル商品券ヲ發行スル者ハ本則施行ノ日現在ニ於ケル商品券發行額ヲ本則施行ノ日ヨリ二十日以内ニ商工大臣ニ報告スベシ但シ其ノ商品券發行額ガ三千圓ヲ超エザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

商品券取締法附則第二項ノ規定ニ依ル供託ハ本則施行ノ日ヨリ一月以内ニ之ヲ爲スベシ但シ分割シテ供託ヲ爲ス場合ニ於テ

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

商品券取締法施行規則

ハ本則施行ノ日ヨリ一月以内ニ法定額ノ三分ノ一以上ヲ、本則施行ノ日ヨリ五月以内ニ其ノ残額ヲ供託スベシ
商品券取締法附則第二項ノ規定ニ依リ供託スル國債ノ供託價格ハ本則施行ノ日ノ時價ヲ超ユルコトヲ得ズ
○昭和十一年商工省令第二號附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●商品券取締法第二條第一項ニ規定スル權利ノ
實行ニ關スル件

昭和十一年四月十五日
勅令第五十八號

改正(一)昭和十三年六月二十二日
勅令第四百三十六號

朕商品券取締法第二條第一項ニ規定スル權利ノ實行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 商品券ノ發行者(商業組合法第三條ノ二ノ商品券ニ在リテハ發行者タル商業組合及其ノ組合員)ガ商品券ノ引換ヲ爲
スコト能ハザルトキ又ハ其ノ引換ヲ停止シタルトキハ商品券ノ所有者ハ發行者ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル

區裁判所ニ商品券取締法第二條第一項ニ規定スル權利ノ實行ノ申立ヲ爲スコトヲ得(一)

前項ノ申立ニ對スル裁判ハ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

第二條 申立ニ對スル裁判ハ商品券ノ發行者ニ之ヲ告知スルコトヲ要ス

前項ノ裁判ニ對シテハ申立人又ハ商品券ノ發行者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第三條 申立ヲ理由アリトスル裁判ハ商品券ノ所有者全員ノ爲ニ其ノ效力ヲ有ス

申立人前項ノ裁判ノ告知ヲ受ケタル後ハ申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條 前條第一項ノ裁判確定シタルトキハ裁判所ハ公告ヲ以テ商品券ノ所有者ニ對シ三十日以上ノ一定ノ期間内ニ債權ノ
申出ヲ爲スベキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

前項ノ公告ハ裁判所ノ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所第一項ノ催告ヲ爲シタルトキハ商工大臣ニ對シ商品券取締法第一條第一項ノ國債ノ供託書及商品券ノ發行ニ關スル
帳簿其ノ他必要ナル書類ノ送付ヲ囑託スルコトヲ要ス

第五條 第三條第一項ノ裁判確定シタルトキハ裁判所ハ執達吏ヲシテ國債ヲ換價セシムルコトヲ要ス

第六條 裁判所ハ第四條第一項ノ期間滿了後遲滞ナク配當表ヲ作ルコトヲ要ス

裁判所配當表ニ關スル陳述及配當實施ノ期日ヲ指定シタルトキハ其ノ二週間前ニ其ノ旨ヲ公告シ且知レタル商品券ノ所有
者及商品券ノ發行者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第四條第二項ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

第七條 配當期日ニ出頭セザル商品券ノ所有者ノ債權及期日ニ於テ異議ノ完結セザル債權ニ對スル配當額ハ債權者ノ爲ニ之
ヲ供託スルコトヲ要ス

第八條 國債換價及配當ノ手續ニ付テハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス

知レザル商品券ノ所有者ノ債權ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シタル商品券ノ所有者又ハ發行者ノ提起スベキ訴ニ付テハ民事訴訟
法第六百三十三條ノ期間ハ其ノ所有者ノ知レタル時ヨリ之ヲ起算ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十三年勅令第四百三十六號附則

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

商品券取締法第二條第一項ニ規定スル權利ノ實行ニ關スル件

●市街地信用組合ノ拂戻準備金ノ管理ニ關スル件

大正六年十月二十七日
勅令第二百一號

改正 (一) 大正十年四月十三日 (二) 昭和六年一月二十八日
勅令第九十四號 (三) 勅令第五號

朕産業組合法第四十六條ノ二ノ規定ニ依ル拂戻準備金ノ管理ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 産業組合法第四十六條ノ二ノ規定ニ依ル拂戻準備金ノ管理ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

- 一 金錢又ハ有價證券ノ供託
 - 二 郵便貯金法ニ依ル貯金又ハ有價證券保管
 - 三 産業組合中央金庫ヘノ貯金(ニ追加)
 - 四 信用組合聯合會ヘノ貯金(ニ)
- 前項第四號ノ貯金ハ拂戻準備金總額ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス(ニ)

第二條 前條ノ有價證券ノ種類ハ左ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス(一)

- 一 國債證券
- 二 地方債證券
- 三 産業債券(ニ追加)

第三條 第一條ノ有價證券ノ見積價格ハ事業年度ニ從ヒ毎六月末日ノ時價ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ヲ取扱フ信用組合ハ事業年度ニ從ヒ六月毎ニ遲滯ナク第一條ノ規定ニ依ル管理ノ手續ヲ爲シ同法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ額ヲ記載シタル書面及管理ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ書面ヲ

添ヘ其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ

第五條 拂戻準備金ハ地方長官ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ引出スコトヲ得ス

前項ノ承認ノ申請ハ其ノ事由ヲ具シタル書面ニ産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ現在額並證券ヲ引出スモノニ在リテハ證券ノ種類、記號、番號、券面ノ金額及枚數ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

附則

本令ハ大正六年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正六年十一月一日ヨリ施行)

○大正十年勅令第九十四號附則

本令ハ大正十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ供託又ハ保管ニ係ル國債證券及地方債證券以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限り本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

○昭和六年勅令第五號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

明治三十三年^{三月七日}法律第三十四號産業組合法抄錄

第四十六條ノ二 信用組合ハ第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ總額ノ四分ノ一以上ノ金額ヲ拂戻準備金トシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ管理スヘシ

前項ノ金額ハ事業年度ニ從ヒ毎六箇月末日現在ノ貯金總額ニ依リ之ヲ定ム

第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ヲ爲シタル者ハ第一項ノ拂戻準備金ノ上ニ先取特權ヲ有ス

第一條第四項

市又ハ主務大臣ノ指定スル市街地カ組合ノ區域ニ屬スル信用組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ其ノ産業若ハ經濟ノ發達ニ必要ナル資金ノ爲手形ノ割引ヲ爲シ又ハ前二項ノ貯金ノ外組合ノ區域内ニ居住スル組合員外ノ者ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

市街地信用組合ノ拂戻準備金ノ管理ニ關スル件

● 保險會社又ハ外國保險會社カ供託金ニ代用スルコトヲ得ヘキ有價證券ニ關スル件

改正 (一) 大正十三年十月二十四日 農商務省令第二十號

大正十年四月二十八日 農商務省令第十一號

保險會社又ハ外國保險會社カ供託金ニ代用スルコトヲ得ヘキ有價證券ニ關スル件左ノ通定ム

保險會社又ハ外國保險會社カ保險業法第四條ノ二第二項又ハ明治三十三年勅令第三百八十號第五條第三項ノ規定ニ依リ供託金ニ代用スルコトヲ得ヘキ有價證券ハ國債證券トス

前項ノ國債證券ノ代用價格ハ其ノ債權金額トス

前項ノ債權金額ニシテ外國貨幣ヲ以テ表示シタルモノニ付テハ左ノ標準ニ依リ日本貨幣ニ之ヲ換算ス(一)

英貨一ポンド 九圓七十六錢三厘

佛貨一フランク 三十八錢七厘

米貨一ドル 二圓六厘

附則

本令ハ大正十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前供託シタル國債證券以外ノ有價證券ハ地方債證券ニ在リテハ本令施行ノ日ヨリ十年、其ノ他ノモノニ在リテハ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

(注意)

本令ニ依リ(大正二、三、五農商務省告示七〇)保險會社供託金ニ代用スル國債證券等ノ件自然消滅ニ歸ス

● 衆議院議員選舉法(抜抄)

大正十四年五月五日 法律第四十七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル衆議院議員選舉法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
衆議院議員選舉法

第六十八條 議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ爲サムトスル者ハ議員候補者一人ニ付二千圓又ハ之ニ相當スル額面ノ國債證券ヲ供託スルコトヲ要ス

議員候補者ノ得票數其ノ選舉區内ノ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ十分ノ一ニ達セサルトキハ前項ノ供託物ハ政府ニ歸屬ス議員候補者選舉ノ期日前十日以内ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス但シ被選舉權ヲ有セサルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス(昭和三年二月二十日總選舉ヲ行フ)
(略)

● 銀行法第三十二條ノ規定ニ依ル銀行ノ特例ニ關スル件(抜抄)

昭和二年十一月十六日 勅令第三百二十八號

朕銀行法第三十二條ノ規定ニ依ル銀行ノ特例ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二條 外國銀行ガ銀行法施行地内ニ營業所ヲ設ケ銀行業ヲ營ムニハ營業所毎二十萬圓ニ相當スル金額ノ國債又ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ヲ供託スルコトヲ要ス

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

保險會社ノ供託金代用有價證券ノ件 衆議院議員選舉法 銀行法第三十二條ノ規定ニ依ル銀行ノ特例ニ關スル件

附則

本令ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

〔参照〕

昭和二年三月三十日法律第二十一號銀行法抄録

第三十二條 本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ガ本法施行地内ニ支店、出張所又ハ代理店ヲ設ケ銀行業ヲ營マントスルトキハ各營業所毎ニ代表者ヲ定メ第二條ノ規定ニ依ル免許ヲ受クベシ
前項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタルトキハ該營業所ハ本法ノ適用ニ付之ヲ銀行ト看做ス此ノ場合ニ於テハ第三條乃至第六條、第八條、第十二條乃至第十七條、第二十五條及第二十七條乃至前條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタルコトヲ得
第一項ノ免許ニ付テハ主務大臣ハ特ニ必要ナル制限ヲ附スルコトヲ得

●證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル件

大正五年三月七日
法律第十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 租稅其ノ他ノ政府ノ歳入ハ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得但シ印紙又ハ郵便切手ヲ以テ納付スヘキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ規定ニ依リ納付シタル證券ニ付支拂ナカリシトキハ命令ヲ以テ定メタル場合ニ限り初ヨリ納付ナカリシモノト看做ス此ノ場合ニ於ケル證券ノ處分ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ依リ關稅又ハ噸稅ヲ初ヨリ納付ナカリシモノト看做シテ徵收スル場合ニ於テ之ヲ納付セサルトキハ内國稅徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條 本法ニ依リ證券ヲ受領シタル市町村ハ證券ニ屬スル權利ヲ行使シ現金ヲ國庫ニ送付スル責任アルモノトス但シ命令

ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ國庫ニ送付スルコトヲ得

市町村其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ證券金額ノ支拂又ハ償還ヲ受クルコトヲ得サルトキハ其ノ事實ヲ具シ政府ニ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ政府ハ事實ヲ審査シ市町村ノ責任ヲ免除スルコトヲ得

第四條 本法中市町村ニ關スル規定ハ法令ニ依リ租稅其ノ他ノ政府ノ歳入ヲ徵收シ其ノ徵收金ヲ國庫ニ送付スヘキ責任アル者ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正五年勅令第二百五十四號ヲ以テ大正六年一月一日ヨリ施行)

●歳入納付ニ使用スル證券ニ關スル件

大正五年十二月二十一日
勅令第二百五十六號

改正(一) 大正十一年三月三十一日
勅令第六十五號

(二) 大正十五年八月二十七日
勅令第二百九十四號

(三) 昭和九年十二月二十六日
勅令第三百九十五號

(四) 昭和十二年十二月一日
勅令第六百八十五號

朕歳入納付ニ使用スル證券ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 大正五年法律第十號ニ依リ租稅其ノ他ノ歳入ノ納付ニ使用スルコトヲ得ル證券ハ左ニ掲クルモノニシテ其ノ金額ノ納付金額ヲ超過セサルモノニ限ル但シ第二號ノ場合ニ於テ資本利子稅ヲ課セラルル者ノ納付スヘキ資本利子稅ニ相當スル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(一、二)

- 一 小切手又ハ一覽拂ノ爲替手形ニシテ無記名式又ハ記名持參人拂ノモノ
- 二 無記名國債證券ノ利札ニシテ支拂期ノ到達シタルモノ

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル件
歳入納付ニ使用スル證券ニ關スル件

三 宮内省ノ仕拂命令又ハ保管金引出切符ニシテ納人ノ爲發行シタルモノ

四 郵便通常爲替證書ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト爲シタルモノ又ハ郵便小爲替證書ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト指定シ若ハ受取人ヲ指定セサルモノ

前項ノ證券ニシテ呈示期間若ハ有効期間ノ滿了ニ近ツキタルモノ又ハ支拂不確實ナリト認ムルモノハ出納官吏、日本銀行、又ハ市町村其ノ受領ヲ拒絶スルコトヲ得

證券ノ支拂場所カ受領者ノ所在地ニ在ラサルモノニ付亦前項ニ同シ但シ支拂場所カ受領者ノ拂込又ハ送付ヲ爲ス日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地ニ在ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 證券ヲ呈示期間内又ハ有効期間内ニ呈示シ支拂ヲ請求シタル場合ニ於テ支拂ノ拒絶アリタルトキハ歳入ハ初ヨリ納付ナカリシモノト看做ス

第三條 前條ノ場合ニ於テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ納人ニ對シ遲滞ナク書面ヲ以テ證券ノ支拂ナカリシ旨及其ノ證券ノ還付ヲ請求スヘキ旨ヲ通知スヘシ(一)

前項ノ通知書ヲ受クヘキ者其ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住所、居所不明ナルトキハ通知書記載ノ要旨ヲ公告スヘシ

第一項ノ通知書ヲ發シタル日又ハ第二項ノ公告ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ納人ハ證券ノ還付ヲ請求スルコトヲ得ス

第四條 出納官吏、日本銀行又ハ市町村ノ受領シタル證券ノ取扱ニ關シテハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル(一)

第五條 證券ヲ以テ納付シ得ル歳入ノ種目ハ主管大臣之ヲ定ム

第六條 大藏大臣ハ證券ノ金額、種類又ハ納付場所ニ依リ其ノ納付ニ關シ制限ヲ加フルコトヲ得

主管大臣ハ前項ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ定メタルモノノ外主管歳入ノ納付ニ付更ニ制限ヲ加フルノ必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第七條 市町村ニ於テ大正五年法律第十號第三條第二項ノ規定ニ依リ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ

主管大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ主管大臣ニ送付スヘシ

第八條 本令中市町村ニ關スル規定ハ法令ニ依リ租稅其ノ他ノ歳入ヲ徵收シ其ノ徵收金ヲ國庫ニ送付スヘキ責任アル者ニ之ヲ準用ス

第九條 本令中主管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ但シ第六條第二項ノ場合ニ於テハ主管大臣ヲ經由スルコトヲ要ス(一、三、四)

本令中地方長官ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

附則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年勅令第三十四號ハ之ヲ廢止ス

○大正十一年勅令第六十五號附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前政府ノ發シタル仕拂命令、仕拂請求書又ハ保管金引出切符ハ本令施行後一年間仍從前ノ例ニ準シ租稅其ノ他ノ歳入ノ納付ニ之ヲ使用スルコトヲ得

○昭和九年勅令第三百九十五號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十二年勅令第六百八十五號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(略)

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

歳入納付ニ使用スル證券ニ關スル件

●歳入納付ニ使用スル證券ノ納付ニ關スル制限

大正五年十二月二十一日
大藏省令第三十號

改正(一)大正十一年四月一日
大藏省令第三十四號
(二)大正十五年八月二十八日
大藏省令第三十一號

大正五年勅令第二百五十六號第六條第一項ニ依リ證券ノ納付ニ關スル制限左ノ通相定ム

第一條 政府ノ振出シタル小切手ハ其ノ振出日付ヨリ一年ヲ經過セサルモノニシテ且裏書禁止ノ旨ノ記載ナキモノナルコトヲ要ス(一追加)

前項以外ノ小切手ハ左ニ掲ケル銀行ニ宛テタルモノニシテ且振出人ニ於テ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除シタルモノナルコトヲ要ス(一)

- 一 特別ノ法律ニ依リ設立セラレタル銀行(本店及支店)
 - 二 手形交換所ニ加入シタル銀行(當該本店若ハ支店ニ限ル)(一)
 - 三 國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行(一)
 - 四 道府縣本金庫ノ事務ヲ取扱フ銀行
 - 五 朝鮮ノ道金庫、臺灣ノ州金庫、廳地方費金取扱所又ハ關東州ノ地方費現金取扱所ノ事務ヲ取扱フ銀行(一)
 - 六 第二號乃至第五號ニ該當スル銀行ノ所在地ニ在ル同一銀行ノ支店
- 第二條 第一條第二項ノ規定ニ依ル小切手ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外其ノ一通ノ金額又ハ一口ノ歳入納付ニ使用スル其ノ合計金額百圓以上ナルトキハ支拂銀行ノ支拂保證アルモノナルコトヲ要ス(一)
- 一 日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行ニ宛テタルモノニシテ之ヲ日本銀行ニ納付スルトキ(一)
 - 二 歳入納付ノ告知ヲ爲ス官署ニ於テ支拂保證アルコトヲ要セサル旨ノ承認ヲ與ヘタルトキ

歳入納付ノ告知ヲ爲ス官署ハ保證人又ハ擔保物アル歳入ニシテ其ノ告知額ヲ納付スルモ直ニ保證證書又ハ擔保物ノ返還ヲ要セサルモノニ限リ前項第二號ノ承認ヲ與フルコトヲ得

- 第三條 爲替手形ハ日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行(當該本店若ハ支店ニ限ル)ニ宛テタルモノニシテ振出人ニ於テ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除シタルモノナルコトヲ要ス(一)
- 第四條 爲替手形ハ日本銀行ニ歳入ヲ納付スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス(一)
- 第五條 無記名國債證券ノ利札ニシテ資本利子税法第五條第一號ノ規定ニ依リ資本利子税ヲ課セラレサルモノハ日本銀行其ノ他ノ利子支拂場所ニ歳入ヲ納付スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス(一追加)

附則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十一年大藏省令第三十四號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十五年大藏省令第三十一號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則

大正五年十二月二十一日
大藏省令第三十二號

改正(一)大正十一年四月一日
大藏省令第三十六號
(二)大正十五年八月二十八日
大藏省令第三十二號

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則左ノ通定メ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 證券ヲ以テ租稅其ノ他ノ歳入金ヲ納付セムトスル者ハ其ノ證券ノ裏面ニ記名捺印シ指定ノ場所ニ之ヲ納付スヘシ納稅告知書、納入告知書、納付書又ハ拂込通知書ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ之ヲ添附スルコトヲ要ス(一)

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

歳入納付ニ使用スル證券ノ納付ニ關スル制限
證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則

第一條ノ二 無記名國債證券ノ利札ハ當該利札ニ對スル資本利子税ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノヲ以テ納付金額ト爲ス
ヘシ但シ資本利子税法第五條第一號ノ規定ニ依リ資本利子税ヲ課セラレサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス(二追加)

第二條 出納官吏(出納員ヲ含ム以下同シ)、日本銀行又ハ市町村(北海道及沖繩縣ノ區、朝鮮ノ府)ニ於テ證券ヲ受領シタルトキハ歳入金ノ領收證書、歳入徴收官ニ對スル領收濟額報告書又ハ領收濟通知書ニ「證券受領」ノ印章ヲ押捺スヘシ歳入金ノ一部分ヲ證券ヲ以テ受領シタル場合ニ於テハ其ノ證券金額ヲ附記スルコトヲ要ス(一)

前項ノ場合ニ於テ其ノ受領シタル證券中前條ノ規定ニ依リ資本利子税ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノヲ以テ納付金額ト爲シタル無記名國債證券ノ利札アルトキハ「國債利札」ノ印章ヲ押捺シ其ノ納付金額ヲ附記スルコトヲ要ス(二追加)

第三條 受領シタル證券ハ遲滞ナク其ノ支拂人ニ呈示シ支拂ノ請求ヲ爲スヘシ但シ出納官吏又ハ市町村ノ受領シタル證券ニシテ左記各號ノ要件ヲ具フルモノハ其ノ裏面ニ第一號様式ノ朱印ヲ押捺シ第二號様式ノ仕譯書ヲ添附シテ之ヲ日本銀行ニ拂込又ハ送付スルコトヲ得(一)

一 持參人ニ支拂ハルヘキモノニシテ其ノ支拂場所カ日本銀行本店、支店又ハ代理店所在地ニ在ルモノ
二 日本銀行ニ到達後呈示期間又ハ有効期間ノ滿了迄ニ三日以上ノ餘裕アルモノ

出納官吏支拂保證ヲ要セサル旨ノ承認ヲ得タル納人ヨリ支拂保證ナキ小切手ヲ受領シタル場合ニ於テ之ヲ日本銀行ニ拂込マムトスルトキハ其ノ裏面ニ「無保證承認」ノ朱印ヲ押捺スヘシ

第四條 出納官吏ノ拂込又ハ市町村ノ送付ニ係ル證券中前條規定ノ印章ヲ押捺セサルモノアルトキハ日本銀行ハ之カ受領ヲ拒絶スヘシ(一)

第五條 大正五年勅令第二百五十六號第二條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ直ニ其ノ支拂ナカリシ金額ニ相當スル領收濟額ヲ取消スヘシ領收濟額ヲ取消シタル出納官吏又ハ日本銀行ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ歳入徴收官(分掌官)ニ報告スルコトヲ要ス(一)

出納官吏ノ拂込又ハ市町村ノ送付ニ係ルモノニ付領收濟額ヲ取消シタルトキハ日本銀行ハ直ニ其ノ旨ヲ出納官吏又ハ市町村ニ通知シ該證券ヲ返付スヘシ

出納官吏又ハ市町村前項ニ依リ證券ノ返付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ受領證書ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第六條 歳入徴收官(分掌官ヲ含ム以下同シ)ニ於テ出納官吏又ハ日本銀行ヨリ領收濟額取消ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ收入濟額ヲ取消スヘシ(一)

歳入徴收官收入濟額ヲ取消シタルトキハ納人ニ對シ前ニ發付又ハ交付シタルモノト同一納期日ノ納稅告知書、納入告知書、納付書又ハ拂込通知書ヲ送付スヘシ但シ領收濟額取消ノ報告ヲ受ケタル日カ歳入金ノ納期日又ハ督促狀若ハ督促書ノ指定期日後ニ屬スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ市町村ニ於テ領收濟額ヲ取消シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七條 大正五年勅令第二百五十六號第三條ノ通知書ハ納人ヨリ證券ヲ受領シタル出納官吏、日本銀行又ハ市町村之ヲ發スヘシ(一)

前項通知書ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於ケル公告ハ官報ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ但シ出納官吏在勤官署、日本銀行又ハ市町村ノ揭示場ニ七日間揭示シテ之ニ代フルコトヲ得

第八條 支拂ナカリシ證券ノ還付ヲ受ケムトスル納人ハ其ノ證券ヲ納付シタル官署、日本銀行又ハ市町村役場ニ就キ之カ請求ヲ爲スヘシ(一)

出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ領收證書ヲ徴シ之ト引換ニ證券ヲ還付スヘシ

第九條 郵便ニ依リ納付シタル證券ニシテ受領スヘカラサルモノ又ハ受領シタル證券ニシテ偽造、變造若ハ違式ナルモノニ付テハ第五條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

第十條 證券ノ呈示期間若ハ有効期間ヲ經過シタルカ爲支拂ヲ受クルコトヲ得サルトキ又ハ證券ヲ亡失シタルトキハ出納官

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則

吏在勤官署、日本銀行又ハ市町村ハ證券ノ種類ニ從ヒ直ニ當該法規ノ定ムル所ニ依リ必要ナル手續ヲ爲シ支拂又ハ償還ノ請求ヲ爲スヘシ(一)

前項ノ場合ニ於テ裁判上ノ行爲ヲ必要トスルトキハ出納官吏在勤官署ニ在リテハ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル所屬官廳ニ、日本銀行ニ在リテハ大藏大臣ニ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シテ之カ處理ヲ申請スヘシ

市町村ハ第一項ニ依リ支拂又ハ償還ヲ受クルニ先タチ之ニ相當スル金額ヲ日本銀行ニ送付スルコトヲ得
第十一條 亡失シタル證券又ハ呈示期間若ハ有効期間ヲ經過シタル證券ニシテ支拂又ハ償還ヲ受クルコトヲ得サリシモノノ金額ニ付テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ避クヘカラサル事由ヲ證明スルニアラサレハ其ノ責任ヲ免カルコトヲ得ス(一)

第十二條 歳入徴收官ニ於テ大正五年大藏省令第三十號第二條ニ依リ承認ヲ爲ストキハ納稅告知書、納入告知書、納付書、拂込通知書又ハ即納通知書ヲ用キルモノニ在リテハ其ノ餘白ニ第三號様式ノ印章ヲ押捺スヘシ

第十三條 出納官吏、日本銀行又ハ市町村ニ於テ證券ヲ受領シタルトキハ現金ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ(一)
市町村ハ受領證券仕譯簿ヲ備ヘ納人別ニ之カ整理ヲ爲スヘシ

第十四條 鐵道、郵便電信電話官署ノ出納官吏ニ於テ受領シタル證券ニシテ第三條第一項但書ニ該當スルモノハ之ヲ日本銀行ニ預託シ又ハ郵便局過超金ノ振換拂込ニ充用スルコトヲ得(一)

前項ノ規定ニ依リ拂込マレタル預託金又ハ郵便局過超金ニ付テハ日本銀行ハ其ノ證券ヲ現金ニ引換ヘタル後ニ非サレハ預託金領收證書又ハ郵便局過超金領收證書ヲ交付スルコトヲ得ス

第一號様式

「何官署」「何市町村」扱

字体 楷書
寸法 曲尺 縦一吋五分

第二號様式 用紙適宜 輪廓寸法 縦四吋五分 横三吋三分

證券仕譯書第 號

種類	枚數	券面金額
小切手		円
國債證券 ノ利札		
省令 ノ命令 内拂 宮仕		
金符 ノ管切 保引		
爲書 ノ便證 郵替		
合計		

年月日
何官署出納官吏 官 氏 名 印
又ハ
何市町村長 氏 名 印

備考

- 一 本書記載事項ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ出納官吏又ハ市町村長其ノ認印ヲ押捺スルモノトス
- 二 本書ハ正副二通ヲ作り副本ハ拂込、預託又ハ送付金額ニ對スル日本銀行ノ領收證書ヲ添附シ置クモノトス
- 三 國債證券ノ利札ニシテ第一條ノ二ニ該當スル場合ニ於テハ券面金額欄ニ納付金額ヲ記載シ 資本利子税ニ相當スル金額ヲ外書スルモノトス(二追加)

第三號様式

小切手ヲ以テ納付スル場合ニハ支拂銀行ノ支拂保證ヲ要セス
「何官署」

字体 楷書
寸法 適宜

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則

●證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律實施ニ付取扱方

大正五年十二月二十一日
大藏省訓令第十三號

改正(一) 大正十一年四月一日
(二) 大正十五年八月二十八日
大藏省訓令第十六號
大藏省訓令第十七號

出納官吏 日本銀行 市町村

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律實施ニ付取扱方左ノ通心得ヘシ

第一條 北海道廳、府縣、稅務監督局及稅務署ノ出納官吏又ハ市町村ニ於テ受領シタル證券ハ大正五年大藏省令第三十一號第三條第一號乃至第三號ニ該當スルモノヲ除クノ外之ヲ郵便局ニ拂込又ハ送付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ大正四年大藏省令第一號第一條、第五條、第六條、第八條及大正五年大藏省令第三十二號第三條ノ規定ニ準據スルモノトス
前項ニ依リ拂込又ハ送付ヲ爲シタル證券ニシテ支拂ナカリシカ爲郵便局ヨリ返付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ受領證書ヲ郵便局ニ送付スヘシ

第二條 證券ノ受拂ニ關スル現金出納簿ノ記帳方ハ左記各號ニ依ルヘシ

一 證券ヲ納人ヨリ受領シタルトキ又ハ其ノ證券ヲ日本銀行若ハ郵便局ニ拂込ミタルトキハ之カ受拂ヲ登記スルモノトス但シ摘要欄内ニ「證券」ノ文字ヲ附記シテ現金ト區分スルコトヲ要ス(一)
受領證券申證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則第一條ノ二本文ニ該當スルモノニ付テハ摘要欄内ニ「國債利札」ノ文字ヲ附記シ受拂額ヲ區分記載スルコトヲ要ス(二追加)

二 大正五年大藏省令第三十二號第五條ニ依リ領收濟額ヲ取消シタルトキハ其ノ日ニ於テ受ノ欄ニ當該金額ヲ朱書登記スルモノトス但シ日本銀行又ハ郵便局ヨリ領收濟額取消ノ通知ヲ受ケタルモノナルトキハ受拂ノ各欄ニ登記スルコトヲ要ス

ス

第三條 市町村ニ於テ大正五年大藏省令第三十二號第五條ニ依リ領收濟額ヲ取消シタルトキハ歳入金收納簿ノ當該納人ノ口座ニ其ノ金額事由及年月日ヲ朱書登記スルモノトス

第四條 歳入徵收官ニ對スル出納官吏又ハ日本銀行ノ領收濟額取消報告書ニハ年度、科目、金額、事由其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ出納官吏又ハ市町村ニ對スル日本銀行ノ領收濟額取消通知書ニ付亦同シ(一)

第五條 出納官吏又ハ日本銀行ハ證券ニ關スル仕譯簿ヲ備ヘ納人別ニ證券ノ種類、記號、番號、金額、振出入及支拂人ノ氏名其他必要ナル事項ヲ記載シ其ノ受入、支拂請求、拂込又ハ還付ノ年月日ヲ記入整理シ證券ニ關スル一切ノ受拂ノ顛末ヲ明瞭ナラシムヘシ(一)

市町村ニ於ケル受領證券仕譯簿ノ記帳整理方ハ前項ノ規定ニ準據スルモノトス
出納官吏又ハ市町村ヨリ拂込又ハ送付ヲ受ケタルモノニ付テハ郵便局ノ出納官吏及日本銀行ハ第一項ノ記入整理ヲ省略スルコトヲ得

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則別表第二號書式備考三八無記名國債證券ノ利札ヲ受領シタル場合ニ於ケル仕譯簿ノ記帳方ニ付之ヲ準用ス(二追加)

●證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ノ件

大正五年十二月二十一日
勅令第二百五十五號

朕大正五年法律第十號ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
大正五年法律第十號ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律實施ニ付取扱方
證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律ヲ朝鮮等ニ施行ノ件

附則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 證券ヲ以テスル大藏省主管歳入納付ニ關スル

件

大正五年十二月二十一日
大藏省令第三十一號

改正 (一) 大正十一年四月一日
大藏省令第三十五號

第一條 大藏省主管ノ歳入ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外總テ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得(一)

第二條 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ爲替手形ハ左ニ掲クル歳入ノ納付ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

一 科料及過料

二 間接國稅犯則者納金及間接國稅犯則者處分費辨納金

三 關稅法第九十四條ノ規定ニ依ル納金

第三條 郵便局ニ於テ取扱フ歳入ハ左ニ掲クル證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得ス(一)

一 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手ニシテ納付スヘキ郵便局所在地ノ手形交換所ニ加入セサル銀行ニ宛テタルモノ但シ其ノ手形交換所ニ加入セル銀行ノ所在地ニ在ル同一銀行ノ支店ニ宛テタルモノヲ除ク

二 郵便爲替證書ニシテ納付スヘキ郵便局以外ノ郵便局ヲ拂渡郵便局トシテ指定シタルモノ

三 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ郵便爲替證書以外ノ證券ニシテ其ノ支拂場所カ納付スヘキ郵便局ノ所在地ニ在ラサルモノ

第四條 町村又ハ戸長ニ於テ徵收スル歳入ハ政府以外ノ者ノ振出シタル小切手ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得ス但シ左ニ掲ク

ル町村ノ徵收スル歳入ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(一)

一 市又ハ區ニ接続スル町村

二 大正五年大藏省令第三十號第一條ニ掲ケタル銀行ノ所在地タル町村

附則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 證券ヲ以テスル内務省主管歳入納付ニ

關スル件

大正五年十二月二十八日
内務省令第十六號

改正 (一) 昭和二年三月十七日
内務省令第十三號 (二) 昭和七年三月三日
内務省令第四號

第一條 内務省主管ニ屬スル一般會計、健康保險特別會計及勞働者災害扶助責任保險特別會計ノ歳入ハ總テ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得(一、二)

第二條 小切手又ハ爲替手形ハ左ニ掲クル歳入ノ納付ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

一 科料及過料

二 間接國稅犯則者納金及間接國稅犯則者處分費辨納金

第三條 (一) 削除

附則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○ 昭和七年内務省令第四號附則

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

證券ヲ以テスル大藏省主管歳入納付ニ關スル件
證券ヲ以テスル内務省主管歳入納付ニ關スル件

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●證券ヲ以テスル農商務省主管歳入納付ニ

關スル件 大正五年十二月二十八日 農商務省令第三十號

農商務省主管ノ歳入ハ總テ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

附則

明治三十九年農商務省令第四號ハ之ヲ廢止ス

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●證券ヲ以テスル海軍省主管歳入納付ニ

關スル件 大正五年十二月二十九日 海軍省令第十四號

海軍省主管ノ歳入ハ罰金、科料、過料並艦船乗組收入官吏ニ於テ受領スルモノヲ除ク外總テ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●證券ヲ以テスル司法省主管歳入納付ニ

關スル件 大正五年十二月二十九日 司法省令第三十五號

改正(一) 大正十一年六月二日 司法省令第十四號

第一條 司法省主管ノ歳入ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得
第二條 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ爲替手形ハ罰金、科料、過料、刑事追徴金、訴訟費用及非訟事件ノ費用ノ納付ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス(一)

附則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●證券ヲ以テスル逓信省主管歳入納付ニ

關スル件 大正五年十二月二十九日 逓信省令第七十二號

改正(一) 大正十年八月三十日 逓信省令第四十一號 (二) 大正十一年五月六日 逓信省令第三十五號

大正五年勅令第二百五十六號第五條及第六條第二項ニ依リ證券ヲ以テ納付シ得ル歳入ノ種目及其ノ納付ニ關スル制限左ノ通定ム

- 第一條 逓信省主管ノ歳入ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外總テ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得
- 第二條 郵便局ニ於テ取扱フ歳入ハ左ニ掲クル證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得ス(一)
 - 一 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手ニシテ納付スヘキ郵便局所在地ノ手形交換所ニ加入セサル銀行ニ宛テタルモノ但シ其ノ手形交換所ニ加入セル銀行所在地ノ同一銀行ノ支店ニ宛テタルモノヲ除ク
 - 二 郵便爲替證書ニシテ納付スヘキ郵便局以外ノ郵便局ヲ拂渡郵便局トシテ指定シタルモノ
 - 三 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ郵便爲替證書以外ノ證券ニシテ其ノ支拂場所カ納付スヘキ郵便局ノ所在地ニ在

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

證券ヲ以テスル農商務省、海軍省、司法省、逓信省主管歳入納付ニ關スル件

ラサルモノ

第三條 前條ノ規定ハ電信局及電話局ニ於テ取扱フ歳入ニ之ヲ準用ス但シ電信局及電話局ニ於テ取扱フ歳入ハ郵便爲替證書ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得ス

第四條 收入印紙及郵便切手類ノ賣捌代金ハ政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ爲替手形ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得ス

(I, II)

附則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 證券ヲ以テスル陸軍省主管歳入納付ニ

關スル件

大正六年一月十六日
陸軍省令第一號

改正(一) 大正十一年四月十七日
陸軍省令第十三號

(二) 大正十二年三月三十日
陸軍省令第十二號

(三) 昭和九年四月六日
陸軍省令第十一號

大正五年勅令第二百五十六號歳入納付ニ使用スル證券ニ關スル件第五條及同第六條第二項ニ依リ證券ヲ以テ納付シ得ル陸軍省主管歳入金ノ種目及納付證券ノ制限左ノ通定ム

第一條 陸軍省主管ノ歳入中左ニ掲クルモノハ別段ノ規定アルモノノ外證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得(II, III)

一 一般會計

歳入經常部 雜收入中幼年學校自費生納金、懲罰及沒收金辨償及違約金

歳入臨時部 官有物拂下代

二 特別會計

陸軍造兵廠作業收入

千住製絨所作業收入

陸軍營繕費補充資金收入

第二條 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ爲替手形ハ左ニ掲クル歳入ノ納付ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス(一)

罰金、科料、辨償金、違約金

第三條 收入官吏ニ於テ取扱フ歳入ノ納付ニ使用スルコトヲ得ル證券ハ其ノ支拂場所カ收入官吏ノ所在地又ハ收入官吏ノ所在地ヲ出納區域トスル日本銀行本店支店又ハ代理店ノ所在地ニ在ルモノニ限ル(一)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和九年陸軍省令第十一號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

● 證券ヲ以テスル外務省主管歳入納付ニ

關スル件

大正六年一月二十七日
外務省令第二號

外務省主管ノ歳入ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

證券ヲ以テスル陸軍省、外務省主管歳入納付ニ
關スル件

●證券ヲ以テスル文部省主管歳入納付ニ

關スル件

大正六年三月一日
文部省令第三號

改正(一) 大正十一年三月三十一日
文部省令第十四號

文部省主管ニ屬スル一般會計及特別會計ノ歳入ハ帝國大學、官立大學及醫學專門學校附屬醫院ニ於ケル外來患者ノ診察料、藥價、手術料、治療料及雜品代ヲ除ク外證券ヲ以テ納付スルコトヲ得(一)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●證券ヲ以テスル帝國鐵道會計所屬歳入納付ニ

關スル件

大正十四年四月二十一日
鐵道省令第二號

改正(二) 昭和八年一月二十日
鐵道省令第一號

大正五年勅令第二百五十六號第五條及第六條ニ依リ帝國鐵道會計ニ屬スル歳入中證券ヲ以テ納付シ得ル歳入ノ種目左ノ通相定ム
證券ヲ以テ納付シ得ル歳入ノ種目及納付場所ニ關スル件

第一條 鐵道會計ノ歳入金ニシテ納入告知書、拂込通知書又ハ徵收傳票ヲ發シタルモノハ證券ヲ以テ納付スルコトヲ得
驛所及ホテルニ於テ出納官吏(出納員ヲ含ム)ヲシテ直ニ領收セシムル歳入金ハ左ニ掲クル種目ニ限り小切手ヲ以テ納付スルコトヲ得

- 一 貨物運賃(小荷物ヲ除ク)並貨車留置料、貨物保管料、留置料、立替金其ノ他貨物運送ニ附帶スル料金
 - 二 石炭船積料
 - 三 旅館收入
 - 四 倉敷料、貨庫料並附帶諸料金及諸費用(一追加)
 - 五 委託小荷物扱所及驛派出鐵道案内所ノ收入納付金(一追加)
- 第二條 證券ヲ以テ歳入金ヲ納付シ得ル場所ハ別ニ之ヲ告示ス

附則

本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正五年^{十二月} 大藏省令第三十四號帝國鐵道會計ニ屬スル歳入中證券ヲ以テ納付シ得ル歳入ノ種目及納付場所ニ關スル件ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○昭和八年鐵道省令第一號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●證券ヲ以テスル拓務省主管歳入納付ニ關スル件

昭和十年二月八日
拓務省令第一號

證券ヲ以テ歳入納付方ノ件左ノ通定ム

證券ヲ以テ歳入納付方ノ件

拓務省主管ノ歳入ハ別段ノ規定アルモノヲ除ク外證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

證券ヲ以テスル文部省、帝國鐵道會計、拓務省主管
歳入納付ニ關スル件

●兌換銀行券條例

明治十七年五月二十六日
太政官布告第十八號

改正 (一) 明治十八年五月七日
太政官布告第九號

(二) 明治二十一年八月一日
勅令第五十九號

(三) 明治二十三年五月十七日
法律第三十四號

(四) 明治三十年三月二十九日
法律第十八號

(五) 明治三十二年三月十日
法律第五十五號

(六) 昭和七年六月十八日
法律第九號

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治七年九月第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一ケ年ノ後廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

兌換銀行券條例

第一條 兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ金貨ヲ以テ兌換スルモノトス(四)

第二條 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ但シ銀貨及銀地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス(二、四)

日本銀行ハ前項ノ規定ニ依ル準備發行高ノ外十億圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其ノ他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得(三、五、六)

日本銀行ハ必要アリト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ依ル發行高ノ外更ニ前項ニ規定スル物件ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但シ十五日ヲ超エ仍其ノ發行ヲ繼續セントスルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス(六)

日本銀行ハ前項但書ノ場合ニ於テ十六日以後八十億圓ヲ超過スル保證發行額ニ對シ大藏大臣ノ定ムル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムベシ但シ其ノ割合ハ年三分ヲ下ルコトヲ得ズ(六追加)

日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限リ無利子ヲ以テ政府へ貸付スヘシ(三)
前項貸付金ノ償還年限及毎年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條 兌換銀行券ノ種類ハ壹圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓貳百圓ノ七種トス但大藏卿ハ各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條 兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條 兌換銀行券ハ大藏卿ノ指定スル書式圖形ニ依リ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時々其製造高ヲ大藏卿ニ上申スヘシ但其見本ハ發行期日前大藏卿ヨリ告示スヘシ

第六條 兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ兌換スヘシ但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得(一)

第七條 金貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換ンコトヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ交換スルモノトス(四)

第八條 日本銀行ハ兌換銀行券發行額及交換準備ニ關スル出納日表及每週平均高表ヲ製シ之ヲ大藏大臣へ進達シ且每週平均高表ハ官報ニ廣告スヘシ(二)

第九條 大藏卿ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ檢査スルコトヲ得

第十條 兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ引換フヘシ

第十一條 兌換銀行券ノ製造、損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ

第十二條 兌換銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

○明治三十年法律第十八號附則

此ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

兌換銀行券條例

○昭和七年法律第九號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和七年勅令第百一號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

●兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ

關スル件

昭和十三年四月一日
法律第六十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
兌換銀行券條例第二條第二項及第四項中十億圓トアルハ當分ノ内之ヲ十七億圓トス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ支那事變終了後一年内ニ之ヲ廢止スルモノトス

●罹災救助基金法(抜抄)

明治三十二年三月二十二日
法律第七十七號

改正(三) 大正五年三月十八日
法律第三十號

(四) 大正七年三月二十九日
法律第十九號

(五) 昭和七年九月八日
法律第三十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル罹災救助基金法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

罹災救助基金法

第十七條 罹災救助基金ノ運用ハ左ノ範圍ヲ出ツルコトヲ得ス

一 國債證券地方債證券勸業債券日本興業銀行債券北海道拓殖銀行債券農工債券ノ應募、買入又ハ府縣其ノ他ノ公共團體

ヘ利付ニテ貸出スコト但シ地方債證券及債券ノ應募額買入額並府縣其ノ他ノ公共團體ヘノ貸出額ハ合シテ罹災救助基金
年度初ノ現在高ヨリ第三條ノ制限額ノ三分ノ二ヲ控除シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス(三、四)

二 豫メ給與品ヲ買入ルコト

三 大藏省預金部ニ預ケ入ルコト(五)

四 確實ナル銀行ニ利付ニテ當座預ケ定期預ケヲ爲スコト但シ罹災救助基金年度初ノ現在高十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
前項第一號ノ規定ニ依ル地方債證券ノ應募、買入又ハ府縣其ノ他ノ公共團體ヘノ貸出ニ付テハ内務大臣及大藏大臣ノ認可
ヲ受クベシ(五追加)

○昭和七年法律第三十三號附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(略)

●新聞紙法及豫約出版法ニ依ル保證金ニ充ツルコトヲ得ル
有價證券ノ種類

明治四十三年四月十六日
內務省令第十五號

新聞紙法第十二條第三項及豫約出版法第四條第二項ニ依リ管轄地方官廳ニ納ムヘキ保證金ニ充ツルコトヲ得ル有價證券ノ種
類左ノ如シ

一 國債證券

附則

明治四十二年五月內務省令第十五號ハ之ヲ廢止ス

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張 罹災救助基金法
新聞紙法等ニ依リ保證金ニ充當シ得ル有價證券ノ種類

●入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件

明治四十三年九月七日
勅令第三百四十號

改正(一) 大正九年十二月二十八日
勅令第五百八十一號

朕入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
入札又ハ契約ニ關シ保證金ヲ徵スヘキ規定ナキ場合ニ於テハ當該官吏特ニ其ノ必要アリト認メタルトキハ現金又ハ國債ヲ以テ保證金ヲ納付セシムルコトヲ得(一)
落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ保證金ハ政府ノ所得トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正九年勅令第五百八十一號附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前納付シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限り本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

●華族世襲財產法

大正五年九月二十日
法律第四十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル華族世襲財產法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

華族世襲財產法

第一條 有爵者ハ其ノ家格ヲ維持スルニ必要ナル範圍内ニ於テ世襲財產ヲ設定スルコトヲ得
第二條 世襲財產ノ設定ハ遺言ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 世襲財產ハ家寶、不動産、登録國債又ハ記名ノ有價證券ニ限ル

第四條 世襲財產ヲ設定セムトスルトキハ其ノ財產ノ目錄ヲ添ヘ宮内大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

第五條 有爵者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人、準禁治產者ナルトキハ其ノ保佐人ハ豫メ家政協議員會ノ決議ヲ經テ世襲財產設定ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

有爵者カ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ家產ヲ治ムルニ堪ヘス又ハ之ヲ傾クルノ虞アルトキハ家政協議員會ハ本人ニ代リテ前項ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

家政協議員會ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定ム

第六條 世襲財產設定ノ認可ノ申請アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ當否ヲ調査スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ本人ノ財產ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第七條 宮内大臣ハ世襲財產設定ノ認可ノ申請ヲ相當ナリト認ムルトキハ其ノ申請アリタル旨ヲ一週間公告スヘシ

前項ノ公告ニハ土地ニ付テハ其ノ所在地目及面積、建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他必要ナル事項ヲ掲クヘシ

第八條 前條ノ規定ニ依リ公告シタル財產ニ關シ權利ヲ有スル者及債權者ハ前條第一項ノ公告期間内又ハ其ノ期間滿了後二ヶ月内ニ之ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

世襲財產設定ノ認可ハ前項ニ定メタル期間滿了ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 宮内大臣ハ世襲財產設定ノ認可ノ申請ノ全部又ハ一部ヲ認可スヘカラサル理由アリト認ムルトキハ華族世襲財產審議會ニ諮詢スヘシ

華族世襲財產審議會ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定ム

第十條 宮内大臣ハ世襲財產ノ設定ヲ認可シタルトキハ其ノ旨及第七條第二項ニ掲クル事項ヲ公告スヘシ

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件 華族世襲財產法

第十一條 前十條ノ規定ハ世襲財産ヲ増加スル場合ニ亦之ヲ適用ス

第十二條 宮内大臣ハ華族世襲財産臺帳ヲ設ケ世襲財産ニ關スル事項ヲ登録スヘシ

第十三條 世襲財産タル登録國債ニ付テハ國債登録簿ニ世襲財産タル旨ヲ登録シ有價證券ニ付テハ宮内大臣ハ之ニ世襲財産タル旨ヲ記入スヘシ

株券及社債券ニ付テハ前項ノ規定ニ依ルノ外株主名簿又ハ社債原簿ニ世襲財産タル旨ヲ記入スヘシ

登錄國債又ハ有價證券ノ世襲財産タル效力ハ前二項ノ手續ヲ踐ミタル後ニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四條 世襲財産ノ效力ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルニ至リタル日以後ハ其ノ前ノ原因ニ基キ世襲財産ニ付所有權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ確定判決又ハ確定日附アル證書ニ依リテノミ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ權利ヲ主張セムトスル者ハ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

第十五條 世襲財産ハ家督相續ノ特權ニ屬ス

第十六條 世襲財産及其ノ法定果實ヲ收取スル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ質權若ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得ス株券カ世襲財産タル場合ニ於テ利益又ハ利息ノ配當ヲ受クル權利ニ付亦同シ

第十七條 土地カ世襲財産タル場合ニ於テ地上權又ハ永小作權ノ設定又ハ變更ハ宮内大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十八條 世襲財産及第十六條ニ掲クル權利ハ世襲財産ノ管理ニ因リテ生シタル權利及不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ニ基ク場合ヲ除クノ外民事上ノ強制執行ノ目的ヲ以テ之ヲ差押ヘ又ハ一般ノ先取特權ニ基キ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

世襲財産ノ果實及第十六條ノ利益又ハ利息カ他ノ財産ト混合セサル間其ノ三分ノ二ニ付亦前項ニ同シ
前二項ノ規定ハ世襲財産ノ效力ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルニ至リタル日前ニ爲シタル假差押ニ基キ差押ヲ爲シ又ハ一

般ノ先取特權ニ基キ著手シタル競賣ヲ續行スルコトヲ妨ケス

第十九條 世襲財産ハ重大ナル事由アルトキニ限り其ノ一部ヲ廢止スルコトヲ得

世襲財産ハ他ノ世襲財産ニ換フル爲其ノ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得

第四條、第五條第一項及第六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 宮内大臣ハ世襲財産ノ廢止ヲ認可スヘキヤ否ヤニ付華族世襲財産審議會ニ諮詢スヘシ

第二十一條 第十九條第二項ノ規定ニ依リ世襲財産ヲ廢止シタル場合ニ於テハ廢止ノ認可ヲ受ケタル者又ハ其ノ家督相續人ハ認可アリタル日ヨリ六月内ニ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ期間内ニ申請ヲ爲ササルトキハ宮内大臣ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ申請ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

第二十二條 世襲財産カ收用、滯納處分、償還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ他ノ財産ニ代リタルトキハ所有者ハ其ノ財産ヲ以テ世襲財産ヲ補充スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

世襲財産ニ代リタル財産ニシテ他ノ財産ト混合セサルモノニ付テハ第十八條第一項ノ規定ヲ準用ス

宮内大臣ハ相當ノ事由アリト認ムルトキハ前條第一項ノ認可ノ申請ヲ免除スルコトヲ得

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テ宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ管理人ヲ選任シ世襲財産タリシ財産又ハ前條ノ財産及其ノ財産ノ處分ニ因リテ得タル財産ヲ管理セシムルコトヲ得果實又ハ配當ヲ受ケタル利益若ハ利息ニシテ管理財産ト混合シタルモノニ付亦同シ

宮内大臣ハ管理人ヲ改任シ其ノ他財産ノ管理ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 管理人ノ選任アリタル場合ニ於テ本人、其ノ法定代理人又ハ保佐人カ世襲財産設定ノ認可ヲ申請セサルトキハ管理人ハ遲滞ナク管理財産ニ付其ノ申請ヲ爲スヘシ

第二十五條 管理財産ハ管理人ニ於テノミ之ヲ處分シ又ハ管理ニ因リテ生シタル權利若ハ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權

ニ基キテノミ民事上ノ強制執行若ハ競賣ヲ爲スコトヲ得

第十六條及第十八條第二項ノ規定ハ管理財産ノ果實ニ之ヲ準用ス管理財産中株券アル場合ニ於テ利益又ハ利息ニ付亦同シ

第二十六條 有爵者爵ヲ失ヒ又ハ襲爵者ナキコト確定シタルトキハ世襲財産ハ失爵又ハ家督相續開始ノ時ヨリ其ノ效力ヲ失フ

第二十七條 世襲財産ニ付第十四條第二項ノ申出アリタル後二月内ニ主張ニ係ル權利ヲ消滅セシメ又ハ主張ニ對シ訴ヲ提起セサルトキハ其ノ財産ハ初ヨリ世襲財産タル效力ヲ失フ

前項ノ期間内ハ主張ニ係ル權利ニ基キテ競賣ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 第二十三條乃至第二十五條ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リテ世襲財産タル效力ヲ失ヒタル財産アル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ財産ニ代リ其ノ所有者ニ歸シタル財産アル場合ニ於テハ第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 世襲財産ノ廢止、失效其ノ他ノ異動アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ管理人ヲ選任又ハ改任シタルトキ亦同シ

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

登錄國債又ハ有價證券ニ付世襲財産ノ廢止又ハ失效アリタルトキハ第十三條ノ登錄又ハ記入ヲ抹消スヘシ

第三十條 管理財産中登錄國債アルトキハ國債登錄簿ニ管理財産タル旨ヲ登錄シ管理終了シタルトキハ其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 世襲財産ニ關スル公告、登記又ハ登錄ノ費用ハ其ノ名義人ノ負擔トス

第三十二條 宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ世襲財産ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得
宮内大臣ハ世襲財産ノ管理ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第三十三條 本法ノ施行ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定ム

附則

従前ノ規定ニ依ル世襲財産及其ノ附屬物ハ本法ニ依ル世襲財産ト看做ス

本法施行ノ際従前ノ規定ニ依リ世襲財産ノ純收益ニ付他人ノ有スル權利ハ本法施行後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス本法施行前著手シタル差押又ハ假差押ニ付亦同シ

不動産登記法第四百四條中「創設」ヲ「設定」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加ヘ同法第四百四十三條中「解除」ヲ認可シタルトキ「廢止」又ハ失效アリタルトキ「創設」ヲ「設定」ニ改ム

華族世襲財産法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル管理財産中不動産アルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク管理財産タル旨ノ登記ヲ登記所ニ囑託シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス
管理人カ其管理中取得シタル不動産ニ付テハ取得ノ登記ト共ニ管理財産タル旨ノ登記ヲ申請シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

●華族世襲財産法施行規則

大正五年九月二十日
宮内省令第七號

華族世襲財産法施行規則勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

華族世襲財産法施行規則

第一章 世襲財産

第一條 世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ家寶ハ所有者ノ家ニ由緒アルモノタルコトヲ要ス

第七類 國債ノ保有乃至利用施設 華族世襲財産法施行規則

第二條 世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ土地ハ相當ノ收益ヲ生スルモノ、所有者ノ家ニ由緒アルモノ又ハ所有者ノ邸地タルコトヲ要ス

第三條 世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ建物其ノ他土地ノ定著物ハ所有者ノ家ニ由緒アルモノ又ハ其ノ所有ニ屬スル世襲財産タル土地ノ上ニ存スルモノタルコトヲ要ス

第四條 家寶又ハ不動産ニシテ特ニ歴史ノ證徴又ハ美術ノ模範トナルヘキモノハ前三條ノ規定ニ拘ラス之ヲ世襲財産ト爲スコトヲ得

第五條 世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ有價證券ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

一 國債證券又ハ地方債證券

二 政府ノ特別保護若ハ特別監督ヲ受クル會社又ハ宮内大臣ニ於テ確實ト認ムル會社ノ株券ニシテ拂込済ノモノ

三 政府ノ特別保護若ハ特別監督ヲ受クル會社又ハ宮内大臣ニ於テ確實ト認ムル會社ノ社債券

第二章 世襲財産ノ設定

第六條 世襲財産設定ノ認可ノ申請書ニハ家寶ニ付テハ其ノ品目、種類及箇數、土地ニ付テハ其ノ所在、地目及面積、建物其ノ他土地ノ定著物ニ付テハ其ノ所在、種類、構造及建坪、登録國債及有價證券ニ付テハ其ノ種類、名稱、記號番號、金額及箇數ヲ記載シタル財産目錄ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 世襲財産ト爲スコトヲ得ヘキ理由ヲ詳記シタル書類

二 家寶ニ付テハ其ノ内容、構造其ノ他必要ナル事項ヲ詳記シタル書類

三 土地ニ付テハ其ノ位置、形狀ヲ示スヘキ圖面及土地臺帳ノ謄本

四 建物其ノ他土地ノ定著物ニ付テハ其ノ位置、構造ヲ示スヘキ圖面及建物臺帳アルトキハ其ノ謄本

五 土地又ハ建物ニ付テハ登記簿ノ謄本

六 家寶又ハ建物ヲ保險ニ付シタルトキハ其ノ契約ノ要旨ヲ記載シタル書類

七 申請ニ係ル土地ニ生立スル立木ニ付テハ立木登記簿ノ謄本

八 登録國債ニ付テハ國債登錄簿ノ謄本及登録所管國債事務取扱店ノ名稱ヲ記載シタル書類

九 當該財産ニ對スル權利者ノ有無、其ノ氏名及權利ノ種類、内容ヲ證スヘキ書類

十 民事上ノ強制執行、假差押若ハ假處分又ハ競賣ノ手續中ノ財産ニ付テハ其ノ事實ヲ證スヘキ公正ノ證明書並權利者ノ氏名及權利ノ種類、内容ヲ證スヘキ書類

十一 土地收用法、森林法、鑛業法其ノ他公益ノ爲ニスル財産ノ收用、徵發又ハ制限ニ關スル法令ノ適用ヲ受ケタル財産及滯納處分其ノ他公法上ノ執行處分ニ依リ差押アリタル財産ニ付テハ其ノ事實ヲ示スヘキ書類

第十二 收益ヲ生スル財産ニ付テハ總收益及純收益ノ年額並其ノ算出ノ基礎ヲ示スヘキ書類

第七條 世襲財産設定ノ遺言アルコトヲ知リタル相續人、其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遺言カ其ノ效力ヲ生シタル後遲滯ナク遺言者ノ氏名、遺言ノ趣旨並遺言執行者ノ有無及之アルトキハ其ノ氏名ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ遺言執行者ナキニ至リタルトキ又ハ遺言執行者ノ更迭アリタルトキ亦同シ

第八條 遺言ニ基キ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スヘキ場合ニ於テ遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ相續人、其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遲滯ナク遺言執行者ノ選任ヲ裁判所ニ申請スヘシ

第九條 遺言執行者ハ其ノ資格ヲ證スヘキ書類ヲ添へ遲滯ナク世襲財産設定ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ世襲財産ノ設定ニ關スル遺言書又ハ其ノ謄本及遺言書ノ檢認書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ但シ公正證書ニ依ル遺言ニ在リテハ其ノ正本又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第十條 華族世襲財産法第五條第一項ノ規定ニ依リ有爵者ノ法定代理人又ハ保佐人カ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ資格ヲ證スヘキ書類及家政協議員會ノ決議書ヲ添附スヘシ

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

華族世襲財産法施行規則

華族世襲財産法第五條第二項ノ規定ニ依リ家政協議員會カ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ理由ヲ詳記シ家政協議員會ノ決議書ヲ添附スヘシ

第十一條 世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テ有價證券ハ申請ト同時ニ之ヲ宮内大臣ニ提出スヘシ
前項ノ證券利札付ナルトキハ支拂期ノ到來セサル利札ヲモ提出スヘシ但シ其ノ利札完備セサルトキハ財産目錄ニ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第十二條 華族世襲財産法第六條第一項ノ規定ニ依リ調査ヲ爲ス場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ家寶及不動産ニ付テハ其ノ所在ニ就キ之ヲ爲スヘシ但シ家寶ハ之ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第十三條 華族世襲財産法第六條第二項ノ規定ニ依リ財産ノ狀況ヲ調査スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ申請者ヲシテ書面ヲ以テ其ノ狀況ヲ申告セシメ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ財産ノ所在ニ就キ調査ヲ爲サシムヘシ
前項ノ申告書ニハ動産、不動産、債權、債務其ノ他一切ノ財産ニ付申告書調製ノ時ニ於ケル價額ヲ附記スヘシ

第十四條 前二條ノ規定ニ依リ財産ノ所在ニ就キ調査ヲ爲ストキハ其ノ所有者、法定代理人、保佐人、家政協議員又ハ同居ノ成年家族ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第十五條 世襲財産設定ノ認可アリタルトキハ登録國債ニ付テハ登録所管國債事務取扱店ニ於テ、株券又ハ社債券ニ付テハ當該會社ニ於テ宮内大臣ノ通知ニ依リ世襲財産設定ノ認可アリタル旨及其ノ年月日ノ登録又ハ記入ヲ爲スヘシ

第十六條 宮内大臣世襲財産ノ設定ヲ認可シタルトキハ有價證券ニハ世襲財産タルコトヲ證スヘキ印章ヲ押捺シ且認可ノ年月日ヲ記入シ其ノ利札ニハ各葉ニ世襲財産タル有價證券ノ利札タルコトヲ證スヘキ印章ヲ押捺スヘシ

第十七條 第十一條及第十二條ノ規定ニ依リ提出シタル物件ハ世襲財産ノ設定ヲ認可シタルトキハ之ヲ還付スヘシ其ノ設定ヲ認可セサルトキ亦同シ但シ時宜ニ依リ其ノ前ニ還付スルコトアルヘシ

第十八條 宮内大臣華族世襲財産法第七條ノ規定ニ依リ公告シタル財産ニ付世襲財産ノ設定ヲ認可セサルトキハ其ノ旨ヲ公

告スヘシ申請者其ノ申請ヲ取下ケタルトキ亦同シ

第十九條 華族世襲財産法及本令ノ規定ニ依ル公告ハ官報及新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
前項ノ規定ニ依リ公告ヲ爲スヘキ新聞紙ハ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第二十條 世襲財産設定ノ認可ノ申請アリタル後其ノ財産ニ付異動アル場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ此ノ場合ニハ第七章ノ規定ヲ準用ス

華族世襲財産法第七條ノ規定ニ依ル公告アリタル後前項ノ異動ヲ生シタルトキハ宮内大臣ハ之ヲ公告スヘシ

第三章 家政協議員會

第二十一條 華族世襲財産法第五條ノ規定ニ依リ世襲財産設定ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ本人、親族、後見人、後見監督人、保佐人其ノ他本人ノ家ニ特別ノ緣故アル者ノ中五人以上ニ於テ家政協議員ヲ選定シ連署ヲ以テ其ノ選定ノ認可ヲ宮内大臣ニ申請スヘシ

第二十二條 世襲財産ヲ有スル有爵者カ無能力者トナリタル場合又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ家産ヲ治ムルニ堪ヘス若ハ之ヲ傾クルノ虞アルニ至リタル場合ニ於テハ家政協議員ヲ選定スヘシ此ノ場合ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 家政協議員ハ有爵者遺言ヲ以テ之ヲ選定スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ遲滞ナク家政協議員選定ノ認可ヲ宮内大臣ニ申請スヘシ此ノ場合ニハ第九條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十四條 家政協議員ハ三人以上七人以下ノ範圍内ニ於テ其ノ數ヲ定メ親族其ノ他本人ノ家ニ特別ノ緣故アル者ノ中ヨリ之ヲ選定スルコトヲ要ス但シ次ニ掲クル者ハ家政協議員タルコトヲ得ス
一 未成年者、禁治産者及準禁治産者
二 後見人、後見監督人及保佐人

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

華族世襲財産法施行規則

- 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者
- 五 刑事ノ訴ヲ受ケ勾留、保釋又ハ責付中ニ在ル者
- 六 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
- 七 裁判所ニ於テ免黜セラレタル法定代理人及保佐人
- 八 華族令第二十條第一項、第二十三條、第二十四條及第二十六條ノ規定ニ依リ爵ヲ返上シタル者、爵ヲ襲カシメサル者、華族ノ禮遇ヲ禁止又ハ停止セラレタル者及華族ノ族稱ヲ除カレタル者但シ華族ノ禮遇ノ禁止又ハ停止ヲ解除セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 家政協議員前項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ
- 第二十五條 宮内大臣ハ重要ナル事由アルトキハ家政協議員ヲ解任スルコトヲ得
- 第二十六條 家政協議員ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス
- 家政協議員其ノ職ヲ辭セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シテ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二十七條 家政協議員ニ關員アルトキハ有爵者、其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ
- 第二十一條ノ規定ハ補關員ノ選定ニ之ヲ準用ス
- 第二十八條 家政協議員會ハ華族世襲財産法及本章ニ於テ定ムル任務ヲ有スルノ外世襲財産ニ關スル事項ヲ協議スルモノトス
- 華族世襲財産法第五條第二項ニ掲クル事實アル場合ニ於テハ家政協議員會ハ遲滞ナク世襲財産ノ管理方法ヲ定メ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ

宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ世襲財産ニ關シ家政協議員會ノ決議ヲ經ヘキ事項ヲ指定スルコトヲ得

第二十九條 家政協議員會ハ本人、其ノ法定代理人若ハ保佐人又ハ各協議員之ヲ招集ス

家政協議員會ヲ招集スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出テ且各協議員及第三十三條ニ掲クル者ニ通知スルコトヲ要ス

第三十條 家政協議員會ハ協議員定數ノ過半出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第三十一條 家政協議員會ノ議事ハ出席協議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

家政協議員會ノ議事ハ之ヲ議事録ニ記載シ其ノ會議ニ出席シタル協議員及第三十三條ノ規定ニ依リ出席シタル者之ニ署名捺印スヘシ

第三十二條 華族世襲財産法第五條第二項ノ規定ニ依ル申請ハ家政協議員定數ノ全員出席シテ同意スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條 本人、家ニ在ル父母、配偶者、法定ノ推定家督相續人、本家、分家及同家ノ戸主、後見人、後見監督人、保佐人竝親族會員ハ家政協議員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十四條 宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ家政協議員會ニ出席セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出席シタル官吏ハ議事録ニ署名捺印スヘシ

第三十五條 家政協議員會ノ存續スヘキ事由止ミタルトキハ協議員ハ連署シテ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ具申シ華族世襲財産法第五條第二項ノ場合ニ於テハ家政協議員會終了ノ認可ヲ申請スヘシ

第四章 華族世襲財産審議會

第三十六條 華族世襲財産審議會會員ハ七人トシ左ノ區分ニ依ル

- 一 宮内勅任官及同待遇職員
- 二 人

第七類 國債ノ保有乃至利用施設 華族世襲財産法施行規則

二 有爵者

五人

第四十二條ノ規定ニ該當スル會員アルニ因リ會議ヲ開クコト能ハサル場合ニ於テハ當該事件ノ審議ニ參加セシムル爲其ノ會員數以內ニ於テ前項ノ例ニ從ヒ臨時會員ノ數ヲ増加スルコトヲ得

第三十七條 華族世襲財産審議會會員ハ勅任待遇トス但シ官職アル者其ノ官職ニ付享クル待遇高キトキハ其ノ待遇ニ依ル

第三十八條 華族世襲財産審議會ノ議長ハ會員中ヨリ勅命セラルヘシ

議長事故アルトキハ會員中ノ上席者其ノ事務ヲ代理ス

第三十九條 華族世襲財産審議會ハ宮内大臣之ヲ招集ス

第四十條 華族世襲財産審議會ハ會員四人以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第四十一條 華族世襲財産審議會ノ議事ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可ク否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十二條 華族世襲財産審議會會員ニシテ會議ノ事項ニ付特別ノ關係ヲ有スル者ハ會議ニ出席スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル特別關係ノ有無ハ審議會之ヲ決ス

第四十三條 宮内大臣ハ華族世襲財産審議會ニ出席シテ意見ヲ陳述シ又ハ宮内高等官ヲシテ之ヲ陳述セシムルコトヲ得

第四十四條 華族世襲財産審議會ハ其ノ決議ニ依リ宮内大臣ヲ經テ本人、其ノ法定代理人、保佐人又ハ家政協議員ノ出席ヲ

求ムルコトヲ得

第四十五條 華族世襲財産審議會ノ議事ハ之ヲ議事録ニ記載シ出席會員之ニ署名捺印スヘシ

第四十六條 華族世襲財産審議會ノ議長ハ審議會ノ決議書ニ議事録ヲ添ヘ宮内大臣ニ答申スヘシ

第五章 權利ノ申出

第四十七條 華族世襲財産法第八條ノ規定ニ依ル權利ノ申出ヲ爲スニハ申出書ニ左ニ掲クル書類其ノ他權利ヲ證スヘキ書類

ヲ添附スヘシ

一 申出ツル權利ニ關スル登記簿又ハ登録簿ノ抄本

二 建物ノ所有ヲ目的トスル登記ナキ地上權又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ公告ニ掲ケタル土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトキハ建物登記簿ノ抄本

三 公告ニ掲ケタル土地ニ生立スル立木ニ付テハ立木登記簿ノ抄本

四 公告ニ掲ケタル財産カ民事上ノ強制執行、假差押若ハ假處分又ハ競賣ノ手續中ニ在ルトキハ其ノ事實ヲ證スヘキ公正ノ證明書

第四十八條 前條ノ申出アリタルトキハ宮内大臣ハ世襲財産設定ノ認可ノ申請者ニ其ノ申出ノ要旨ヲ通達スヘシ
申請者前項ノ通達ヲ受ケタルトキハ申出ヲ承認スルヤ否ヤヲ遲滞ナク宮内大臣ニ申出ツヘシ

第四十九條 前二條ノ規定ハ華族世襲財産法第十四條ノ規定ニ依ル權利ノ申出ニ之ヲ準用ス

第六章 臺帳

第五十條 世襲財産ニ關スル臺帳ハ華族世襲財産臺帳及管理財産臺帳ノ二種トス

臺帳ハ財産所有者毎ニ別冊トス但シ登録事項夥多ナルトキハ更ニ之ヲ分冊ト爲スコトヲ得

第五十一條 臺帳ニハ表紙ノ裏面ニ紙數及調製ノ年月日ヲ記入シ主管部長官之ニ捺印スヘシ前條第二項ノ規定ニ依リ分冊ト爲シタルトキ其ノ各冊ニ付亦同シ

第五十二條 臺帳ニ登録スヘキ事項及登録ノ方式ハ附録様式ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條 世襲財産設定ノ登録ハ認可ノ當日之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ華族世襲財産法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ管理ヲ命シタル場合ニ於テ其ノ登録ニ付之ヲ準用ス
第五十四條 臺帳ノ登録事項ニ異動アリタルトキハ異動ニ係ル既登録ノ事項ハ之ヲ抹消シ新ニ登録スヘキ事項ハ之ヲ別欄ニ

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

華族世襲財産法施行規則

登録スヘシ

第五十五條 世襲財産ノ廢止アリタルトキハ廢止ノ認可ノ當日、其ノ失効アリタルトキハ遲滯ナク其ノ登録ヲ抹消スヘシ

第五十六條 華族世襲財産法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ命シタル管理終了シタルトキハ終了ノ認可ノ當日其ノ登録ヲ抹消スヘシ

第五十七條 臺帳ノ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ更正シ且年月日ヲ記シテ主管部局長官捺印スヘシ

第五十八條 抹消ハ朱線ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七章 世襲財産ノ異動

第五十九條 世襲財産ニ付相續ノ開始アリタルトキハ家督相續人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ於ケル名義變更ノ登録及記入ニ付之ヲ準用ス

第六十條 土地收用法ニ依リ世襲財産タル土地ヲ收用スル場合ニ於テ協議ニ依リ補償金ヲ定メ得ヘキトキハ起業者ハ協議成立前其ノ協議ノ要旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

地方長官ハ收用審査會ヨリ裁決ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代リテ裁決ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ裁決ノ要旨ヲ宮内大臣ニ報告スヘシ土地收用法第三十四條ノ規定ニ依リ地方長官ノ公告又ハ通知カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ及土地收用法第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決カ取消サレタルトキ其ノ事實ニ付亦同シ

土地所有者ハ土地收用法第六十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第六十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シ訴願又ハ訴訟ノ提起アリタルトキハ土地所有者ハ遲滯ナク左ニ掲クル事項ヲ宮内大臣

ニ届出ツヘシ

一 訴願又ハ訴訟ニ係ル事項

二 訴願ノ裁決若ハ却下アリタルトキ又ハ裁判所ノ判決若ハ裁決アリタルトキハ其ノ要旨

三 訴願又ハ訴ノ取下アリタルトキハ其ノ旨

四 通常裁判所ノ判決ニ對シ上訴アリタルトキハ其ノ旨及上訴判決ノ要旨

第六十二條 前二條ノ規定ハ世襲財産カ公益ノ爲ニスル收用、徵發又ハ制限ニ關スル法令ニシテ土地收用法以外ノモノノ適用ヲ受ケ他ノ財産ニ代ルヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條 世襲財産ニ對シ假差押若ハ假處分ヲ爲シ又ハ強制執行若ハ競賣手續ニ著手シタルトキハ當該官署又ハ執達吏ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ報告スヘシ手續ノ停止、變更又ハ消滅アリタルトキ亦同シ

第六十四條 滯納處分ニ依リ世襲財産ヲ差押ヘ之ヲ賣却セムトスルトキハ當該官公署ハ賣却手續ノ開始前其ノ旨ヲ宮内大臣ニ報告スヘシ

前項ノ報告後ニ於テ差押ノ解除アリタルトキハ當該官公署ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ報告スヘシ

第六十五條 前二條ノ場合ニ於テ世襲財産ヲ換價シ賣得金ニ剩餘アルコト確定シタルトキハ當該官公署又ハ執達吏ハ直ニ其ノ金額ヲ宮内大臣ニ報告スヘシ

第六十六條 世襲財産タル國債ノ償還アルヘキコト確定シタルトキハ國債事務取扱店ハ直ニ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ前項ノ規定ハ世襲財産タル地方債證券若ハ社債券ノ償還アルヘキコト確定シタルトキ又ハ株券ニ代リテ其ノ所有者ニ歸スヘキ財産アルトキ其ノ發行者ニ之ヲ準用ス

第六十七條 世襲財産ノ保險者ハ保險金ヲ支拂フヘキコト確定シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

第六十八條 世襲財産ノ所有者ハ收用、滯納處分、償還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ世襲財産ニ代リテ自己ニ歸ス

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

華族世襲財産法施行規則

ヘキ財産アルトキハ豫メ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第六十條第二項及第六十二條乃至第六十四條ノ規定ニ依リ前項ニ掲ケタル事由ノ變更又ハ消滅アリタル場合ニ於テモ所有者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第六十九條 世襲財産ニ付左ニ掲ケル事實アリタルトキハ所有者ハ遲滞ナク其ノ時期、事由其ノ他必要ナル事項ヲ詳記シテ之ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

一 第六條ノ規定ニ依リ提出シタル財産目録其ノ他ノ添附書類ノ記載事項ニ異動アリタルトキ

二 世襲財産ノ全部又ハ一部カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

三 世襲財産ノ全部又ハ一部カ滅失若ハ紛失シタルトキ又ハ之ヲ發見シタルトキ

四 收用、滯納處分、償還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ世襲財産ニ代リテ其ノ所有者ニ歸シタル財産アルトキ

第七十條 世襲財産タル有價證券又ハ其ノ利札カ滅失又ハ毀損シタル等ノ爲代證券ノ交付ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク宮内大臣ニ其ノ證券ヲ提出スヘシ此ノ場合ニハ第十六條ノ規定ヲ準用ス

有價證券ノ利札カ滅失又ハ毀損シタル等ノ爲代利札ノ交付ヲ受ケ又ハ利札ノ盡了ニ因リ繼足利札ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於ケル其ノ代利札又ハ繼足利札ノ提出及印章ノ押捺亦前項ノ例ニ依ル

第七十一條 世襲財産廢止ノ認可ノ申請書ニハ廢止セムトスル財産ノ目録及廢止ノ事由ヲ詳記シタル書類ヲ添附スヘシ他ノ世襲財産ニ換フル爲世襲財産ヲ廢止セムトスル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ルノ外之ニ代ルヘキ財産ニ關スル詳細ナル説明書ヲ添附スヘシ

第七十二條 第十條第一項ノ規定ハ有爵者ノ法定代理人又ハ保佐人カ前條ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

家政協議員會アルヘキ場合ニ於テ有爵者カ世襲財産廢止ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ家政協議員定數ノ全員ノ同意書ヲ添附スヘシ

第七十三條 第十二條乃至第十四條ノ規定ハ世襲財産廢止ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十四條 世襲財産ノ廢止又ハ失效アリタル場合ニ於テ其ノ財産ニ關スル登録及記入ノ抹消ニ付テハ第十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十五條 世襲財産ノ廢止又ハ失效アリタル場合ニ於テ宮内大臣ハ有價證券及其ノ利札ニ押捺シタル世襲財産及其ノ利札タルコトヲ證スヘキ印章並記入シタル年月日ヲ抹消スヘシ

第七十六條 第十五條ノ規定ハ世襲財産ノ異動ノ場合ニ於ケル登録及記入ノ變更ニ付之ヲ準用ス

第八章 管理財産

第七十七條 他ノ世襲財産ニ換フル爲世襲財産ヲ廢止セムトスル者華族世襲財産法第二十三條ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレムコトヲ欲スルトキハ廢止ノ認可ノ申請ト共ニ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第七十八條 前條ノ規定ハ收用、滯納處分、償還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ世襲財産ニ代リテ其ノ所有者ニ歸スル財産アルトキ其ノ財産ノ所有者カ華族世襲財産法第二十三條ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレムコトヲ欲スル場合ニ之ヲ準用ス華族世襲財産法第二十七條ノ規定ニ依リ世襲財産タル效力ヲ失ヒタル財産アルトキ其ノ財産ノ所有者カ華族世襲財産法第二十八條ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレムコトヲ欲スル場合亦同シ

前項ノ申出ハ所有者カ第六十八條又ハ第六十九條ノ届出ヲ爲ス際之ヲ爲スヘシ

第七十九條 宮内大臣管理人ヲ選任スルトキハ管理スヘキ財産ヲ指定スヘシ

管理人ハ世襲財産設定ノ認可アル迄前項ノ財産ヲ管理スヘシ

第八十條 第六十條、第六十二條乃至第六十四條及第六十六條乃至第六十八條ノ規定ニ依ル報告、届出又ハ申出アリタル場合ニ於テハ宮内大臣ハ豫メ管理人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル管理人ノ選任ハ之ヲ報告、届出又ハ申出ヲ爲シタル者ニ通知スヘシ

第七類 國債ノ保有乃至利用施設 華族世襲財産法施行規則

第八十一條 管理人ハ遲滞ナク財産目録ヲ調製シ之ニ署名捺印スヘシ

財産目録ハ二通ヲ調製シ之ヲ宮内大臣ニ提出シテ其ノ承認ヲ受ケ其ノ一通ハ管理人ノ之ヲ保管スヘシ

宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ目録ノ調製ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ立會官吏ハ財産目録ニ署名捺印スヘシ

第八十二條 管理人民法第百三條ニ定メタル權限ヲ超ユル行爲ヲ爲サムトスルトキハ豫メ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十三條 宮内大臣ハ管理財産ノ所有者ニ對シ相當ノ報酬ヲ管理人ニ與フルコトヲ命スルコトヲ得

第八十四條 管理財産中登録國債ニ付テハ登録所管國債事務取扱店ニ於テ宮内大臣ノ通知ニ依リ管理財産タル旨、管理ヲ命セラレタル年月日及管理人ノ氏名、住所ノ登録ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ管理ノ終了シタル場合ニ於ケル登録ノ抹消及管理人ノ改任アリタル場合ニ於ケル登録ノ變更ニ付之ヲ準用ス

第八十五條 管理財産ニ異動アリタルトキハ管理人ハ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ此ノ場合ニハ第五十九條及第六十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ届出書ニハ異動ニ係ル財産ノ目録ヲ添附スヘシ此ノ場合ニハ第八十一條ノ規定ヲ準用ス

管理財産ノ異動ニ關スル登録及其ノ變更、抹消ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 管理ヲ繼續スヘキ事由止ミタルトキハ管理人ハ遲滞ナク管理調書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ具申シ管理終了ノ認可ヲ申請スヘシ管理人ノ改任アリタルトキ前管理人ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ管理調書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ宮内大臣ハ特ニ指定シタル者ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
第八十一條ノ規定ハ管理調書ノ調製及其ノ提出ニ付之ヲ準用ス

第九章 雜則

第八十七條 本令中世襲財産ノ設定ニ關スル規定ハ其ノ増加ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第八十八條 宮内大臣ハ華族世襲財産法第三十一條ノ規定ニ依ル費用ヲ算定シ名義人ニ對シ納入告知書ヲ發スヘシ

第八十九條 第十四條ノ規定ハ華族世襲財産法第三十二條ノ規定ニ依リ世襲財産ノ検査ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十條 世襲財産タル有價證券又ハ其ノ利札タルコトヲ證スヘキ印章ノ様式並押捺及抹消ノ方法ハ別ニ之ヲ告示ス

附則

本令ハ大正五年法律第四十五號華族世襲財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

華族世襲財産法附則第一項ノ規定ニ依リ世襲財産タル有價證券ノ利札ニハ第十一條及第十六條ノ規定ヲ準用ス
従前ノ華族世襲財産臺帳ハ當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

(附録様式)

華族世襲財産臺帳

第七類 國債ノ保有乃至利用施設 華族世襲財産法施行規則

氏名表示部		氏名		所有		設定、增加、廢止申請者	
		氏名	設定認可年月日	所有者	申請者	認可年月日	備考
華族世襲財產臺帳							
宮内省							

氏名表示部		法定代理人、保佐人		家政協議員		
		所有者氏名	就職年月日	所有者氏名	就職年月日	備考
華族世襲財產臺帳						
宮内省						

第七類 國債ノ保有乃至利用施設 華族世襲財產法施行規則

財產表示部						甲(家寶)	
設定增加認可年月日	番號	品目種類	箇數	內容構造等	事由	備考	
華族世襲財產臺帳							
宮内省							

財產表示部						乙(土地)	
設定增加認可年月日	番號	所在地目	面積	地價	純收益年額	事由	備考
家族世襲財產臺帳							
宮内省							
			坪段	圓	圓		

第七類 國債ノ保有乃至利用施設 華族世襲財產法施行規則

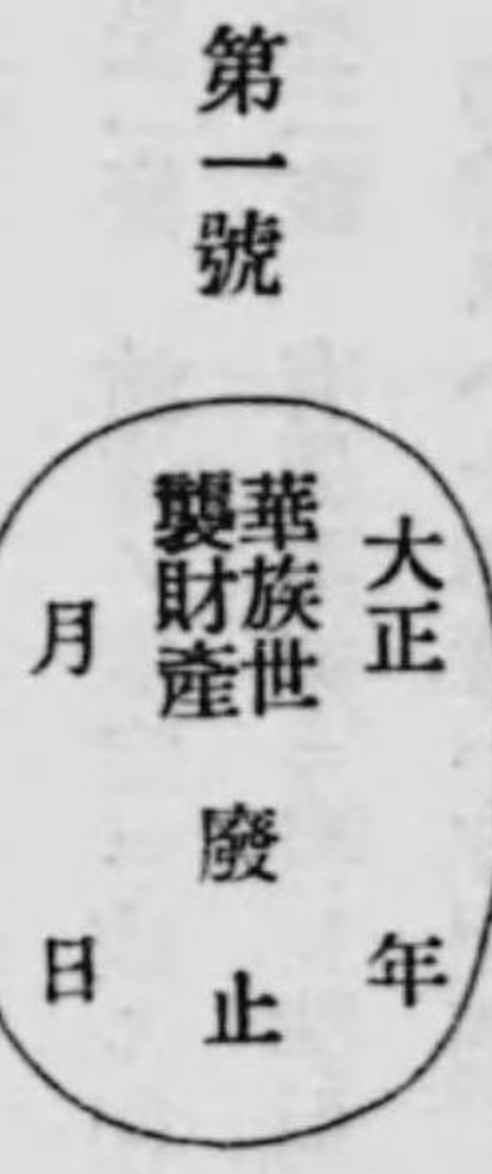
管理財產臺帳	宮 內 省	氏名	住所	氏名	管理開始年月日	備考
					退職年月日	

管理財產臺帳

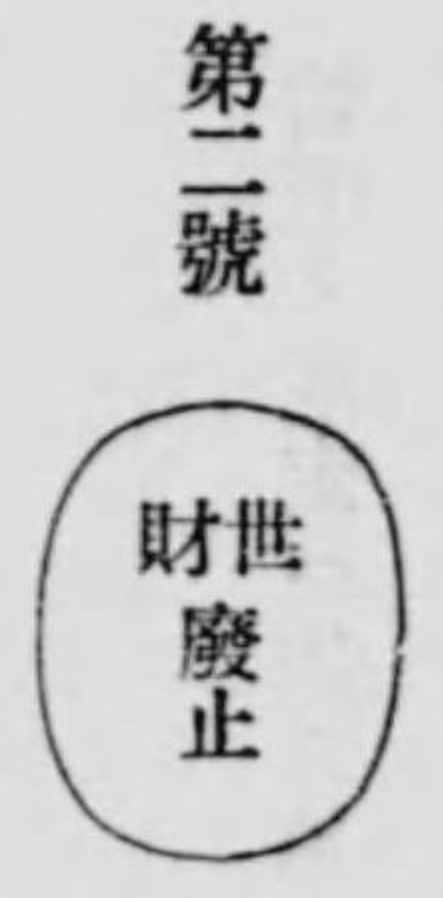
財產表示部										甲(家賣)	
管理開始年月日	番號	品類	項目	箇數	內容構造等	事由	備考	管理財產臺帳			
								宮內省			

財產表示部										乙(土地)	
管理開始年月日	番號	所在	地目	面積	地價	事由	備考	管理財產臺帳			
				坪段	圓			宮內省			

第七類 國債ノ保有乃至利用施設 華族世襲財產法施行規則

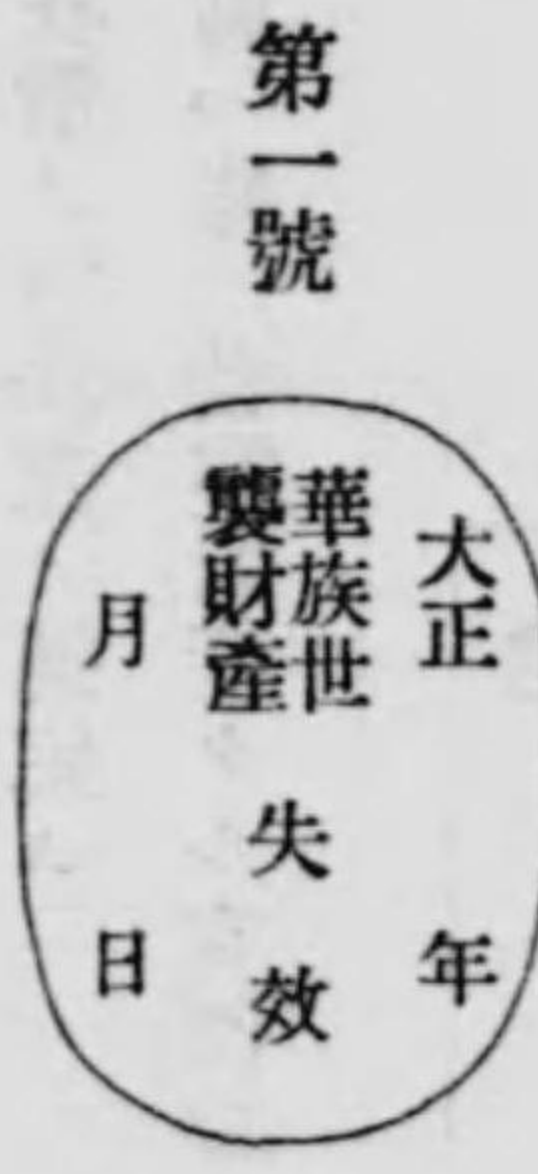


第一號
長徑一寸
短徑六分
黑色

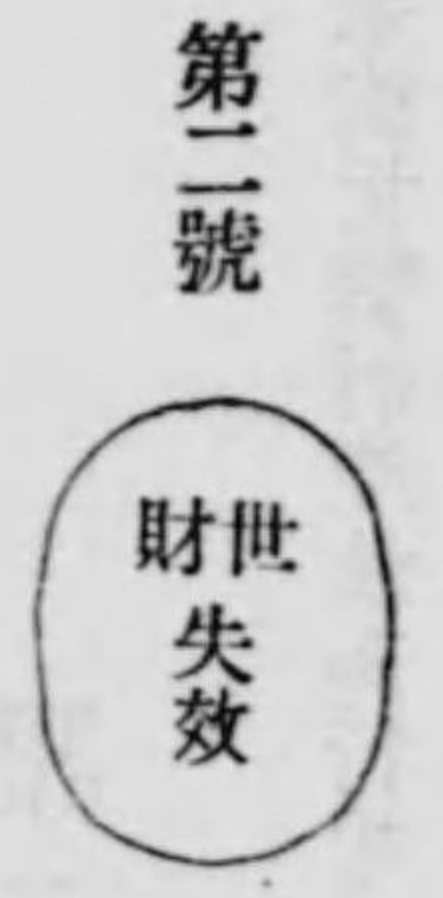


第二號
長徑四分
短徑二分
黑色

前項ノ規定ニ依ル第一號樣式中「年月日」ニハ世襲財產ノ廢止ヲ認可シタル日附ヲ記入ス
第四條 前條ノ規定ニ依ル印章ハ第一條ノ規定ニ依ル既捺印面ノ一部ヲ覆ヒ之ヲ押捺ス
第五條 世襲財產タル有價證券カ償還、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ世襲財產タル效力ヲ失ヒタル場合ニ於テ其ノ證券ニ押捺ス
ヘキ印章ハ左記第一號樣式、其ノ利札ニ押捺スヘキ印章ハ左記第二號樣式ニ依ル



第一號
長徑一寸
短徑六分
黑色



第二號
長徑四分
短徑二分
黑色

前項ノ規定ニ依ル第一號樣式中「年月日」ニハ世襲財產タル效力ヲ失ヒタル日附ヲ記入ス
第一項ノ規定ニ依ル印章ノ押捺ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

●政府ヨリ賣拂フ代金ノ延納ニ關スル件

大正十年八月八日
勅令第三百七十四號

改正(一)大正十一年三月三十一日
勅令第三百三十二號

(二)昭和九年十二月二十六日
勅令第三百九十五號

(三)昭和十二年十二月一日
勅令第六百八十五號

朕政府ヨリ賣拂フ代金ノ延納ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
政府ニ於テ物件ヲ賣拂フトキハ擔保トシテ國債ヲ提供セシメ代金ノ延納ヲ許スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ擔保ノ必要ナシト認ムルトキハ特ニ擔保ノ提供ヲ免除スルコトヲ得
延納ヲ許スコトヲ得ル場合、延納期間及擔保ヲ免除スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム但
シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳
長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム(一、二、三)

附則

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

- 明治三十五年勅令第二百一十一號
- 明治四十年勅令第六十五號
- 明治四十一年勅令第二百六十九號
- 明治四十二年勅令第二百五號
- 明治四十二年勅令第二百十八號
- 明治四十二年勅令第三百十八號

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

政府ヨリ賣拂フ代金ノ延納ニ關スル件

明治四十三年勅令第十一號
明治四十三年勅令第二百四號
明治四十四年勅令第二百二十一號
大正二年勅令第二百八十二號
大正五年勅令第九十四號

本令施行前提供シタル國債以外ノ擔保ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限り本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス
○昭和九年勅令第三百七十四號附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十二年勅令第六百八十五號附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(略)

●退職積立金及退職手当法

昭和十一年六月三日
法律第四十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル退職積立金及退職手当法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
退職積立金及退職手当法

第一章 總 則

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニシテ常時五十人以上ノ労働者ヲ使用スルモノニ之ヲ適用ス
一 工場法ノ適用ヲ受クル工場
二 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業
主務大臣ハ事業ノ種類又ハ規模ヲ限り本法ノ適用ヲ除外スルコトヲ得

第二條 本法ノ適用ヲ受クル事業ガ規模ノ縮少其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ事業主其ノ旨ヲ行政官廳ニ届出ヅル迄ハ前條ノ規定ニ拘ラズ仍本法ヲ適用ス

第三條 第一條第一項各號ノ事業ニシテ本法ノ適用ヲ受ケザルモノノ事業主退職積立金、退職手当積立金又ハ退職手当及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ事業ニ第十一條、第十六條及第十七條中積立ノ率ニ關スル規定並ニ第三十條第三項ノ規定ヲ除クノ外本法ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル規程ヲ廢止又ハ變更セントスルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第四條 營業ノ讓渡其ノ他ノ事由ニ因リ事業ノ承繼アリタル場合ニ於テ労働者ガ引續キ承繼人ニ使用セララルトキハ其ノ労働者ト從前ノ事業主トノ間ニ本法ニ依リテ生ジタル法律關係ハ承繼人ニ移轉ス
前項ノ場合ニ於テ積立金ノ承繼ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 本法ノ適用ヲ受クル事業ニ使用セララルル労働者ノ中左ニ掲グル者ニハ本法ヲ適用セズ但シ第一號若ハ第二號ニ該當スル者六月ヲ超エテ引續キ使用セララルルニ至リタルトキ又ハ第三號ニ該當スル者一年ヲ超エテ引續キ使用セララルルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ本法ヲ適用ス

一 六月以内ノ期間ヲ定メテ使用セララルル者

二 日日雇入レラルル者

三 季節的の事業ニ使用セララルル者

前項第三號ノ季節的の事業ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

第六條 賃金及標準賃金ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 行政官廳ハ事業主ニ對シ本法ニ依ル積立金ノ積立若ハ運用、退職積立金ノ支拂又ハ退職手当ノ支給其ノ他本法ノ施行ニ關スル事項ニ付必要ナル検査ヲ爲シ又ハ事業主ヲシテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第七類 國債ノ保有乃至利用施設 退職積立金及退職手当法

第八條 本法ニ依リ事業主ノ積立ツベキ退職手當積立金及準備積立金ノ額ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法人タル事業主ニ在リテハ事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ七ニ相當スル額以下トス

第九條 本法ノ適用ヲ受ケル事業ガ事業ノ廢止其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ退職積立金支拂又ハ退職手當支給ノ完了ニ至ル迄ハ之ニ必要ナル限度ニ於テ仍本法ヲ適用ス

第十條 本法ハ政府ノ事業ニ之ヲ適用セズ

第二章 退職積立金

第十一條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ労働者ノ賃金ノ中ヨリ其ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ各労働者ニ代リ其ノ名義ヲ以テ退職積立金トシテ積立ツベシ

災害其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキハ事業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラズ積立ヲ爲サズ又ハ減額シテ積立ツルコトヲ得

第十二條 労働者退職(解雇及死亡ヲ含ム以下之ニ同ジ)其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ非ザレバ前條ノ退職積立金ノ支拂ヲ受ケルコトヲ得ズ

第十三條 事業主豫メ確實ナル方法及利子ノ定率ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル上労働者ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ労働者ノ退職積立金ヲ運用スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テ必要ト認ムル額ノ國債ヲ供託スベキコトヲ命ズルコトヲ得

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ前項ノ國債ノ増額ヲ命ズルコトヲ得

労働者ハ事業主ノ運用シタル退職積立金ニ關シ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受ケルノ權利ヲ有ス

前項ノ權利ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 前條第一項ノ規定ニ依リ退職積立金ヲ運用シタル場合ニ於テ労働者退職其ノ他ノ事由ニ依リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルトキハ事業主ハ運用シタル金額ニ前條第一項ノ利子ヲ附シタルモノヲ退職積立金トシテ其ノ労働者ニ支拂フベシ

第十五條 退職積立金ノ支拂ヲ受タルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第三章 退職手當

第十六條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上一定ノ期間末ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ退職手當積立金トシテ遲滞ナク積立ツベシ

災害其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキハ事業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラズ積立ヲ爲サズ又ハ減額シテ積立ツルコトヲ得

第十七條 事業主ハ前條ノ退職手當積立金ノ外勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上一定ノ期間末ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ三以内ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル金額ヲ退職手當積立金トシテ遲滞ナク積立ツベシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 前二條ノ退職手當積立金ハ計算期毎ニ其ノ期間中ノ賃金ニ比例シテ労働者別ニ計算ヲ明ニスベシ但シ前條ノ退職手當積立金ニ限リ事業主豫メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ勤務年限、勤務狀態其ノ他ニ依リ異ル率ヲ以テ労働者別ニ計算スルコトヲ得

第十九條 事業主ハ退職手當積立金ヨリ生ジタル利子(第二種所得税又ハ資本利子税ヲ課セラレタルトキハ之ヲ差引キタル金額)及第二十一條第一項ノ規定ニ依リ退職手當積立金ヲ運用シタル場合ニ於テハ同條同項ノ利子ヲ退職手當積立金トシテ遲滞ナク積立ツベシ

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

退職積立金及退職手當法

前項ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ計算期ニ於テ労働者別ニ計算ヲ明ニスベシ

第二十條 退職手當積立金ノ積立ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ財産ト分別シテ左ノ方法ニ依リ之ヲ爲スベシ

一 郵便貯金

二 銀行ヘノ預金

三 金錢信託

四 登録國債

第二十一條 事業主豫メ確實ナル方法及利子ノ定率ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ退職手當積立金ヲ運用スルコトヲ得

第十三條第二項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ハ所得税法、營業收益税法及臨時利得税法ノ適用ニ付テハ之ヲ總損金又ハ必要ノ經費ト看做ス

道府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ヲ標準トシテ課税スルコトヲ得ズ

第二十三條 退職手當積立金ノ拂戻又ハ償還ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ但シ本法ニ依ル退職手當ヲ受クベキ者第二十四條第一項第一號ノ金額又ハ第二十六條第一項ノ特別手當ノ金額ニ付差押フルコトヲ妨ゲズ

第二十四條 労働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルトキハ事業主ハ左ノ各號ノ金額ヲ退職手當トシテ支給スベシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ事由アル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

一 第十八條、第十九條第二項及第二十八條第二項ノ規定ニ依リ其ノ労働者ノ計算ニ屬スル金額

二 第十六條第一項ノ規定ニ依リ積立ノ最後ノ期間後ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額

前項第一號ノ金額ハ退職手當積立金ノ中ヨリ之ヲ支給シ退職手當積立金ヲ以テ之ヲ支給スルコト能ハザルトキハ事業主ノ他ノ財産ヨリ之ヲ支給スベシ

第一項第二號ノ金額ハ退職手當積立金ノ中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得ズ

労働者死亡シタル場合ニ於テハ退職手當ハ命令ノ定ムル所ニ依リ遺族又ハ労働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給スベシ

第二十五條 前條第一項但書ノ規定ニ依リテ支給スルコトヲ要セザル金額ヲ生ジタルトキハ事業主ハ第二十六條第一項ノ特別手當ニ充ツル爲ノ積立金(特別手當積立金)トシテ之ヲ保留スベシ

第二十六條 事業主事業ノ都合ニ依リ労働者ヲ解雇シタルトキハ退職手當トシテ第二十四條第一項ノ金額ノ外特別手當積立金ノ存スル限度ニ於テ左ノ各號ノ一ニ達スル迄ノ金額(特別手當)ヲ加算シテ支給スベシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ事由アル場合ニ於テハ加算スルコトヲ要セズ

一 勤続一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分ニ相當スル金額

二 勤続三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額

特別手當ヲ受クベキ者二人以上アル場合ニ於テ特別手當積立金ガ前項各號ノ金額ヲ支給スルニ足ラザルトキハ其ノ支給ヲ受クベキ者ノ前項各號ノ金額ニ按分シ特別手當ノ金額ト爲スベシ

第二十四條第二項ノ規定ハ特別手當ノ支給ニ之ヲ準用ス

第二十七條 事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケテ特別手當積立金ノ限度ヲ定メタルトキハ其ノ限度ヲ超ユル金額ハ第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ積立ツベキ金額ニ之ヲ充當スベシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第二十八條 事業主ハ第十九條第二項ノ計算期ニ於テ退職手當積立金ノ缺損ヲ填補シ餘剰ヲ積立ツベシ

第七類 國債ノ保有乃至利用施設 退職積立金及退職手當法

前項ノ規定ニ依リ餘利ヲ積立ツル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ労働者別ニ計算ヲ明ニスベシ

第二十九條 本法ニ依ル退職手當ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第三十條 事業主退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第十六條及第十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲サザルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル規程ノ廢止又ハ變更ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

事業主ハ第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受タル場合ニ於テ労働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルトキハ少クトモ勤続一年ニ付標準賃金十二日分ニ相當スル退職手當(事業ノ都合ニ依ル解雇ノ場合ニ於テハ勤続一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分、勤続三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノ)ヲ支給スベシ此ノ場合ニ於テハ第二十四條第一項但書及第二十六條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

第二十條乃至第二十三條及第二十八條第一項ノ規定ハ第一項ノ準備積立金ニ、第二十四條第四項、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ第一項ノ退職手當ニ之ヲ準用ス

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ準備積立金ノ増額ヲ命ズルコトヲ得

第四章 退職金審査會

第三十一條 退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給ニ關スル事項ニ付民事訴訟ヲ提起スルニハ退職金審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ裁判上ノ請求ト看做ス

第三十二條 退職金審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 罰則

第三十三條 事業主第二十一條第一項(第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ許可ヲ受ケズシテ退職

手當積立金又ハ準備積立金ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

事業主法人ナル場合ニ於テ前項ノ許可ヲ受ケザルニ拘ラズ其ノ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員退職手當積立金又ハ準備積立金ヲ處分シタルトキ其ノ者ニ付亦前項ニ同じ

第三十四條 事業主左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第三條第二項、第十一條第一項、第十四條、第十六條第一項、第十七條、第十八條、第十九條、第二十條(第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第二十四條第一項第四項(第三十條第四項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第二十五條、第二十六條第一項、第二十七條第一項、第二十八條(第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)又ハ第四十一條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 第十三條第二項第三項(第二十一條第二項、第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第十七條又ハ第三十條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザルトキ
- 三 第三條第一項、第三十條第一項又ハ第四十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル準備積立金ノ積立ヲ爲サザルトキ
- 四 第三十條第三項ノ規定ニ依リ支給スベキ退職手當トシテ勤続一年ニ付標準賃金十二日分以内ニ相當スル金額(事業ノ都合ニ依ル解雇ノ場合ニ於テハ勤続一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分以内、勤続三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分以内ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノ)ヲ支給セザルトキ

第三十五條 第七條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ事業主ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

退職積立金及退職手當法

他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

第三十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年勅令第四百十三號ヲ以テ昭和十二年一月一日ヨリ施行)

第三十九條 第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル本法適用後ノ最初ノ積立金ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十條 勞働者第十六條ノ規定ニ依ル本法適用後ノ積立ノ最初ノ期間中ニ退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テハ第二十四條第一項第二號ノ金額ハ本法適用後ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額トス

第四十一條 事業主及勞働者ノ出捐ニ係ル組合ガ本法施行ノ際現ニ退職手當ニ關スル規程ヲ有スル場合ニ於テ事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第十一條ニ規定スル退職積立金並ニ第十六條及第十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲サザルコトヲ得

前項ノ組合ガ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ支給スベキ金額ヲ支給セザルトキハ事業主ハ組合ノ支給セザル金額ニ相當スル金額ヲ勞働者ニ支給スベシ
行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第四十二條 事業主本法施行ノ際現ニ使用スル勞働者ノ本法施行前ノ勤務ニ對スル退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第二十條乃至第二十三條及第二十八條第一項ノ規定ハ準備積立金ニ、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ退職手當ニ之ヲ準用ス

第四十三條 本法ノ適用ヲ受ケル事業ニ於ケル本法適用前ノ退職手當規程ハ本法ノ適用ニ依リ廢止又ハ變更セラルルコトナシ但シ本法適用後ノ勤務ニ對シ本法ニ依ル退職手當ヲ支給スル場合ニ於テハ從前ノ規程ニ依リ支給スベキ退職手當ハ其ノ

差額ヲ支給スルヲ以テ足ル

第四十四條 國稅徵收法第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

退職積立金及退職手當法ニ依ル退職手當積立金及準備積立金ニ付亦前項ニ同ジ

第四十五條 郵便貯金法第四條ニ左ノ一號ヲ加フ

●退職積立金及退職手當法施行令(抜抄)

昭和十一年十一月三十日
勅令第四百十四號

朕退職積立金及退職手當法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

退職積立金及退職手當法施行令

第十一條 退職積立金ノ積立ハ郵便貯金、銀行ヘノ預金又ハ金錢信託ノ方法ニ依ル場合ニ在リテハ通帳又ハ證書ニ退職積立金タルコトノ表示ヲ爲スコトヲ以テ、登録國債ノ方法ニ依ル場合ニ在リテハ甲種國債登録簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スコトヲ以テ之ヲ爲ス

郵便貯金、銀行ヘノ預金又ハ金錢信託ノ方法ニ依ル退職積立金ノ積立ニ付テハ郵便官署、銀行又ハ信託會社其ノ受入又ハ引受ヲ爲シタルトキハ事業主ノ請求ニ依リ通帳又ハ證書ニ退職積立金タルコトノ表示ヲ爲シ尙貯金原簿又ハ之ニ準ズベキ帳簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スベシ

登録國債ノ方法ニ依ル退職積立金ノ積立ニ付テハ日本銀行ハ事業主ノ請求ニ依リ甲種國債登録簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スベシ

第十二條 勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テハ事業主ハ勞働者ガ退職積立金ノ支拂ヲ受クルニ必要ナル事業主ノ爲スベキ手續ヲ遲滯ナク完了スルコトヲ要ス

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

退職積立金及退職手當法施行令

前項ノ場合ニ於テ事業主ハ退職積立金ニ關スル表示又ハ記載ノ抹消ヲ請求スベシ
 第十八條 第十一條ノ規定ハ退職手當積立金及準備積立金ニ之ヲ準用ス
 第十九條 郵便貯金、銀行ヘノ預金、金錢信託又ハ登録國債ノ方法ニ依リ積立ヲ爲シタル退職手當積立金又ハ準備積立金ガ
 退職手當積立金又ハ準備積立金タラザルニ至リタルトキハ事業主ハ退職手當積立金又ハ準備積立金ニ關スル表示又ハ記載
 ノ抹消ヲ請求スベシ

附則

本令ハ退職積立金及退職手當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十二年一月一日ヨリ施行)

(略)

● 退職積立金及退職手當法ノ供託國債ニ對スル權利ノ
 實行ニ關スル件

昭和十一年十二月二十三日
 勅令第四百五十號

朕退職積立金及退職手當法ノ供託國債ニ對スル權利ノ實行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 事業主支拂ヲ爲スコト能ハザルトキ又ハ支拂ヲ停止シタルトキハ退職積立金及退職手當法第十三條第二項及第三項
 ノ供託國債ニ付同條第四項ノ權利ヲ有スル労働者ハ當該事業ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ權利ノ實行ノ申立ヲ爲スコト
 ヲ得

前項ノ申立ニ對スル裁判ハ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

第二條 申立ニ對スル裁判ハ事業主ニ之ヲ告知スルコトヲ要ス

前項ノ裁判ニ對シテハ申立人又ハ事業主ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第三條 申立ヲ理由アリトスル裁判ハ退職積立金及退職手當法第十三條第二項及第三項ノ供託國債ニ付同條第四項ノ權利ヲ
 有スル労働者全員ノ爲ニ其ノ效力ヲ有ス

申立人前項ノ裁判ノ告知ヲ受ケタル後ハ申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條 前條第一項ノ裁判確定シタルトキハ裁判所ハ公告ヲ以テ前條第一項ノ労働者ニ對シ三十日以上ノ一定ノ期間内ニ債
 權ノ申出ヲ爲スベキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

前項ノ公告ハ裁判所ノ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所第一項ノ催告ヲ爲シタルトキハ地方長官又ハ鑛山監督局長ニ對シ國債ノ供託書及退職積立金ニ關スル帳簿其ノ他必
 要ナル書類ノ送付ヲ囑託スルコトヲ要ス

第五條 第三條第一項ノ裁判確定シタルトキハ裁判所ハ執達吏ヲシテ國債ヲ換價セシムルコトヲ要ス

第六條 裁判所ハ第四條第一項ノ期間滿了後遲滞ナク配當表ヲ作ルコトヲ要ス

裁判所配當表ニ關スル陳述及配當實施ノ期日ヲ指定シタルトキハ第三條第一項ノ労働者及事業主ニ對シ各別ニ其ノ旨ヲ通
 知シ且之ヲ公告スルコトヲ要ス

第四條第二項ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

第七條 配當期日ニ出頭セザル労働者ノ債權、期日ニ於テ異議ノ完結セザル債權及退職積立金及退職手當法第十二條ノ規定

ニ依リ其ノ支拂ヲ受クルコトヲ得ザル労働者ノ債權ニ對スル配當額ハ債權者ノ爲ニ之ヲ供託スルコトヲ要ス

第八條 國債換價及配當ノ手續ニ付テハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス

第九條 前八條ノ規定ハ退職積立金及退職手當法第十三條第四項ノ規定ヲ準用スル同法第二十一條第二項、第三十條第四項
 及第四十二條ノ權利ヲ實行スル場合ニ之ヲ準用ス

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

退職積立金及退職手當法ノ供託國債ニ對スル權利ノ
 實行ニ關スル件

附則

本令ハ退職積立金及退職手當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十二年一月一日ヨリ施行)

●臨時資金調整法第十四條ノ規定ニ依ル貯蓄債券ノ

割増金ニ關スル件

昭和十三年二月十九日
大藏省令第七號

臨時資金調整法第十四條ノ規定ニ依ル貯蓄債券ノ割増金ニ關スル件左ノ通定ム

日本勸業銀行ヲシテ貯蓄債券ノ割増金中其ノ全部又ハ一部ヲ國債證券ヲ以テ交付セシメントスルトキハ其ノ旨、交付スベキ額並ニ交付スベキ國債證券ノ名稱、記號及交付價格ヲ其ノ都度當該割増金ノ支拂期前ニ告示ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國家總動員法(抜抄)

昭和十三年四月一日
法律第五十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國家總動員法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國家總動員法

第一條 本法ニ於テ國家總動員トハ戰時(戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ際シ國防目的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル様人的及物的資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

第十一條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ增加(合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲナシ、會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル

命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、賃貸料又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條若ハ第十四條ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通若ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ノ命令又ハ第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第二十九條 前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル拂下ノ價額ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

總動員補償委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十三年勅令第三百十五號ヲ以テ同年五月五日ヨリ施行)
(略)

第七類 國債ノ保有乃至利用施設

臨時資金調整法第十四條ノ規定ニ依ル貯蓄債券ノ割増金ニ關スル件 國家總動員法

第八類
雜
件

大藏省官制

●大藏省官制

明治三十一年十月二十二日
勅令第二百六十九號

改正沿革(略) (但シ昭和十三年四月十九日
勅令第二百六十二號改正分迄採録濟)

朕大藏省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大藏省官制

第一條 大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計、出納、租稅、國債、貨幣、保管金、政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券、一般金融、銀行、信託、無盡、外國爲替及有價證券割賦販賣ニ關スル事務ヲ管理シ北海道地方費府縣市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス

第二條 大藏省專任書記官ハ十六人ヲ以テ定員トス

第三條 大藏省ニ左ノ五局ヲ置ク

- 主 計 局
- 主 稅 局
- 理 財 局
- 銀 行 局
- 爲 替 局

第四條 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 總豫算總決算ニ關スル事項
- 二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
- 三 金錢及物品會計ノ統一ニ關スル事項

第八類 雜件 大藏省官制

- 四 支拂豫算ニ關スル事項
 - 五 出納官吏及出納員ノ監督ニ關スル事項
 - 六 收入支出ノ科目ニ關スル事項
 - 七 勅令ヲ以テ指定シタル費途ノ流用ニ關スル事項
 - 八 豫備金支出ニ關スル事項
 - 九 會計法第十條ニ規定スル翌年度ニ互ル契約ニ關スル事項
 - 十 年度開始前支出及定額繰越ニ關スル事項
 - 十一 主計簿ノ登記ニ關スル事項
 - 十二 北海道地方費府縣市町村其ノ他公共組合ノ歲計ニ關スル事項
- 第五條 主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
 - 二 稅務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 三 民有地地種目變換ニ關スル事項
 - 四 土地臺帳ニ關スル事項
 - 五 大藏省所管稅外諸收入ニ關スル事項
 - 六 北海道地方費府縣市町村其ノ他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項
 - 七 關稅噸稅ノ賦課徵收及稅關諸收入ニ關スル事項
 - 八 關稅行政ノ管理監督ニ關スル事項
 - 九 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項

- 十 保稅倉庫(稅關假置場)及稅關倉庫ノ管理監督ニ關スル事項
- 十一 外國貿易ノ狀況及關稅率ノ調査ニ關スル事項

第六條 理財局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 國資ノ運用出納ニ關スル事項
 - 二 國庫金ノ出納管理ニ關スル事項
 - 三 貨幣ニ關スル事項
 - 四 一般金融ニ關スル事項
 - 五 國債ニ關スル事項
 - 六 罹災救助資金ニ關スル事項
 - 七 保管金及政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ニ關スル事項
 - 八 諸祿ニ關スル事項
 - 九 北海道地方費府縣市町村其ノ他公共組合ノ公債ニ關スル事項
- 第六條ノ二 銀行局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 特別法令ニ依リ設立セラレタル銀行ニ關スル事項
 - 二 普通銀行ニ關スル事項
 - 三 貯蓄銀行ニ關スル事項
 - 四 信託ニ關スル事項
 - 五 無盡ニ關スル事項
 - 六 産業組合中央金庫及信用組合ニ關スル事項

- 七 商工組合中央金庫ニ關スル事項
- 八 有價證券割賦販賣ニ關スル事項
- 九 紙幣類似證券ニ關スル事項
- 十 銀行ニ關係ヲ有スル公益法人ニ關スル事項
- 十一 銀行債券ニ關スル事項
- 十二 銀行ニ對スル補助金及補給金ニ關スル事項
- 第六條ノ三 爲替局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 外國爲替及信用狀ノ取得及處分ニ關スル事項
 - 二 金ノ輸出ノ取締ニ關スル事項
 - 三 外國爲替相場ノ取極ニ關スル事項
 - 四 外貨證券ノ取得及處分ニ關スル事項
 - 五 證券ノ輸出入ニ關スル事項
 - 六 前各號ニ掲グルモノノ外外國爲替管理ニ關スル事項
- 第六條ノ四 大藏省ニ爲替局參與七人以内ヲ置キ爲替局ノ局務ニ參與セシム
 - 爲替局參與ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ
 - 爲替局參與ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ
 - 爲替局參與ハ勅任官ノ待遇トス但シ本官ヲ有スル者ニ付テハ本官ノ受クル待遇ニ依ル
- 第六條ノ五 大藏省ニ專任事務官二十九人及專任理事官六人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
- 第六條ノ六 大藏省ニ專任銀行検査官十七人ヲ置ク奏任トス但シ内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

- 銀行検査官ハ上官ノ命ヲ承ケ金融機關ノ検査監督ヲ掌ル
 - 第六條ノ七 大藏省ニ專任爲替管理官二人ヲ置ク奏任トス
 - 爲替管理官ハ上官ノ命ヲ承ケ外國爲替管理法ニ基ク検査其ノ他ノ管理事務ヲ掌ル
 - 第七條 大藏省ニ專任技師五人ヲ置ク奏任トス但シ内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
 - 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
 - 第八條 大藏省ニ專任技師二十人ヲ置ク技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス
 - 第九條 大藏省專任屬ハ三百四十三人ヲ以テ定員トス
 - 第九條ノ二 大藏省ニ專任銀行検査官補四十六人ヲ置ク判任トス
 - 銀行検査官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ金融機關ノ検査監督ニ従事ス
 - 第九條ノ三 大藏省ニ專任爲替管理官補四人ヲ置ク判任トス
 - 爲替管理官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ外國爲替管理法ニ基ク検査其ノ他ノ管理事務ニ従事ス
- 附則
- 第十條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

●大藏省分課規程(國債課ノ部抜抄)

改正沿革(略)

- 第三條 國債課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國債ノ募集、借入及償還ニ關スルコト
 - 二 國債簿ノ登記及國債計算書ノ調製ニ關スルコト

第八類 雜件 大藏省分課規程

大正十三年十二月二十二日 官報

- 三 國債整理基金及公債金特別會計ノ經理ニ關スルコト
- 四 國債利子及國債雜費ノ支拂ニ關スルコト
- 五 國債證券、大藏省證券及借入金證書ノ取扱ニ關スルコト
- 六 家祿賞典祿處分ニ關スルコト

●國債募集、賣出、買上及元利金支拂郵便振替貯金

特別取扱規則

大正八年六月三十日
逓信省令第六十七號

改正 (一) 大正九年七月九日
逓信省令第六十九號

(二) 大正九年十月二日
逓信省令第九十五號

(三) 大正十五年四月一日
逓信省令第九號

(四) 昭和七年十二月十五日
逓信省令第六十號

(五) 昭和十二年十二月六日
逓信省令第一百七號

國債募集、賣出及元利金支拂郵便振替貯金特別取扱規則左ノ通定ム

國債募集、賣出、買上及元利金支拂郵便振替貯金特別取扱規則(五)

- 第一條 郵便官署ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ國債ノ募集、賣出、買上及元利金支拂ニ付郵便振替貯金ノ特別取扱ヲ爲ス(五)
- 第二條 本規則ニ依リ郵便官署ニ於テ國債募集ノ特別取扱ヲ爲ス場合ハ其ノ都度告示ス
- 第三條 本規則ニ依リ郵便官署ニ於テ國債募集ノ特別取扱ヲ爲ス場合ニ於テハ日本銀行ハ申込書用紙ヲ各逓信局ニ送付スヘシ
- 第四條 國債ノ應募申込ヲ爲サムトスル者ハ規定ノ申込書二通ニ保證金ノ提供ヲ要スルモノニ在リテハ保證金ヲ添ヘ之ヲ郵便局ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ
- 第五條 前條ノ應募申込ニ對シ募入ノ決定ヲ爲シタルトキハ郵便局ニ於テ應募者ニ之ヲ通知ス
- 第六條 應募者第二期以降ノ拂込金ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ曩ニ應募申込ヲ爲シタル郵便局ニ拂込金ヲ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テ拂込期限ヲ經過シタルモノハ郵便局ニ於テ之ヲ受理セス申込書ハ之ヲ最寄日本銀行本支店、代理店又ハ派出所ニ之ヲ送付シ其ノ旨ヲ應募者ニ通知ス

第八條 應募者募入外レ保證金ノ還付ヲ受ケムトスルトキハ第四條ニ依リ郵便局ニ差出シタル申込書ニ金額、年月日及受領ノ旨ヲ記載シ記名調印ノ上現金ヲ受取ルヘシ

第九條 應募金額ノ拂込ヲ完了シタル應募者ハ證券交付期日ニ曩ニ應募申込ヲ爲シタル郵便局ニ受領證ヲ差出シ證券ヲ受取ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ交付期日後七日ヲ過クルモ證券交付ノ申出ナキトキハ郵便官署ハ證券ヲ日本銀行ニ還付ス

第十條 本規則ニ依リ郵便官署ニ於テ國債賣出ノ特別取扱ヲ爲ス場合ハ其ノ都度告示ス

第十一條 本規則ニ依リ郵便官署ニ於テ國債賣出ノ特別取扱ヲ爲ス場合ニ於テハ日本銀行ハ國債證券ヲ各逓信局ニ送付スヘシ

第十二條 賣出ニ係ル國債證券ノ購買ヲ爲サムトスル者ハ購買代金ヲ郵便局ニ差出シ證券ヲ受取ルヘシ

第十三條 本規則ニ依リ郵便官署ニ於テ受入ニ係ル保證金、拂込金及賣渡代金並還付保證金ハ貯金局ニ於テ本規則ニ依リ特別取扱ノ爲ニスル日本銀行ノ郵便振替貯金口座ニ對シ受入又ハ拂出ノ手續ヲ爲ス(一)

第十四條 日本銀行ハ國債ノ買上及元利金支拂ニ要スル基金ヲ其ノ郵便振替貯金口座ニ拂込ムヘシ(五)

前項ノ基金額ハ逓信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十四條ノ二 本規則ニ依リ郵便官署ニ於テ買上ノ特別取扱ヲ爲ス國債證券ノ種類、買上ノ限度及取扱郵便局ハ別ニ之ヲ告示ス(五追加)

第八類 雜件 國債募集、賣出、買上及元利金支拂郵便振替貯金特別取扱規則

前項ニ依リ買上ヲ爲シタル證券ハ逓信局ニ於テ之ヲ整理シタル上日本銀行ニ送付シ其ノ代リ金ハ貯金局ニ於テ日本銀行ノ郵便振替貯金ヨリ控除ス(五追加)

第十四條ノ四 本規則ニ依リ郵便官署ニ於テ買上ノ特別取扱ヲ爲ス國債證券ノ價格ハ取扱郵便局ニ之ヲ揭示ス(五追加)

第十五條 無記名内國債證券又ハ其ノ利札ノ持參人ハ最寄郵便局ニ就キ支拂期ノ開始セル國債元利金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ國債證券ノ元金ト共ニ日割又ハ月割利子ノ支拂ヲ請求スルモノナルトキハ請求人ニ於テ當該證券ノ裏面ニ其ノ受領スヘキ金額及受領ノ旨並住所氏名ヲ記載調印スヘシ(三、四)

資本利子税ヲ課セラレサル者前項ニ依リ利札又ハ日割若ハ月割利子ノ支拂ヲ請求セムトスル場合ハ豫メ支拂ヲ受クヘキ郵便局ヲ定メ其ノ名稱及印鑑ヲ當該郵便局ニ届出ツヘシ

前項ニ依リ届出ヲ爲シタル者第一項ニ定ムル利札又ハ日割若ハ月割利子ノ支拂ヲ受ケムトスルトキハ其ノ都度證券ノ額面金額、記號番號、利札ノ枚數及金額並住所名義等ヲ記載調印シタル免稅取扱請求書ヲ前項ノ郵便局ニ提出スヘシ

第十六條 登録國債ノ記名者又ハ其ノ權利ヲ行使スル者ハ其ノ豫メ指定シタル郵便局ニ就キ支拂期ノ開始セル國債元利金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ甲種登録國債ニ在リテハ國債ノ種類、登録ノ記號番號、元金又ハ利子ノ區別、金額、償還又ハ利子支拂期日、受領年月日及受領ノ旨並住所氏名ヲ記載調印シタル領收證書ヲ又乙種登録國債ニ在リテハ郵便局ノ提供スル支拂通知書ニ記名調印ノ上之ニ證券又ハ利札ヲ添ヘ差出スヘシ

第十七條 郵便局ニ於テ前二條ノ請求ヲ受ケタルトキハ調査ノ上國債證券、利札、領收證書又ハ支拂通知書ト引換ニ元利金ノ支拂ヲ爲シ其ノ證トシテ之ニ日附印ヲ押捺ス(二)

前項ニ依リ支拂ヲ爲シタル國債證券、利札、領收證書及支拂通知書ハ逓信局ニ於テ之ヲ整理シタル上日本銀行ニ送付シ其ノ代リ金ハ貯金局ニ於テ日本銀行ノ郵便振替貯金ヨリ控除ス(一、三)

第十八條 本規則ノ特別取扱ニ關スル料金ハ逓信大臣ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ料金ハ逓信大臣ニ於テ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外日本銀行ノ郵便振替貯金ヨリ之ヲ控除徴收ス

第十九條 本規則ニ依リ特別取扱ヲ爲ス日本銀行ノ郵便振替貯金口座ニ對シテハ一般ノ規定ニ依ル拂込及振替ヲ爲スコトヲ得ス但シ日本銀行自ラ拂込又ハ振替ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 本規則ニ依ル特別取扱ニ關シテハ前各條ニ規定シタルモノノ外郵便振替貯金規則ノ定ムル所ニ依ル(五追加)

附則

本令ハ大正八年七月十一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便官署國債募集取扱規則ハ之ヲ廢止ス

○大正九年逓信省令第六十九號附則

本令ハ大正九年七月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○大正九年逓信省令第九十五號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十五年逓信省令第九號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和七年逓信省令第六十號附則

本令ハ昭和七年十二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十二年逓信省令第十七號附則

本令ハ昭和十二年十二月十一日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便官署ニ於テ買上グル國債證券ノ種類

限度等

昭和十二年十二月六日
逓信省告示第三千九百九號

國債募集、賣出、買上及元利金支拂郵便振替貯金特別取扱規則第十四條ノニ依リ郵便官署ニ於テ買上ノ特別取扱ヲ爲ス國債證券ノ種類、買上ノ限度及取扱郵便局ハ左ノ如シ

一 國債證券ノ種類 無記名ニシテ「郵便局賣出」ノ表示アル國債證券但シ賣出期間終了ノ日ヨリ十日ヲ經過シタルモノニ限ル

一 買上ノ限度 一人一日額面金額五百圓迄

一 取扱郵便局 郵便集配事務ヲ取扱フ郵便局但シ交通不便ノ島嶼ニ在ル郵便局ヲ除ク

●郵便貯金規則(抜抄)

明治三十八年五月十八日
逓信省令第三十六號

改正沿革(略)(但シ昭和十三年二月二十八日
逓信省令第十四號改正分迄採録濟)

郵便貯金規則左ノ通定ム

第四章 證券購入保管及賣却

第一節 通則

第八十四條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入保管スヘキ證券ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス

第八十五條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入シ又ハ賣却スル證券ノ價格ハ逓信大臣大藏大臣ト協議シ時價ヲ參

酌シテ之ヲ定ム但シ賣出中ニ係ル國債證券又ハ勸業債券ヲ購入スル場合ハ其ノ發行價格ニ依ル

第八十六條 證券ノ購入、保管及賣却ニ關スル料金左ノ如シ

一 證券ノ購入又ハ賣却料金

五 圓 券	一枚ニ付	十 錢
十 圓 券	一枚ニ付	十 錢
十五 圓 券	一枚ニ付	十五 錢
二十 圓 券	一枚ニ付	二十 錢
二十五 圓 券	一枚ニ付	二十 錢
五十 圓 券	一枚ニ付	三十 錢
百 圓 券	一枚ニ付	四十 錢
五百 圓 券	一枚ニ付	一 圓
千 圓 券	一枚ニ付	一圓八十錢

額面千圓以上ノ債券ニ對シテハ千圓迄ヲ加フル毎ニ一圓五十錢ヲ加フ

二 證券保管料金

イ 預ケ人ノ貯金ヲ以テ證券ヲ購入シ之ヲ保管スル場合ハ保管ノ時ヨリ遞次利子渡期ニ於テ證券一枚ニ付一錢ヲ徵收ス
保管ニ係ル證券ノ割増金ニシテ國債證券ヲ以テ交付セラレタルモノヲ保管スル場合亦同シ

ロ 預ケ人ノ所有ニ係ル證券ヲ保管スル場合ハ前號ノ規定ニ依ルノ外其ノ保管請求ノ際第一號ト同額ノ料金ヲ徵收ス

第八十六條ノ二 證券保管料金ハ保管請求ノ際納付ヲ要スルモノヲ除クノ外當該證券利子渡期ニ於テ其ノ利子金又ハ預ケ人ノ貯金ヨリ控除徵收ス

第八類 雜件

郵便官署ニ於テ買上グル國債證券ノ種類限度等 郵便貯金規則

第八十七條 郵便官署ニ於テ購入スル證券ノ代金ハ預ケ人ノ貯金ヨリ拂出しシ保管ニ係ル證券ノ利子、償還金、割増金及据置貯金若ハ月掛貯金預ケ人ノ請求ニ係ル證券賣却代金ハ預ケ人ノ貯金ニ組入レ据置貯金及月掛貯金以外ノ貯金預ケ人ノ請求ニ係ル證券賣却代金ハ預ケ人ニ之カ拂渡ヲ爲ス但シ割増金ニシテ國債證券ヲ以テ交付セラレタルモノニ付テハ當該證券ヲ保管ス

貯金ニ組入レタル證券利子ハ預ケ人ヨリ元加利子ノ記入又ハ檢閲ヲ受クル爲通帳ヲ提出シタルトキ貯金原簿所管廳ニ於テ之ヲ通帳ニ記入ス

第八十七條ノ二 保管ニ係ル證券ノ利札盡キタル場合ニ於テハ郵便官署ハ當該證券ニ關スル規定ニ從ヒ利札ノ繼足又ハ新證券ノ交付ヲ受ケ之ヲ保管ス

第八十八條 貯金預ケ人貯金ノ全部拂戻ヲ請求スルトキ若ハ貯金讓渡ノ場合ニ於テ貯金ニ屬スル證券ノ讓渡ヲ爲ササルモノナルトキハ同時ニ郵便官署ニ於テ保管ニ係ル證券ノ交付ヲ請求スヘシ

第八十九條 貯金預ケ人ハ其ノ所有ニ係ル證券ノ保管ヲ郵便官署ニ請求スルトコトヲ得
前項ニ依ル保管證券ハ貯金ヲ以テ購入シタルモノト看做シ之ヲ取扱フ

第九十條 所得稅及資本利子稅ヲ課セラレサル者本章ノ規定ニ依リ新ニ證券ノ購入又ハ保管ヲ請求スルトキハ其ノ請求書ニ相當證明書ヲ添付スヘシ

第九十條ノ二 (削除)

第九十條ノ三 證券ノ購入、保管、賣却及償還ノ場合ニ於テ通帳ニ其ノ受拂ノ記入ヲ受クヘキ指定郵便局所ノ變更又ハ證券ノ交付ヲ受クヘキ場合ニ於テ其ノ指定交付郵便局所ノ變更ニ關シテハ第七十條ノ規定ヲ準用ス

第九十條ノ四 貯金預ケ人證券ノ購入、保管、交付及賣却ノ請求ヲ爲ス場合ハ其ノ都度當該貯金通帳ヲ郵便局所ニ呈示スヘシ

第二節 證券購入及保管

第九十一條 貯金預ケ人證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券購入請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ尙證券保管通帳ニ依ルモノナルトキハ當該通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出し通帳受領證ヲ受取ルヘシ

貯金預ケ人前項ノ場合ニ於テ賣出中ニ係ル國債證券又ハ勸業債券ノ購入ヲ請求セムトスルモノナルトキハ特ニ其ノ旨ヲ購入請求書ノ餘白ニ附記スヘシ

第九十二條 貯金局ニ於テ證券ヲ購入シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ郵便局所ニ貯金通帳ヲ差出シ之ニ證券代金ニ對スル拂出金ノ記入ヲ受ケタル上證券保管證又ハ證券保管通帳ヲ受取ルヘシ

第九十三條 貯金局ニ於テ貯金預ケ人ノ指定ニ係ル證券ヲ購入シ得サルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第九十四條 貯金預ケ人第八十九條ニ依ル證券ノ保管ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券保管請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ證券ヲ添ヘ尙證券保管通帳ニ依ルモノナルトキハ當該通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出し其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第九十五條 貯金局ニ於テ第八十七條第一項但書及前條ノ證券ヲ受取リタルトキハ證券保管證ヲ調製シ又ハ證券保管通帳ニ相當記入ノ上之ヲ請求人ニ送付ス

第九十六條 貯金局ニ於テ證券ノ償還金及割増金ヲ貯金ニ組入レタルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

貯金預ケ人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ貯金通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ呈示シ之ニ償還金及割増金受入ノ記入ヲ受ケ且當該證券保管證又ハ證券保管通帳ヲ郵便局所ニ差出し一部償還ニ係ル證券保管通帳ニ對シテハ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ
前項一部償還ニ係ル償還保管通帳ニ對シテハ貯金局ニ於テ相當記入ノ上之ヲ預ケ人ニ返付ス

第三節 證券交付及賣却

第九十七條 貯金預ケ人證券ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券交付請求書ヲ調製シ證券保管證又ハ證券保管通帳ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ但シ證券ノ全部交付ヲ請求スルモノナルトキハ請求書右方餘白ニ「全部交付」ノ文字ヲ附記スヘシ

第九十八條 貯金局ニ於テ第九十七條ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求人指定ノ郵便局所ニ證券及交付請求書ヲ送付シ且其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス此ノ場合ニ於テ證券保管通帳ニ依ル一部交付ノモノナルトキハ通帳ニ相當記入ノ上之ヲ證券及交付請求書ト共ニ送付ス

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ郵便局所ニ於テ交付請求書ニ受領證印ノ上證券ノ交付ヲ受ケ尙證券保管通帳アルモノハ之ヲ受取ルヘシ

第九十九條 貯金預ケ人證券ノ賣却ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券賣却請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ證券保管證又ハ證券保管通帳ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ但シ證券ノ全部賣却ヲ請求スルモノナルトキハ請求書右方餘白ニ「全部賣却」ノ文字ヲ附記スヘシ

第一百條 貯金局ニ於テ据置貯金又ハ月掛貯金預ケ人ノ請求ニ依リ證券ヲ賣却シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知シ尙證券保管通帳ニ依ル一部賣却ノモノナルトキハ通帳ニ相當記入ノ上之ヲ請求人指定ノ郵便局所ニ送付ス

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ貯金通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ呈示シ之ニ賣却代金受入ノ記入ヲ受ケ尙證券保管通帳アルモノハ之ヲ受取ルヘシ

第一百條ノ二 貯金局ニ於テ据置貯金及月掛貯金以外ノ貯金預ケ人ノ請求ニ依リ證券ヲ賣却シタルトキハ其ノ賣却代金ニ相當スル貯金拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達シ賣却請求書ハ之ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス此ノ場合ニ於テ證券保管通帳ニ依ル一部賣却ノモノナルトキハ通帳ニ相當記入ノ上之ヲ賣却請求書ト共ニ送付ス

請求人前項貯金拂戻證書ノ送達ヲ受ケタルトキハ其ノ證書ニ受領證印ノ上之ヲ拂渡郵便局所ニ差出シ現金ノ交付ヲ受ケ尙證券保管通帳アルモノハ之ヲ受取ルヘシ

附則

第一百四十一條 本規則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

●郵便貯金規則ニ依リ郵便官署ニ於テ購入及保管スヘキ證券ノ種類

大正十三年九月十二日
逓信省告示第千二百八十七號

改正沿革(略) (但シ昭和十二年十二月十三日
逓信省告示第千四百九十九號改正分迄採録)

郵便貯金規則ニ依リ郵便官署ニ於テ購入及保管スヘキ證券ノ種類ハ左ノ通トス但シ無記名ニシテ拂込金完済ノモノニ限ル

一 預ケ人ノ貯金ヲ以テ購入保管スルモノ

各種内國債證券 (賣出中ノモノヲ含ム)

勸業債券 (日本勸業銀行ニ於テ賣出中ノモノヲ含ムモ大正十年法律第八十號ニ依リ勸業債券ト看做サレタル

舊農工債券ヲ含マス)

北海道拓殖債券

興業債券

復興貯蓄債券

貯蓄債券 (賣出中ノモノヲ含ム)

第八類 雜件 郵便貯金規則ニ依リ郵便官署ニ於テ購入及保管スヘキ證券ノ種類

二 預ケ人ノ所有ニ係ル證券ヲ保管スルモノ

各種内國債證券

勸業債券 (割増金附ノモノニシテ當該債券ニ對スル第一回抽籤月末日ヲ經過セサルモノ及大正十年法律第八十號ニ依リ勸業債券ト看做サレタル舊農工債券ヲ含マス)

北海道拓殖債券

興業債券

復興貯蓄債券

貯蓄債券

本告示ハ大正十三年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年六月遞信省告示第三百八十八號及大正十二年十一月遞信省告示第千六百七十八號ハ之ヲ廢止ス

●郵便局賣出國庫債券等ノ購入保管料金ノ件

昭和十三年五月二十七日
遞信省令第四十六號

郵便官署ニ於テ郵便貯金預ケ人ノ請求ニ依リ其ノ貯金ノ一部ヲ以テ郵便局賣出ノ表示アル國庫債券又ハ臨時資金調整法ニ依リ發行セラレタル貯蓄債券ヲ購入保管スル場合ハ當分ノ内左ノ料金ヲ徵收ス貯金預ケ人ノ所有ニ係ル此等ノ債券ヲ保管スル場合亦同ジ

一 國庫債券 一枚ニ付 十錢

貯蓄債券 一枚ニ付 五錢

二 前號ノ外利子渡期毎ニ債券一枚ニ付一錢

附則

本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便貯金法ヲ臺灣ニ施行ノ件

明治三十八年五月十八日
勸令第百六十五號

朕郵便貯金法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便貯金法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

●郵便貯金法ノ施行ニ關シテハ遞信省令及告示ニ依ルノ件

明治三十八年六月九日
臺灣總督府令第四十號

郵便貯金法ノ施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外遞信省令及告示ニ依ル

●郵便貯金法等關東局ニ準用ノ件

明治三十九年八月三十日
勸令第百二十九號

改正 (一) 明治四十年七月十日 勸令第百五十八號 (二) 大正四年十月二十六日 勸令第百八十七號 (三) 昭和八年七月二十二日 勸令第百九十七號 (四) 昭和九年十二月二十六日 勸令第百九十五號

朕關東都督府ニ於ケル郵便電信及電話ノ業務ニ關シ郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ノ規定ヲ準用スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關東局ニ於ケル郵便ノ業務ニ關シテハ郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法ノ規定ヲ準用ス(一、二、三、四)

附則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大正四年勸令第百八十七號附則

第八類 雜件

郵便局賣出國庫債券等ノ購入保管料金ノ件郵便貯金法ヲ臺灣ニ施行ノ件郵便貯金法ノ施行ニ關シテハ遞信省令及告示ニ依ルノ件郵便貯金法等關東局ニ準用ノ件

本令ハ大正四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和九年勅令第三百九十五號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

●明治三十九年勅令第二百二十九號ノ施行ニ關シテハ遞信省令及告示ニ依ルノ件

明治三十九年九月一日
關東都督府令第四號

明治三十九年八月勅令第二百二十九號施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外總テ遞信省令及告示ニ依ル

●郵便貯金法等樺太ニ施行ノ件

明治四十年三月二十九日
勅令第六十四號

朕郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ樺太ニ施行ス

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●明治四十年勅令第六十四號ノ施行ニ關シテハ遞信省令及告示ニ依ルノ件

明治四十年四月一日
樺太廳令第二十八號

明治四十年勅令第六十四號施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外遞信省令及告示ニ依ル

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

●朝鮮ニ施行スル法律ニ關スル件(抜抄)

明治四十三年九月三十日
勅令第四百十二號

朕朝鮮ニ施行スル法律ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
左ニ掲クル法律ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

- 一 (略)
- 一 郵便貯金法
- 一 (略)

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國債募集、賣出、買上及元利金支拂郵便振替貯金特別取扱規則

昭和十二年十二月十日
朝鮮總督府令第九十九號

國債募集、賣出、買上及元利金支拂郵便振替貯金特別取扱規則左ノ通定ム

- 國債募集、賣出、買上及元利金支拂郵便振替貯金特別取扱規則
- 第一條 郵便官署ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ國債ノ募集、賣出、買上及元利金支拂ニ付郵便振替貯金ノ特別取扱ヲ爲ス
- 第二條 本規則ニ依リ郵便官署ニ於テ國債募集ノ特別取扱ヲ爲ス場合ハ其ノ都度之ヲ告示ス
- 第三條 本規則ニ依リ郵便官署ニ於テ國債募集ノ特別取扱ヲ爲ス場合ニ於テハ日本銀行ハ申込書用紙ヲ朝鮮總督府遞信局ニ送付スベシ

第八類 雜件

明治三十九年勅令第二百二十九號ノ施行ノ件 郵便貯金法等 樺太ニ施行
明治四十年勅令第六十四號ノ施行ノ件 朝鮮ニ施行スル法律ノ件 國債募集、賣出、買上及元利金支拂郵便振替貯金規則

第四條 國債ノ應募申込ヲ爲サントスル者ハ規定ノ申込書二通ニ保證金ノ提供ヲ要スルモノニ在リテハ保證金ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルベシ

第五條 前條ノ應募申込ニ對シ募入ノ決定ヲ爲シタルトキハ郵便局所ニ於テ應募者ニ之ヲ通知ス

第六條 應募者第二期以降ノ拂込金ノ拂込ヲ爲サントスルトキハ曩ニ應募申込ヲ爲シタル郵便局所ニ拂込金ヲ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルベシ

第七條 前條ノ場合ニ於テ拂込期限ヲ經過シタルモノハ郵便局所ニ於テ之ヲ受理セズ申込書ハ之ヲ日本銀行ニ送付シ其ノ旨ヲ應募者ニ通知ス

第八條 應募者募入外レ保證金ノ還付ヲ受ケントスルトキハ第四條ノ規定ニ依リ郵便局所ニ差出シタル申込書ニ金額、年月日及受領ノ旨ヲ記載シ記名調印ノ上現金ヲ受取ルベシ

第九條 應募金額ノ拂込ヲ完了シタル應募者ハ證券交付期日ニ曩ニ應募申込ヲ爲シタル郵便局所ニ受領證ヲ差出シ證券ヲ受取ルベシ

前項ノ場合ニ於テ交付期日後七日ヲ過グルモ證券交付ノ申出ナキトキハ郵便官署ハ證券ヲ日本銀行ニ還付ス

第十條 本規則ニ依リ郵便官署ニ於テ國債賣出ノ特別取扱ヲ爲ス場合ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第十一條 本規則ニ依リ郵便官署ニ於テ國債賣出ノ特別取扱ヲ爲ス場合ニ於テハ日本銀行ハ國債證券ヲ朝鮮總督府遞信局ニ送付スベシ

第十二條 賣出ニ係ル國債證券ノ購買ヲ爲サントスル者ハ購買代金ヲ郵便局所ニ差出シ證券ヲ受取ルベシ

第十三條 本規則ニ依リ郵便局所ニ於テ受入ニ係ル保證金、拂込金及賣渡代金並ニ還付シタル保證金ハ京城貯金管理所ニ於テ本規則ニ依リ特別取扱ヲ爲ニスル日本銀行ノ郵便振替貯金口座ニ對シ受入又ハ拂出ノ手續ヲ爲ス

第十四條 日本銀行ハ國債ノ買上及元利金支拂ニ要スル基金ヲ其ノ郵便振替貯金口座ニ拂込ムベシ

前項ノ基金額ハ朝鮮總督府遞信局長ノ定ムル所ニ依ル

第十五條 本規則ニ依リ郵便官署ニ於テ買上ノ特別取扱ヲ爲ス國債證券ノ種類、買上ノ限度及取扱郵便局所ハ別ニ之ヲ告示ス

第十六條 國債證券ノ所持人證券ノ買上ヲ請求セントスルトキハ當該證券ニ證券買上請求書ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スベシ

前項ノ規定ニ依リ買上ヲ爲シタル證券ハ朝鮮總督府貯金管理所ニ於テ之ヲ整理シタル上日本銀行ニ送付シ其ノ代り金ハ京城貯金管理所ニ於テ日本銀行ノ郵便振替貯金ヨリ控除ス

第十七條 本規則ニ依リ郵便官署ニ於テ買上ノ特別取扱ヲ爲ス國債證券ノ價格ハ取扱郵便局所ニ之ヲ揭示ス

第十八條 無記名内國債證券又ハ其ノ利札ノ持參人ハ郵便局所ニ就キ支拂期ノ開始セル國債元利金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ國債證券ノ元金ト共ニ日割又ハ月割利子ノ支拂ヲ請求スルモノナルトキハ請求人ニ於テ當該證券ノ裏面ニ其ノ受領スベキ金額及受領ノ旨並ニ氏名住所(法人ニ在リテハ名稱及主タル事務所ノ所在地以下同ジ)ヲ記載調印スベシ

朝鮮所得稅令第二十條及朝鮮資本利子稅令第五條ノ規定ニ依リ所得稅及資本利子稅ヲ課セラレザル利子ニ付前項ノ規定ニ依リ利札又ハ日割若ハ月割利子ノ支拂ヲ請求セントスル者ハ豫メ支拂ヲ受クベキ郵便局所ヲ定メ當該郵便局所ニ其ノ氏名又ハ名稱及印鑑ヲ届出ツベシ

前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者第一項ノ利札又ハ日割若ハ月割利子ノ支拂ヲ受ケントスルトキハ其ノ都度證券ノ額面金額、記號番號、利札ノ枚數及金額並ニ住所氏名ヲ記載調印シタル免稅取扱請求書ヲ前項ノ郵便局所ニ差出スベシ

第十九條 登錄國債ノ記名者又ハ其ノ權利ヲ行使スル者ハ其ノ豫メ指定シタル郵便局所ニ就キ支拂期ノ開始セル國債元利金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ國債ガ甲種登錄國債ナルトキハ國債ノ種類、登録ノ記號番號、元金又ハ利子ノ區別、金額、償還又ハ利子支拂期日、受領年月日及受領ノ旨並ニ氏名住所ヲ記載調印シタル領收證書ヲ、乙種登錄國債ナルトキハ郵便局所ノ提供スル支拂通知書ニ記名調印ノ上之ニ證券又ハ利札ヲ添ヘ差出スベシ

第二十條 郵便局所ニ於テ前二條ノ請求ヲ受ケタルトキハ國債證券、利札、領收證書又ハ支拂通知書ト引換ニ元利金ノ支拂ヲ爲シ其ノ證トシテ之ニ日附印ヲ押捺ス

前項ノ規定ニ依リ支拂ヲ爲シタル國債證券、利札、領收證書及支拂通知書ハ朝鮮總督府貯金管理所ニ於テ之ヲ整理シタル上日本銀行ニ送付シ其ノ代リ金ハ京城貯金管理所ニ於テ日本銀行ノ郵便振替貯金ヨリ控除ス

第二十一條 本規則ノ特別取扱ニ關スル料金ハ朝鮮總督府遞信局長ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ料金ハ朝鮮總督府遞信局長ニ於テ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外日本銀行ノ郵便振替貯金ヨリ之ヲ控除徵收ス

第二十二條 本規則ニ依リ特別取扱ヲ爲ス日本銀行ノ郵便振替貯金口座ニ對シテハ一般ノ規定ニ依ル拂込及振替ヲ爲スコトヲ得ズ但シ日本銀行自ラ拂込又ハ振替ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 本規則ニ依ル特別取扱ニ關シテハ前各條ニ規定シタルモノヲ除クノ外郵便振替貯金規則ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ昭和十二年十二月十一日ヨリ之ヲ施行ス

國債募集、賣出及元利金支拂郵便振替貯金特別取扱規則ハ之ヲ廢止ス

●南洋廳ニ於ケル郵便及電信ノ業務ニ關スル件

大正十一年三月三十一日 勅令第三百三十五號

朕南洋廳ニ於ケル郵便及電信ノ業務ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

南洋廳ニ於ケル郵便及電信ノ業務ニ關シテハ郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法、電信法、無線電信法及海

底電信線保護萬國聯合條約罰則ニ依ル但シ此等ノ法律中主務大臣トアルハ南洋廳長官トス

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●大正十一年勅令第三百三十五號ノ施行ニ關シテハ遞信省令及告示ヲ準用ノ件

大正十一年四月一日 南洋廳令第六號

大正十一年勅令第三百三十五號ノ施行ニ關シ遞信省令及告示準用ニ關スル件左ノ通定ム

大正十一年勅令第三百三十五號ノ施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外遞信省令及同告示ヲ準用ス

前項ノ省令及告示中遞信大臣又ハ遞信局長ノ職務ハ南洋廳長官之ヲ行フ

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●滿洲國ニ於ケル治外法權ノ撤廢及南滿洲鐵道附屬地行政權ノ移讓ニ關スル日本國滿洲國間條約附屬協定(乙)(抜抄)

昭和十二年十一月九日 條約第十五號

本日滿洲國ニ於ケル治外法權ノ撤廢及南滿洲鐵道附屬地行政權ノ移讓ニ關スル日本國滿洲國間條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員ハ滿洲國ニ於ケル通信業務及其ノ附帶業務ニ關シ左ノ通協定セリ

第二條

日本國政府ハ其ノ内國制度ニ於ケル取扱ニシテ滿洲國ノ内國制度ニ類似ノ取扱ナキモノ其ノ他特ニ必要アル事務ノ取扱ヲ滿

第八類 雜件

南洋廳ニ於ケル郵便及電信ノ業務ニ關スル件 大正十一年勅令第一三五號ノ施行ノ件 滿洲國ニ於ケル治外法權ノ撤廢等ニ關スル條約附屬協定(乙)

洲國政府ニ委託スルコトヲ得委託セラルベキ事務ノ種類及範圍ハ日滿兩國主管廳間ノ業務協定ヲ以テ之ヲ定ム
(略)

第六條

本協定ハ條約ト同時ニ實施セラルベシ(昭和十二年十二月一日ヨリ實施)

●滿洲國ニ於ケル治外法權ノ撤廢及南滿洲鐵道附屬地行政權ノ移讓ニ關スル日本國滿洲國間條約附屬協定(乙)附屬業務協定(抜抄)

昭和十二年十一月三十日
遞信省告示第三千八百二十號

滿洲國ニ於ケル治外法權ノ撤廢及南滿洲鐵道附屬地行政權ノ移讓ニ關スル日本國滿洲國間條約附屬協定(乙)第四條ノ規定ニ基キ兩國主管廳間ニ左ノ通協定シタリ

第一條

附屬協定(乙)第二條第一項ノ規定ニ依リ日本國政府ガ滿洲國政府ニ委託スル事務左ノ如シ

一、(二)略

三 郵便貯金(振替計算ノ爲ニスルモノ、郵便切手又)及證券保管ノ取扱、國債及債券元利金ノ支拂並ニ年金恩給ノ支給

(略)

第三條

日本國主管廳ハ第一條ノ事務ニ關シ滿洲國主管廳ノ準據スベキ日本國法令ヲ滿洲國主管廳ニ通知スルモノトス將來新ニ制定シ又ハ變更シタル場合亦同ジ

滿洲國主管廳ハ必要アル場合ニハ日本國主管廳ト協議ノ上第一條ノ事務ノ處理ニ付日本國法令ニ定ムル手續ト異ル手續ニ依ルコトヲ得

第十六條

本協定ハ附屬協定(乙)ト同時ニ實施セラルベシ(昭和十二年十二月一日ヨリ實施)

●寄託又ハ供託ニ係ル國債ノ償還元金代リ新公債
交付ニ關スル特別取扱規程

明治四十三年五月七日
大藏省令第二十六號

寄託又ハ供託ニ係ル國債ノ償還元金代リ新公債交付ニ關スル特別取扱規程左ノ通之ヲ定ム

寄託又ハ供託ニ係ル國債ノ償還元金代リ新公債交付ニ關スル特別取扱規程

第一條 金庫ニ寄託又ハ供託シアル國債ノ償還元金代リトシテ新公債ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ金庫所在地ノ取扱銀行ニ於テ仕拂ヲ受タル場合ニ限り本令ノ規定ニ依リ寄託又ハ供託ニ關スル特別ノ取扱ヲ受クルコトヲ得

第二條 政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保トシテ金庫ニ寄託又ハ供託シアル國債ノ償還元金代リトシテ新公債ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ仕拂取扱銀行名、原證券ノ名稱、額面高、額面金額種類、枚數、記號、番號並ニ交付ヲ受ケヘキ新證券ノ名稱及寄託又ハ供託スヘキ新證券ノ額面高ヲ記載シタル當該官廳宛ノ特別取扱請求書二通ヲ作り國債發行ノ規程ニ從ヒ作製シタル取扱銀行宛ノ引受申込書ヲ添ヘ之ヲ當該官廳ニ提出スヘシ

前項特別取扱ノ請求ニ係ル舊證券ノ償還元金ノ額カ新證券ノ發行代金ノ額ニ滿タサル場合ハ取扱銀行ノ通知ニ依リ其ノ不足額ヲ拂込ムヘシ若シ取扱銀行ノ指定シタル期限内ニ其ノ拂込ヲ了ラサルトキハ引受ノ申込ハ其ノ效力ヲ失フ

第三條 當該官廳ニ於テ前條第一項ノ請求書ヲ調査シ其ノ請求ニ應スヘキモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ告知シ同

第八類 雜件

滿洲國ニ於ケル治外法權ノ撤廢等ニ關スル條約附屬業務協定
寄託又ハ供託ニ係ル國債ノ償還元金代リ新公債交付ニ關スル特別取扱規程

時ニ保管證書、送付書ニ對スル領收證書又ハ供託受領證ノ番號、日附、證券ノ額面高及寄託又ハ供託ノ金庫名ヲ記載シタル承認通知書ヲ作り前條ノ請求書^(通)及引受申込書ト共ニ之ヲ取扱銀行ニ送付スヘシ

前項ノ引受申込書ニハ當該官廳ニ於テ其ノ受付年月日ヲ附記スルコトヲ要ス

第四條 取扱銀行ニ於テ前條書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ寄託又ハ供託スヘキ新證券ノ名稱、額面高、額面金額種類、枚數、記號及番號ヲ記載シタル仕譯書ヲ作り之ヲ其ノ證券ニ添ヘ前條ノ承認通知書及特別取扱請求書ト共ニ之ヲ當該金庫ニ送付スヘシ但シ償還元金ノ額カ發行代金ノ額ニ滿タサル場合ニ在リテハ不足金額拂込ノ期限ヲ指定シ之ヲ引受申込人ニ通知シ其ノ拂込アリタル後本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 金庫ニ於テ前條ニ依リ證券及書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ寄託ノモノニ在リテハ保管物變更證書ヲ、供託ノモノニ在リテハ供託物變更證書ヲ作り原證券ト共ニ之ヲ取扱銀行ニ交付スヘシ

前項ノ變更證書ニハ原證券及新證券ノ名稱、額面高、額面金額種類、枚數、記號、番號竝ニ原證券ノ保管證書、送付書ニ對スル領收證書又ハ供託受領證ノ番號、日附、變更ノ事由及年月日ヲ記載シ金庫名ヲ署シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

差押其ノ他ノ事故ニ因リ寄託又ハ供託ノ證券ヲ變更シ難キトキハ金庫ハ其ノ旨ヲ告ケ送付ヲ受ケタル證券及書類ヲ取扱銀行ニ返還スヘシ

第六條 取扱銀行ニ於テ前條第一項ニ依リ證券及書類ノ交付ヲ受ケタルトキハ保管物變更證書又ハ供託物變更證書ヲ當該官廳ニ送付シ償還元金代リ交付ノ新證券ニシテ寄託又ハ供託ノ部分ニ屬セサルモノアルトキハ之ヲ引受申込人ニ交付スヘシ

前條第三項ノ場合ニ於テハ取扱銀行ハ其ノ旨ヲ引受申込人ニ通知シ同時ニ承認通知書及特別取扱請求書ヲ當該官廳ニ返還スヘシ第二條第二項ニ依リ引受ノ申込カ無効ト爲リ又ハ寄託若ハ供託ノ證券カ償還セラルヘキ效力ヲ有セサルモノナルトキ亦同シ

第七條 第二條第一項ニ依リ引受申込書ニ付テハ當該官廳ニ於テ附記シタル受付ノ日ヲ以テ償還ノ請求及引受ノ申込アリタルモノト看做ス

第八條 金庫ニ寄託又ハ供託シアル國債ノ償還元金代リトシテ新公債ノ交付ヲ受ケムトスル者ニシテ其ノ國債證券カ政府ニ對スル擔保ニ非サルトキハ原證券ノ名稱、額面高、額面金額種類、枚數、記號、番號竝ニ交付ヲ受ケヘキ新證券ノ名稱及寄託又ハ供託スヘキ新證券ノ額面高ヲ記載シタル特別取扱請求書ヲ作り證券ノ變更ニ付キ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ經ヘキモノニ在リテハ其ノ認可書、其ノ他ノモノニ在リテハ權利者ノ承諾書ト共ニ之ヲ申込書ニ添ヘ國債發行ノ規程ニ從ヒ引受申込ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ請求書ニハ第三條ノ承認通知書ニ準シタル事項ヲ附記スヘシ但シ前項ノ認可書又ハ承諾書ニ於テ其ノ事項ヲ認め得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 第四條乃至第六條ノ規定ハ前條第一項ノ請求ニ對スル取扱ニ之ヲ準用ス但シ第六條第一項ノ場合ニ於テ保管物變更證書又ハ供託物變更證書ハ特ニ送付先ヲ指定シタルモノハ其ノ指定ニ從ヒ其ノ他ハ之ヲ引受申込人ニ送付スルモノトス同條第二項ニ依ル書類ノ返還ニ付テ亦同シ

第十條 本令ノ規定ニ依リ變更ノ手續ヲ了リタル新證券ノ拂渡ニ付テ保管物取扱規程ニ依リ保管證書ニ裏書ヲ爲スヘキ場合ハ保管物變更證書ノ裏書ヲ以テ之ニ代ヘ之ニ舊證券ノ保管證書ヲ添附スルコトヲ要ス供託物取扱規程ニ依リ供託受領證ニ裏書ヲ爲スヘキ場合亦之ニ準ス

保管物取扱規程第二十條ノ規定ハ保管物變更證書ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●寄託又ハ供託セル國債ノ國債應募拂込現金代用ニ
關スル特別取扱規程

大正十一年五月八日
大藏省令第四十二號

改正(一)昭和十一年八月十五日
大藏省令第二十七號

寄託又ハ供託セル國債ノ國債應募拂込現金代用ニ關スル特別取扱規程左ノ通定ム

寄託又ハ供託セル國債ノ國債應募拂込現金代用ニ關スル特別取扱規程

第一條 法令ノ規定ニ依リ政府ニ對スル保證又ハ擔保トシテ寄託又ハ供託セル國債ヲ以テ國債應募拂込ノ現金ニ代用セムトスル場合ノ特別取扱ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ノ規定ニ依リ國債代用拂込應募ノ申込ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル取扱官廳(供託事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ヲ含ム以下同シ)宛ノ特別取扱請求書一通ニ國債發行ノ規程ニ依リ作製シタル取扱店宛ノ應募申込書ヲ添附シ之ヲ當該官廳ニ提出スヘシ

一 應募ノ申込ヲ爲スヘキ日本銀行本支店名又ハ代理店名

二 代用拂込ノ國債ノ名稱、額面總額、額面金額種類、枚數、記號及番號又ハ登錄金額、登錄ノ記號及番號

三 交付ヲ受クヘキ國債ノ名稱及寄託又ハ供託スヘキ國債ノ額面總額又ハ登錄金額

四 政府保管有價證券受領證書番號又ハ供託番號

國債ノ變更ニ付主務官廳ノ認可又ハ權利者ノ承諾ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ認可書又ハ承諾書ヲ前項ノ特別取扱請求書ニ添附シ且其ノ旨ヲ附記スヘシ

國債ノ額面金額又ハ登錄金額ノ一部ヲ以テ代用拂込ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ前項ノ特別取扱請求書ニ代用ニ充ツヘキ

國債額ヲ記載スヘシ

國債證券代用拂込ノ應募申込書ノ宛名ハ代用スヘキ國債證券ヲ保管スル日本銀行本支店名又ハ代理店名トス

第三條 取扱官廳ハ前條ノ特別取扱請求書ヲ調査シ其ノ請求ニ應スヘキモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ通知シ且特別取扱請求書ニ承認ノ旨及政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ番號ヲ記載シ其ノ一通ヲ應募申込書ト共ニ當該日本銀行ニ送付スヘシ

第四條 日本銀行ハ前條特別取扱ノ請求ニ係ル應募ノ申込ニ對シ募入ノ決定ヲ爲シタルトキハ受託有價證券變更證書ヲ作製シ之ヲ取扱官廳ニ送付スヘシ

受託有價證券變更證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印スヘシ

- 一 代用國債及新規發行國債ノ名稱、額面總額、額面金額種類、枚數、記號及番號又ハ登錄金額、登記ノ記號及番號
- 二 代用國債ノ政府保管有價證券受託證書若ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ番號又ハ供託番號
- 三 變更ノ事由及年月日

應募申込額ノ一部カ割當募入ト爲リタル爲代用國債ヲ減少スヘキ場合ハ日本銀行ニ於テ適宜代用拂込ニ充當スヘキモノヲ指定シ其ノ旨ヲ取扱官廳及應募者ニ通知スヘシ

國債證券代用拂込ノ應募申込ニ對シ割當募入ヲ爲シタルトキ又ハ國債證券ノ額面金額ノ一部ヲ以テ代用拂込ノ申込ヲ爲シタルモノニ對シ募入ノ決定ヲ爲シタルトキハ證券ヲ分割シ代用拂込ニ充テサル證券ノ番號ヲ受託有價證券變更證書ニ記載スヘシ

第五條 國債發行ノ規程ニ依リ應募申込カ募入外ト爲リタルトキ、無効ト爲リタルトキ又ハ寄託若ハ供託ニ係ル國債カ代用ノ效力ヲ有セサルモノナルトキハ日本銀行ハ其ノ事由ヲ明示シ國債應募申込書ヲ應募申込者ニ、特別取扱請求書ヲ取扱官廳ニ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テ第二條第二項ノ認可書又ハ承諾書ハ應募申込者ニ返還スヘシ

第六條 代用拂込ニ對シ交付スヘキ新規發行國債ニシテ代用國債額ヲ超過スルモノアルトキハ日本銀行ハ之ヲ應募者ニ交付スヘシ代用國債ノ代用價額カ拂込金額ニ超過スルモノアルトキ亦同シ
代用國債ノ元金ニ限り代用拂込ヲ認メタル場合ニ於テ償還期日ニ支拂期到來スル利札又ハ償還期日迄ノ端數利子ハ日本銀行之ヲ應募者ニ交付スヘシ(一追加)

第七條 第二條ノ規定ニ依ル特別取扱ノ請求ハ代用國債額ノ限度ニ於テ國債發行ノ規程ニ依リ國債證券ノ引渡ヲ爲シ又ハ登錄國債ノ質權設定ノ登録請求アリタルモノト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十一年大藏省令第二十七號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●寄託又ハ供託セル國債證券附屬利札盡了ノモノノ特別取扱規程

大正十一年十二月一日
大藏省令第五十八號

寄託又ハ供託セル國債證券附屬利札盡了ノモノノ特別取扱規程左ノ通定ム

寄託又ハ供託セル國債證券附屬利札盡了ノモノノ特別取扱規程

第一條 法令ノ規定ニ依リ政府ニ對スル保證又ハ擔保トシテ寄託又ハ供託セル國債證券ニシテ其ノ附屬利札盡了シタルトキハ寄託者又ハ供託者ハ國債規則第十六條ノ定ムル請求書一通ヲ取扱官廳又ハ供託局(供託事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ヲ含ム以

下同シ)ニ提出スヘシ

第二條 取扱官廳又ハ供託局前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ該請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ他ノ一通ト共ニ之ヲ該國債證券ヲ保管スル日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ送付スヘシ但シ政府保管有價證券取扱規程

第二條但書ノ規定ニ依リ保管スル國債證券ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 日本銀行取扱官廳又ハ供託局ヨリ前條ノ請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ該國債證券ヲ新證券ニ引換ノ手續ヲ爲スヘシ但シ該請求書ニシテ利札繼足ニ係ルモノナルトキハ利札繼足ノ手續ヲ爲スモノトス

第四條 日本銀行新證券引換ノ手續ヲ爲シタルトキハ第二條ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル請求書ノ一通ニ引換濟年月日並新證券ノ記號番號等ヲ記入シ之ヲ取扱官廳又ハ供託局ニ送付スヘシ但シ利札繼足ノ手續ヲ爲シタル場合ニ在リテハ其ノ旨ヲ記入スルモノトス

第五條 取扱官廳又ハ供託局日本銀行ヨリ前條ノ請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ必要ナル事項ヲ寄託者又ハ供託者ニ通知スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●供託又ハ寄託セル國債ノ償還金ヲ以テ爲ス代リ國債ノ買入ニ關スル特別取扱規程

昭和十一年五月四日
大藏省令第十二號

供託又ハ寄託セル國債ノ償還金ヲ以テ爲ス代リ國債ノ買入ニ關スル特別取扱規程左ノ通定ム

供託又ハ寄託セル國債ノ償還金ヲ以テ爲ス代リ國債ノ買入ニ關スル特別取扱規程

第八類 雜件 寄託又ハ供託セル國債證券附屬利札盡了ノモノノ特別取扱規程 供託又ハ寄託セル國債ノ償還金ヲ以テ爲ス代リ國債ノ買入ニ關スル特別取扱規程

第一條 法令ノ規定ニ依リ供託シ又ハ政府ニ對スル保證若ハ擔保トシテ寄託セル國債ノ償還セラルル場合差替ノ爲其ノ償還金ヲ以テ該國債ノ借換ノ爲發行セラルル國債ヲ日本銀行ヨリ買入レムトスル者ハ本令ノ定ムル所ニ依リ其ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ政府保管有價證券取扱規程第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ附録様式ノ特別取扱請求書一通ヲ供託局(供託事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ヲ含ム以下同シ)又ハ取扱官廳ニ提出スヘシ但シ左記書類ヲ添付スルコトヲ要ス

一 日本銀行所定ノ國債買受申込書
二 國債ノ變更ニ付主務官廳ノ認可又ハ權利者ノ承諾ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ認可書又ハ承諾書但シ第六條ニ依ル剩餘金ノ處置ヲ認可又ハ承諾スル旨ノ記載アルコトヲ要ス

供託又ハ寄託ニ代用セル甲種登錄國債ニ付前條ノ請求ヲ爲ス場合ニ在リテハ國債ノ變更ヲ認可スル官廳ヲ取扱官廳トス

第三條 供託局又ハ取扱官廳前條ノ特別取扱請求書ヲ調査シ其ノ請求ニ應スヘキモノト認メタルトキハ其ノ一通ニ承認ノ旨竝ニ供託有價證券受託證書(供託事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ニ在リテハ供託書)、政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込済通知書ノ番號ヲ記載シ他ノ一通及添附書類ト共ニ直ニ其ノ償還國債ヲ保管スル日本銀行本店支店又ハ代理店ニ送付スヘシ但シ其ノ償還國債カ甲種登錄國債ナル場合ハ日本銀行本店ニ送付スヘシ

第四條 日本銀行國債賣却ノ決定ヲ爲シタルトキハ償還國債ノ償還ヲ受ケ其ノ償還金ヲ以テ國債賣却代金ニ充當シ國債變更ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ但シ左記各號ノ規定ニ準據スルコトヲ要ス

- 一 特別取扱請求ニ係ル國債證券ヲ保管スル日本銀行代理店ハ請求書記載ノ事項ト自店保管ニ係ル當該國債證券ト照合ノ上承認ノ旨記載シアル請求書及添附書類ヲ所轄日本銀行本店又ハ支店ニ送付シ其ノ決定ヲ請フモノトス但シ臺北、京城、大連代理店及其ノ管下代理店ニ在リテハ日本銀行本店ニ送付シ其ノ決定ヲ請フモノトス
- 二 前號ノ書類ノ送付ヲ受ケタル日本銀行本店又ハ支店カ國債賣却ノ決定ヲ爲シタルトキハ代リ國債證券ヲ當該店ニ送付スヘシ

スヘシ

第五條 日本銀行ニ於テ國債變更ノ手續ヲ了シタルトキハ受託有價證券變更證書又ハ登錄國債變更證書ヲ作製シ之ヲ供託局又ハ取扱官廳ニ送付スヘシ

供託局又ハ取扱官廳前項變更證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ國債變更ノ手續ヲ了シタル旨ヲ請求者ニ通知スヘシ
償還國債ニ付事故アルニ因リ日本銀行ニ於テ國債ノ賣却ヲ爲シ得サリシトキハ其ノ旨ヲ供託局又ハ取扱官廳ニ通知シ供託局又ハ取扱官廳ハ更ニ其ノ旨ヲ請求者ニ通知スヘシ

第六條 日本銀行償還金ヲ賣却代金ニ充當シ剩餘金ヲ生シタルトキハ之ヲ請求者ニ返還スルモノトス

第七條 本令ニ依ル特別取扱ノ請求ハ之ヲ取消スコトヲ得ス
第八條 本令ニ依ル特別取扱請求書ノ供託局又ハ取扱官廳ニ於ケル受付期間ハ其ノ都度大藏大臣之ヲ告示ス
第九條 本令ノ施行ニ必要ナル事項ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノヲ除クノ外ハ日本銀行之ヲ定メ大藏大臣ニ報告スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附録様式ノ一

供託 寄託 國債證券ノ償還金ヲ以テ爲ス代リ國債買入特別取扱請求書 (備考 記名國債證券ノ代リ國債ハ無記名國債證券トス)

一、買入申込先	日本銀行	店
一、償還國債	年 月 日	供託第 號ノ分
(國債名稱)	(總額面)	(總枚數)
額面	圓也	枚

(券面種類)

(記號)

(證券番號)

圓券

號回

番

右國債ハ

年 月

日償還ノ處之カ償還金ヲ以テ右國債借換ノ爲發行セラルル

額面

圓也ヲ

買入右國債ノ代リトシテ直ニ

寄託ノ手續相受度候條特別取扱方御認可相成度別紙國債買受申込書相添へ此段及請求候也

年 月 日

住所

氏

名印

官廳
取扱主任官

殿

右承認ス

年 月 日

官廳
取扱主任官

氏

名印

附錄様式ノ二

供託代用甲種登錄國債ノ償還金ヲ以テ爲ス代リ國債(甲種登錄國債)買入特別取扱請求書

一、買入申込先

日本銀行本店

一、償還國債

(國債名稱)

(登錄記名)

(記號)

(登錄番號)

(登錄金額)

號回

番

金

圓也

右國債ハ

年 月

日償還ノ處之カ償還金ヲ以テ右國債借換ノ爲發行セラルル

額面

圓也ヲ買入

右國債ノ代リトシテ直ニ寄託代用ノ登錄手續相受度候條特別取扱方御認可相成度別紙國債買受申込書相添へ此段及請求候也

追テ買入國債ノ元利金ハ

店(何府縣何郵便局)ニ於テ御支拂相成度候

年 月 日

住所

氏

名印

取扱官廳

殿

右承認ス

年 月 日

取扱官廳

氏

名印

●震災ニ因ル喪失無記名國債證券ニ關スル件

大正十三年七月二十二日
法律第十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル震災ニ因ル喪失無記名國債證券ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 大正十二年九月ノ震災ニ因リ滅失又ハ紛失シタル無記名國債證券ニ對シテハ本法ニ依リ新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ヲ爲スコトヲ得

第二條 震災ノ當時前條ノ證券ヲ所有シ又ハ占有シタル者ハ本法施行後三月内ニ限り喪失國債證券審査會ニ其ノ所有シ又ハ占有シタル證券ノ滅失又ハ紛失ニ付査定ヲ求ムルコトヲ得但シ證券ノ名稱不明ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
本法施行ノ際外國ニ居住スル者ニ付テハ前項ノ期間ハ之ヲ六月トス

第三條 證券滅失ノ査定ヲ受ケタル者ニ對シテハ政府ハ滅失ヲ査定シタル證券ニ相當スル新證券ヲ交付スルコトヲ得

第八類 雜件 震災ニ因ル喪失無記名國債證券ニ關スル件

證券紛失ノ査定ヲ受ケタル者ニ對シテハ政府ハ新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ニ因リテ生スルコトアルヘキ損失ヲ補填スル爲確實ナル擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ立テシメ紛失ヲ査定シタル證券ニ相當スル新證券ヲ交付スルコトヲ得
前項ノ擔保及保證人ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第一項及第二項ノ場合ニ於テ證券ノ記號不明ナルモノニ付テハ同一名稱ノ證券中適宜ノ記號ノモノヲ交付スルコトヲ得
第四條 前條ノ規定ニ依リ新證券ノ交付ヲ爲スヘキ場合ニ於テ滅失又ハ紛失シタル證券ノ償還期到來シタルトキハ政府ハ新證券ノ交付ニ代ヘ元利金ノ支拂ヲ爲ス

第五條 紛失ノ査定ヲ受ケタル證券ノ記號又ハ番號不明ナル場合ニ於テ新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタルトキハ同一名稱ノ新證券ノ交付ヲ受ケ又ハ之ニ代ヘ元利金ノ支拂ヲ受ケタル者ニシテ記號又ハ番號不明ナル舊證券ニ付紛失ノ査定ヲ受ケタルモノノ新證券ノ額面金額又ハ元金額ニ按分シテ其ノ損失ヲ負擔ス

第六條 滅失又ハ紛失シタル同一證券ニ付第二條ノ規定ニ依リ査定ノ請求ニ以上アリタル場合ニ於テハ新證券ノ交付ハ請求者中震災ノ當時舊證券ヲ占有スヘキ權利アリタル者ニ之ヲ爲ス
滅失又ハ紛失シタル證券ニ付存シタル權利ハ新證券ニ付亦之ヲ行フコトヲ得

前二項ノ規定ハ第四條ノ元利金ニ付之ヲ準用ス
第七條 喪失國債證券審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊問其ノ他ノ證據調ヲ爲スコトヲ得
第八條 喪失國債證券審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ宣誓ヲ爲サシメタル上當事者ヲ訊問スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲シタル者虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ヲ受ケタル前喪失國債證券審査會ニ其ノ事實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第九條 喪失國債證券審査會ハ第七條及前條第一項ノ規定ニ依リ證據調ヲ裁判所其ノ他ノ官廳ニ囑託スルコトヲ得

第十條 喪失國債證券審査會ノ組織及證據調其ノ他審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十一條 第一條ノ證券ニシテ震災ノ當時政府ノ保管シタルモノニ付テハ第二條乃至前條ノ規定ニ拘ラス勅令ノ定ムル所ニ依リ新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ヲ爲スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十三年勅令第二百八號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行)

●喪失國債證券審査會審査規則

大正十三年九月十三日
勅令第二百十號

朕喪失國債證券審査會審査規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

喪失國債證券審査會審査規則

第一條 喪失國債證券審査會ハ司法省ニ於テ之ヲ開ク

第二條 無記名國債證券ノ滅失又ハ紛失ノ査定ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル査定請求書ヲ喪失國債證券審査會ニ差出スヘシ

- 一 國債ノ名稱及總金額
 - 二 證券ノ記號及番號並額面金額ノ種類及枚數但シ不明ナルモノニ付テハ其ノ旨
 - 三 請求者カ證券ニ付其ノ滅失又ハ紛失ノ際有シタル權利
 - 四 證券ノ滅失又ハ紛失ニ關スル詳細ノ事情
- 第三條 證據調ニ關シテハ民事訴訟法中證據調ニ關スル規定並民事訴訟費用法第九條及第十一條乃至第十三條ノ規定ヲ準用ス但シ裁判所外ニ於テ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス
- 第四條 民事訴訟法第三百七條第一項及第三百八條ノ規定ハ當事者ノ宣誓ニ付之ヲ準用ス

- 第五條 審査會ハ審査員ヲ指名シ之ヲシテ證據調其ノ他必要ナル調査ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第六條 當事者ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ
- 第七條 非訟事件手續法第十一條、第十二條及第十四條ノ規定ハ審査會ノ審査手續ニ付之ヲ準用ス
- 第八條 請求者ハ査定書ノ交付ヲ受ケタル後一月内ニ審査會ニ對シ再査定ノ請求ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ大正十三年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●喪失國債證券交付規則

大正十三年九月十三日
勅令第二百七號

朕喪失國債證券交付規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

喪失國債證券交付規則

- 第一條 大正十三年法律第十四號第三條第二項ノ擔保ハ現金又ハ國債トシ其ノ額ハ新證券ノ額面金額ト其ノ償還期限ニ至ル迄ノ利息總額トヲ加ヘタル金額ヲ最下限トス但シ擔保提供者ニ於テ擔保トシテ提供シタル現金又ハ國債ヨリ生スル利息ヲ擔保トシテ政府ニ留保スヘキコトヲ認メタルトキハ擔保ノ額ハ新證券ノ額面金額迄之ヲ下スコトヲ得
現金ヲ以テ擔保ト爲ストキハ之ヲ供託スヘシ
- 第二條 大正十三年法律第十四號第三條第二項ノ保證人ハ日本銀行ノ確實ト認メタル者ニ限ル
- 第三條 大正十三年法律第十四號第十一條ニ規定スル證券ニ付テハ之ヲ保管シタル官廳ノ請求ニ因リ喪失國債證券審査會ノ査定ヲ經ス新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ヲ爲ス但シ證券ノ名稱不明ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

大正十三年法律第十四號第三條第四項及第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

本令ハ大正十三年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●喪失國債證券ニ對スル新證券交付手續

大正十三年九月十五日
大藏省令第二十二號

喪失國債證券ニ對スル新證券交付手續左ノ通相定ム

喪失國債證券ニ對スル新證券交付手續

- 第一條 大正十三年法律第十四號第二條ノ規定ニ依リ無記名國債證券ノ滅失又ハ紛失ノ査定ヲ受ケタル者新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ヲ請求セムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載シ且記名捺印シタル請求書ニ印鑑證明、査定書及第二條ノ契約書ヲ添ヘ日本銀行ニ提出スヘシ
 - 一、國債ノ名稱及總金額
 - 二、證券ノ額面金額ノ種類及枚數
 - 三、證券ノ記號及番號
 - 四、證券ノ元金償還期及附屬各利札面ニ記載セル利子支拂期
 - 五、提供スヘキ擔保ノ種類及數量又ハ保證人ノ住所氏名
 - 六、請求年月日
 - 七、請求者ノ住所

前項第二號乃至第四號ノ事項中不明ノモノアルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第二條 新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ヲ請求セムトスル者ハ政府力滅失又ハ紛失ノ査定ヲ受ケタル證券ノ存在ヲ知リタル場合ニハ證券ノ額面金額及支拂期ノ經過シタル利札ノ金額竝既ニ支拂ヒタル元金又ハ利子ニ對スル支拂日以後年五分ニ相當スル金額ヲ直ニ辨償スヘキ旨ヲ約スルコトヲ要ス

第八類 雜件

喪失國債證券交付規則 喪失國債證券ニ對スル新證券交付手續